

**子どもの貧困に係る実態把握と  
支援体制整備のあり方の検討に資する  
基礎調査報告書**

**平成30年1月  
弟子屈町福祉こども課**

白

## 内容

I. 子どもの貧困に係る実態把握のための基礎調査.....	1
1. 子育て世帯実態調査（アンケート調査）.....	1
(1) 調査目的.....	1
(2) 調査対象.....	1
(3) 調査内容.....	1
(4) 調査方法.....	1
(5) 実施期間.....	1
(6) 回収状況.....	2
(7) 集計・分析の留意事項.....	2
2. 子育て世帯実態調査結果に関するグループインタビュー.....	3
(1) 実施目的.....	3
(2) 参加者.....	3
(3) 調査内容.....	3
(4) 実施方法.....	3
II. アンケート調査の主な結果.....	4
1. 家族や子育てに関して（保護者による回答）.....	4
(1) 調査世帯の状況について.....	4
(2) 保護者の就労状況について.....	6
(3) 家族の健康状況について.....	9
(4) 子育てにおける悩みや相談状況について.....	13
(5) 暮らし向きについて.....	16
(6) 母親や父親のこれまでの経験等について.....	25
(7) 子育てに関する支援策等について.....	28
2. お子さんの日頃の生活等に関して（保護者による回答）.....	32
(1) お子さんの性別.....	32
(2) お子さんの健康状況について.....	32
(3) お子さんの日頃の生活について.....	35
(4) お子さんの教育について.....	39
(5) お子さんの持ち物やお子さんのためにしていること.....	44
(6) お子さんに関する制度の利用等について.....	48
3. 生活習慣や将来のこと等に関して（子どもによる回答）.....	60
(1) 回答者について.....	60
(2) 日頃の生活について.....	60
(3) 学校や勉強のことについて.....	68
(4) 将来のことについて.....	74
(5) 町に対する要望.....	77
III. グループインタビューの主な結果.....	81

(1) 町内における貧困状況について .....	81
(2) 町内の子どもの学習・進学等について .....	81
(3) 母親の就労について .....	82
(4) 子育てに関する制度やサービスの利用状況等について .....	82
(5) 日常生活等について .....	82
(6) 居場所について .....	83
IV. 子育て支援体制整備の方向性 .....	84
1. 子育て支援の体制整備を考えるうえで必要な4つの視点 .....	84
2. 子育て支援体制整備に向けた重点課題の整理 .....	85
(1) 教育支援 .....	85
(2) 経済支援 .....	85
(3) 就労支援 .....	85
(4) 生活支援 .....	85
3. 今後の子育て支援体制整備に向けた対応の方向性 .....	86
(1) 第三の居場所づくり .....	86
(2) 情報提供や相談体制の整備 .....	88
(3) 女性が働きやすい環境づくりに向けた企業等の意識改革 .....	90
資料編 .....	91
1. 子育てに関する制度や支援策へのご要望やご意見（保護者による回答） .....	91
2. 学校や社会のことについてのご意見やご要望（子どもによる回答） .....	94

# Ⅰ. 子どもの貧困に係る実態把握のための基礎調査

## 1. 子育て世帯実態調査(アンケート調査)

### (1) 調査目的

本調査は、本町における子育て施策のあり方を検討するため、町内の子育て世帯の日頃の生活や経済状況、子どもの生活環境や学校・家庭での過ごし方等について把握することを目的に実施しました。

### (2) 調査対象

- ・町内の18歳未満のお子さんの保護者
- ・小学5年生から高校3年生までの子ども

### (3) 調査内容

	主な調査項目
保護者	【家族や子育てに関する調査票】 就労状況、健康状況、暮らし向き、収入、学歴 など 【お子さんに関する調査票】 お子さんの健康状況、子育て環境、制度の利用状況 など
子ども	生活習慣、学習・進学、友達や家族との関わり など

### (4) 調査方法

- ・無記名によるアンケート調査
- ・未就学児のみの世帯については郵送により発送・回収とし、それ以外については教育委員会を経由し、学校を通じて配布・回収しました
- ・保護者および子どもが回答した調査票は、記入後、それぞれの回収用封筒に入れ、封を閉じて学校へ提出

### (5) 実施期間

平成29年10月16日(月)～31日(火)

## (6) 回収状況

回答者	調査内容	対象	配布数	回収数 (回収率)	有効回答数 (有効回答率)	マッチング数 <sup>※2</sup> (マッチング率)
保護者	ア) 家族や子育てに関して <sup>※1</sup>	全員	722	450 (62.3%)	442 (61.2%)	
	イ) 小学1～4年生のお子さんに関して	該当する お子さんが	213	178 (83.6%)	176 (82.6%)	173 (98.3%)
	ウ) 小学5年生～中学3年生のお子さんに関して	いる場合のみ	271	206 (76.0%)	202 (74.5%)	200 (99.0%)
	エ) 高校生のお子さんに関して		121	68 (56.2%)	67 (55.4%)	67 (100%)
子ども	オ) 小学5年生～中学3年生	全員	271	211 (77.9%)	208 (76.8%)	195 (93.8%)
	カ) 高校生		121	68 (56.2%)	67 (55.4%)	67 (100%)

※1 ア) の調査票は、未就学児のみの世帯(116世帯)には郵送、未就学児以外のお子さんもいる世帯には、イ)～カ)と同様に学校を通じて配布している。そのため、未就学児以外のお子さんもいる世帯には、ア)の調査票が重複して配布されているが、保護者には1部のみに回答いただいた。なお、ア)の配布数には重複分も含まれている。

※2 マッチング数とは、保護者が回答したア)の調査票と、同一世帯の情報として集計が可能となった数を行い、マッチング率とはそれぞれの有効回答数を母数としてマッチング件数を除した割合をいう。

## (7) 集計・分析の留意事項

- ・本報告書内の図表においては、有効回答数を「N」で表記した。また、クロス集計については、それぞれの項目に対応する合計に有効回答数を表記しています。
- ・図表中の構成比(%)は、小数点第2位以下を四捨五入したものであり、端数処理のため、合計は必ずしも100%にならない場合があります。
- ・各設問は無回答を含むが、特段断りのない設問については、無回答を含めて有効回答数としています。
- ・本報告書においては、内閣府の平成23年度「親と子の生活意識に関する調査」に示される相対的貧困層の基準を参考に、下記に示す世帯収入を下回る回答者からなる集計区分を本報告書における相対的貧困層(以下、貧困層)としています。

世帯人数の区分	相対的貧困層とする世帯収入区分
2人世帯	200万円未満
3～4人世帯	250万円未満
5人以上の世帯	300万円未満

## 2. 子育て世帯実態調査結果に関するグループインタビュー

### (1) 実施目的

弟子屈町子育て世帯実態調査（アンケート）の集計結果の解釈（実際との整合性、結果の背景や理由等）や今後必要とされる支援策等について、現場の担当者・専門家の方から情報を収集することを目的に実施しました。

### (2) 参加者

区分	関連団体	役職	氏名
グループ①	児童相談所	係長	中田 善嗣
	母子家庭等就業自立支援センター	所長	松浦 和則
	未来子ども協議会	会長	目黒 厚子
	厚生保護女性会	会長	横田 幸子
	保育所	園長	松岡 厚子
	発達支援センター	係長	加賀屋 玉美
	保健師	主任	前川 朋子
グループ②	教育委員会指導室	室長	須藤 光秋
	校長会	会長	鳴海 厚
	摩周丘幼稚園	園長	鈴木 幸栄
	民生委員児童委員	主任	宮崎 久美子

### (3) 調査内容

- ・弟子屈町の貧困状況と貧困がもたらす社会的課題
- ・アンケート調査結果全般に関すること

### (4) 実施方法

グループ①、②に分け下記の日程でグループインタビューを実施。

#### ・グループ①

12月19日（火） 14時30分～16時00分

弟子屈町役場 3階 委員会室

#### ・グループ②

12月19日（火） 16時30分～18時30分

弟子屈町役場 3階 委員会室

## II. アンケート調査の主な結果

### 1. 家族や子育てに関して(保護者による回答)

本調査は、町内の0～18歳までのお子さんの保護者を対象に調査を実施しました。

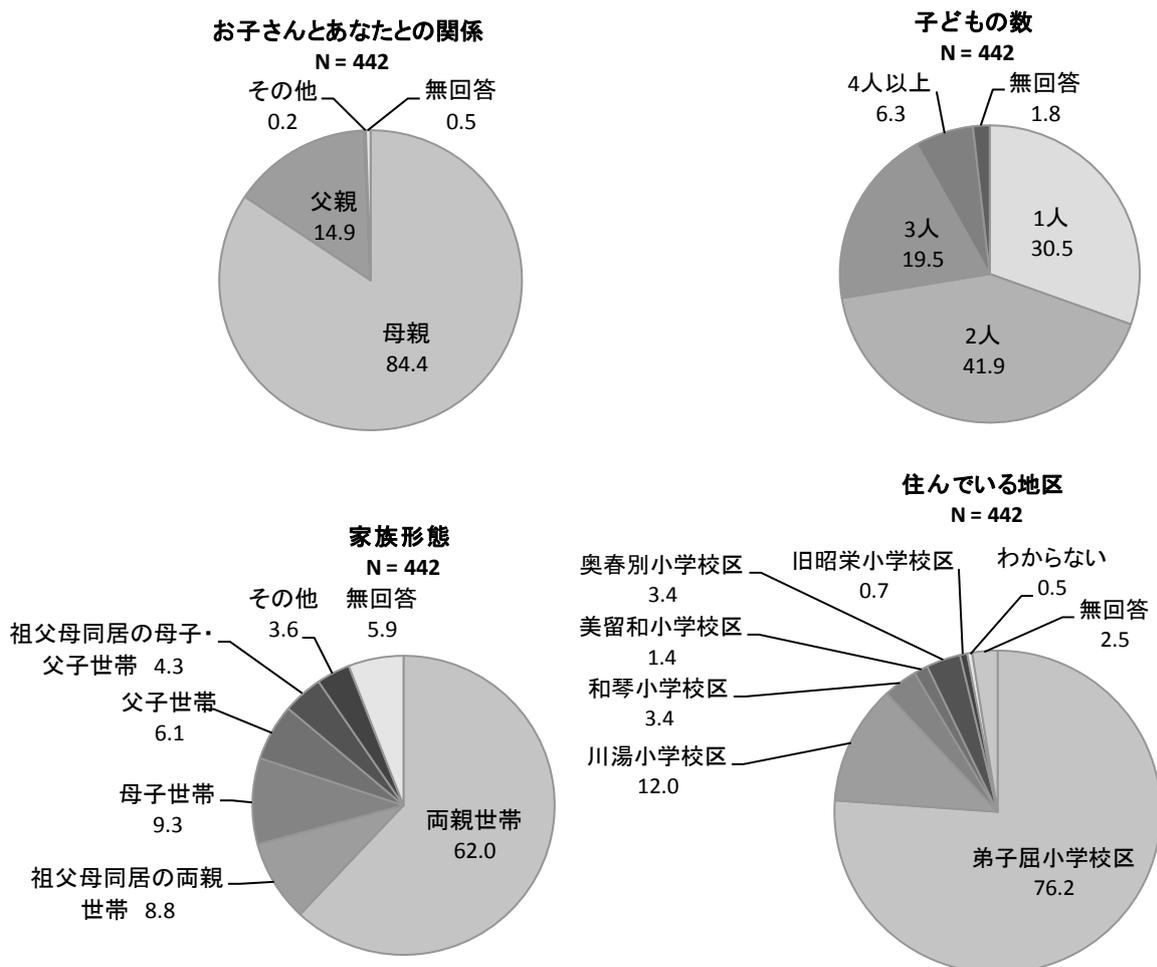
#### (1) 調査世帯の状況について

回答者は、「母親」が84.4%、「父親」が14.9%となっています。

回答者のお子さんの数は、「2人」(41.9%)が最も多く、次いで「1人」(30.5%)、「3人」(19.5%)となっています。

家族形態は、「両親世帯」(62.0%)が最も多く、次いで「祖父母同居の両親世帯」(8.8%)、「母子世帯」(9.3%)となっています。

居住地区は、「弟子屈小学校区」(76.2%)が最も多く、次いで「川湯小学校区」(12.0%)となっています。

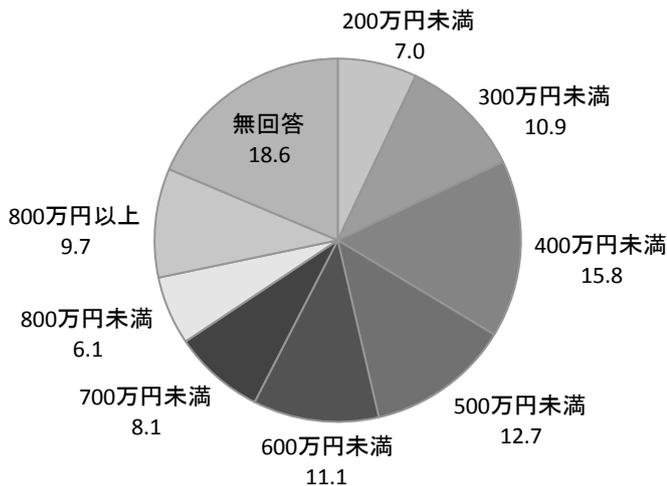


お子さんと生計を共にしている世帯全員の年間収入（公的年金と社会保障給付金以外、税込みの金額）は、400万円未満までの世帯が約3割、400万円～700万円未満の世帯が約3割、700万円以上の世帯が約2割となっています。

直近5年間の年収の傾向は、「ほとんど変化がない」（40.7%）が最も多く、次いで「増加傾向」（26.2%）となっています。

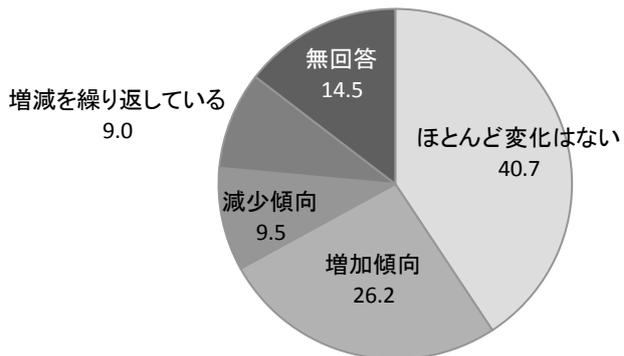
年収（公的年金、社会保障給付金以外）

N = 442

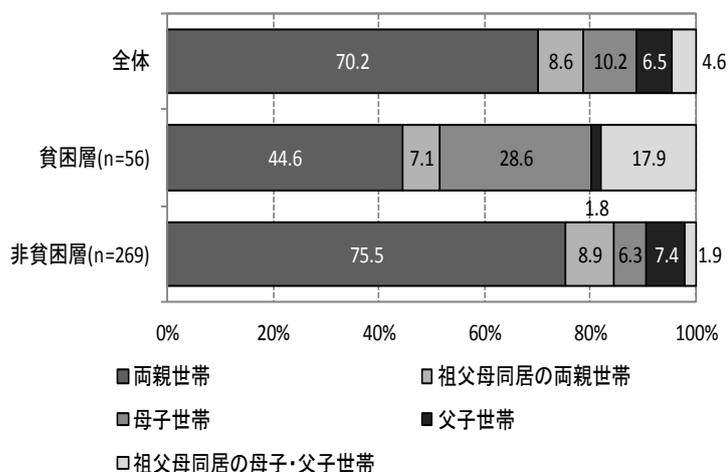
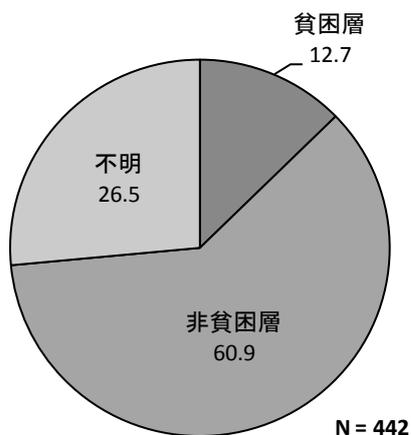


年間収入の直近5年間の傾向

N = 442



貧困の状況についてみると、回答者の12.7%が貧困層に該当しています。また、貧困層に該当する回答者の家族形態は、「母子家庭」や「祖父母同居の母子・父子世帯」が多い傾向にあります。



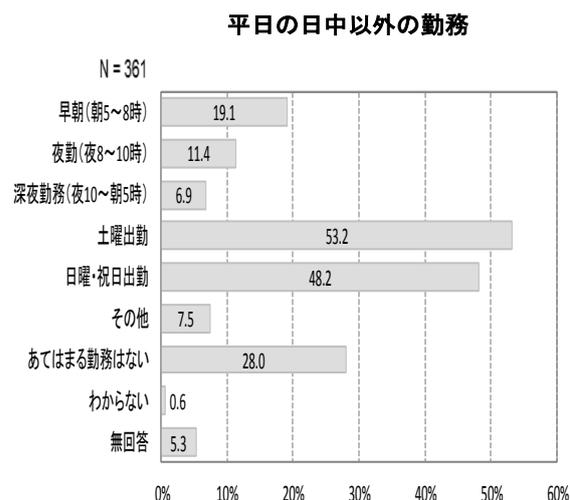
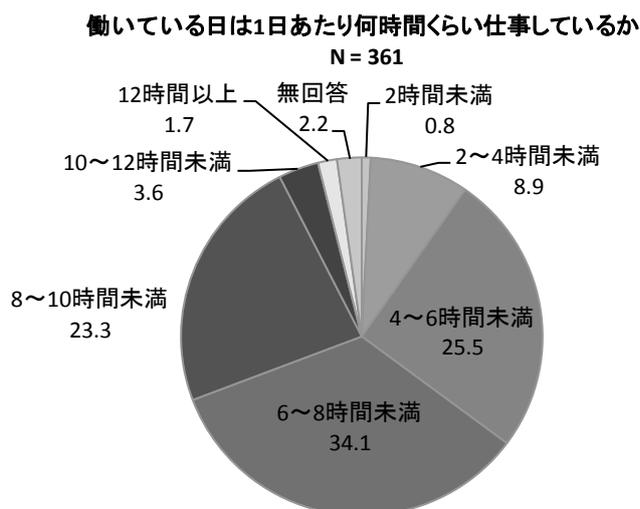
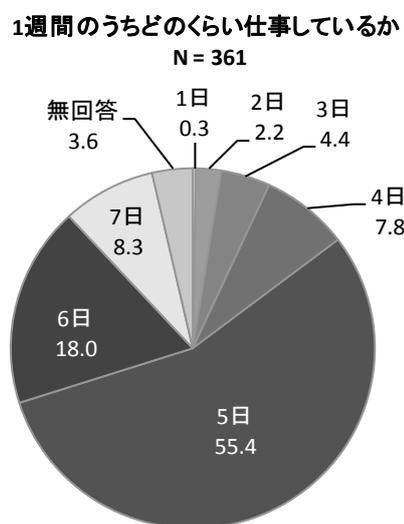
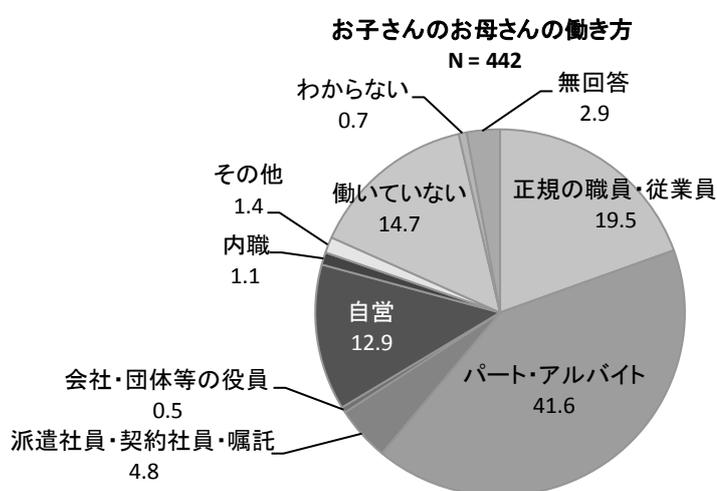
## (2) 保護者の就労状況について

### ① 母親の就労状況

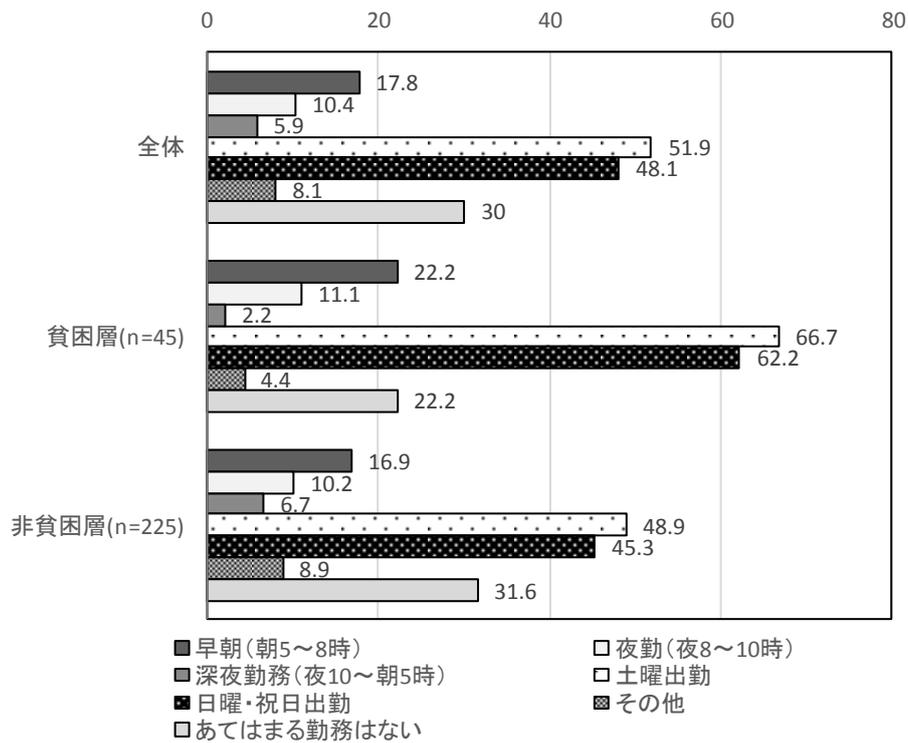
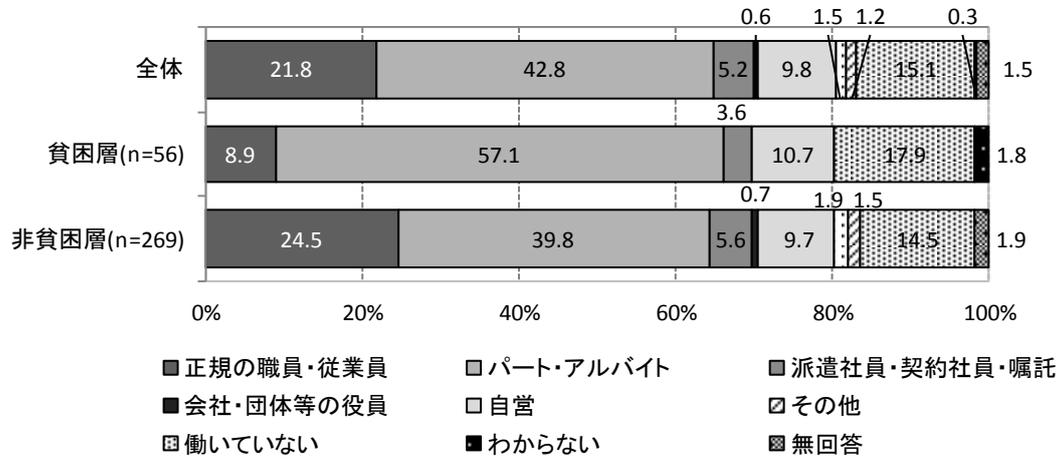
お子さんの母親の就労状況は、「パート・アルバイト」(41.6%)が最も多く、次いで「正規の職員・従業員」(19.5%)、「自営」(12.9%)となっています。

就労している母親の1週間の就労日数は、「5日」(55.4%)が最も多く、次いで「6日」(18.0%)となっています。1日あたりの就労時間は「6～8時間未満」(34.1%)が最も多く、次いで「4～6時間未満」(25.5%)、「8～10時間未満」(23.3%)となっています。

平日の日中以外の勤務は、「土曜出勤」(53.2%)が最も多く、次いで「日曜・祝日出勤」(48.2%)となっています。



貧困層に該当する回答者の母親の就労状況は、「パート・アルバイト」が多く、平日の日中以外の勤務で「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」が多い傾向にあります。

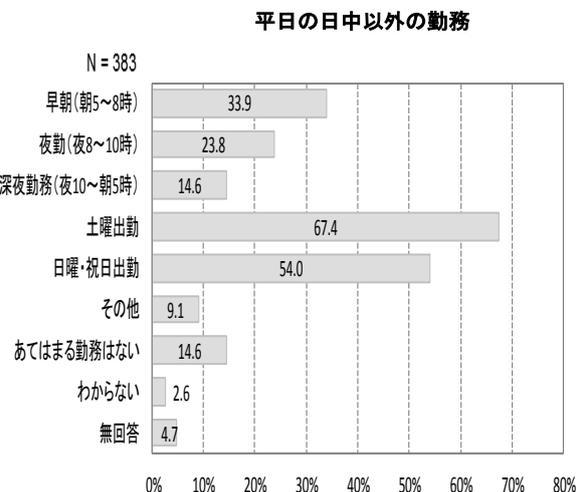
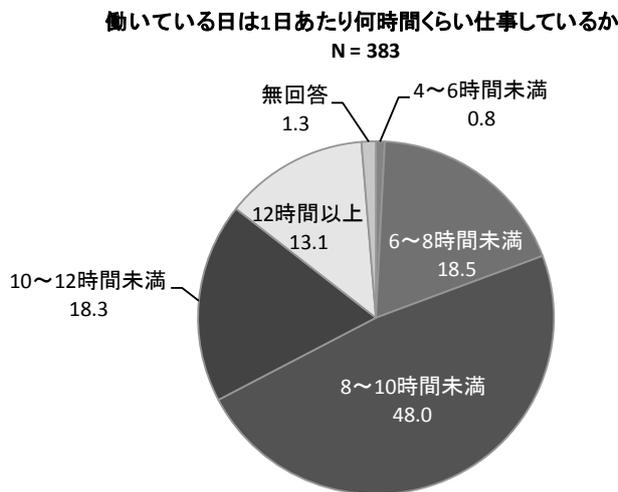
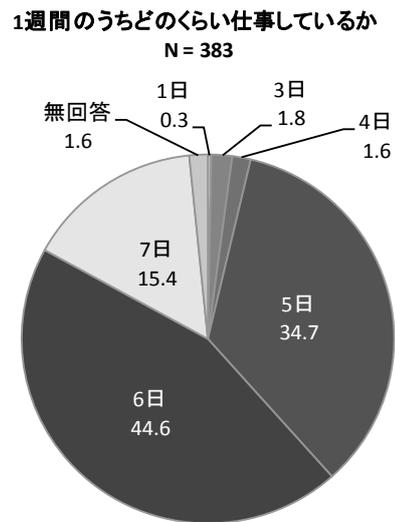
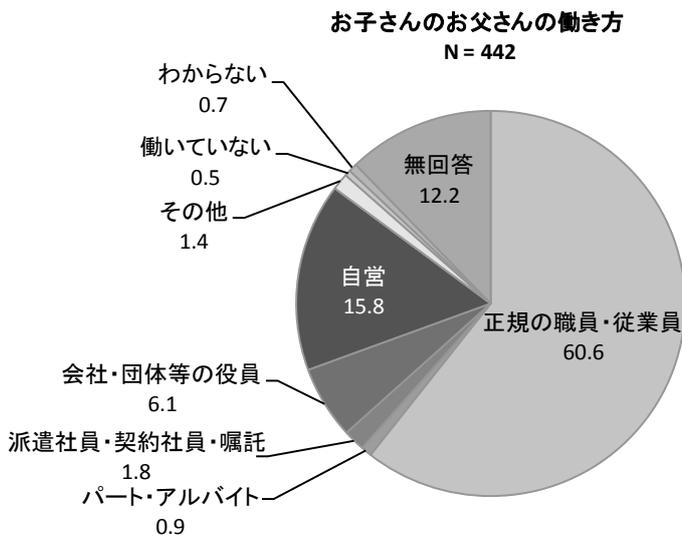


## ② 父親の就労状況

お子さんの父親の就労状況は、「正規の職員・従業員」(60.6%)が最も多く、次いで「自営」(15.8%)となっています。

就労している父親の1週間の就労日数は、「6日」(44.6%)が最も多く、次いで「5日」(34.7%)となっています。1日あたりの就労時間は「8～10時間未満」(48.0%)が最も多く、次いで「6～8時間未満」(18.5%)、「10～12時間未満」(18.3%)、となっています。

平日の日中以外の勤務は、「土曜出勤」(67.4%)が最も多く、次いで「日曜・祝日出勤」(54.0%)となっています。

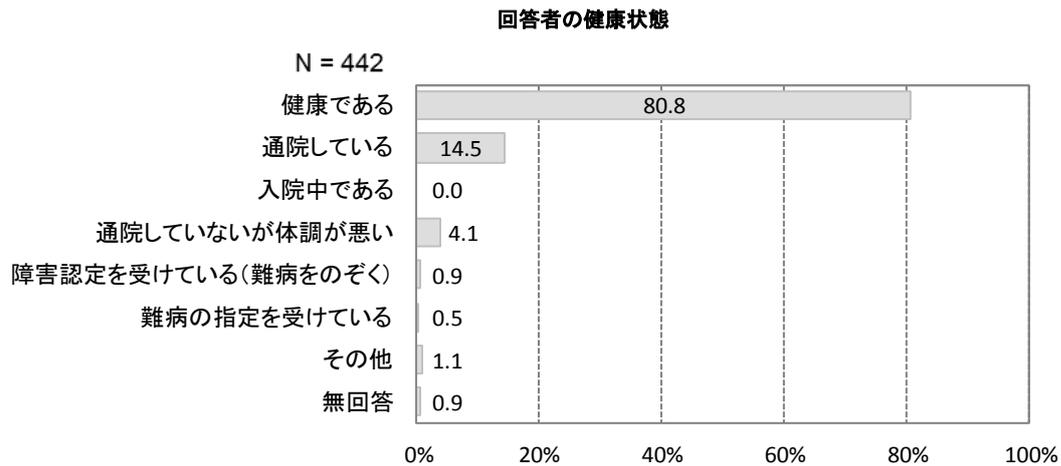


### (3) 家族の健康状況について

#### ① 回答者の健康状況

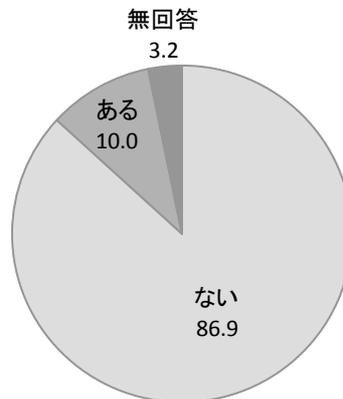
回答者の健康状態は、「健康である」(80.8%)が最も多く、次いで「通院している」(14.5%)となっています。

過去1か月の間に健康上の問題で床についたり、普段の活動ができなかった日はあるかという問いに対し、「ある」は10.0%、「ない」は86.9%となっています。

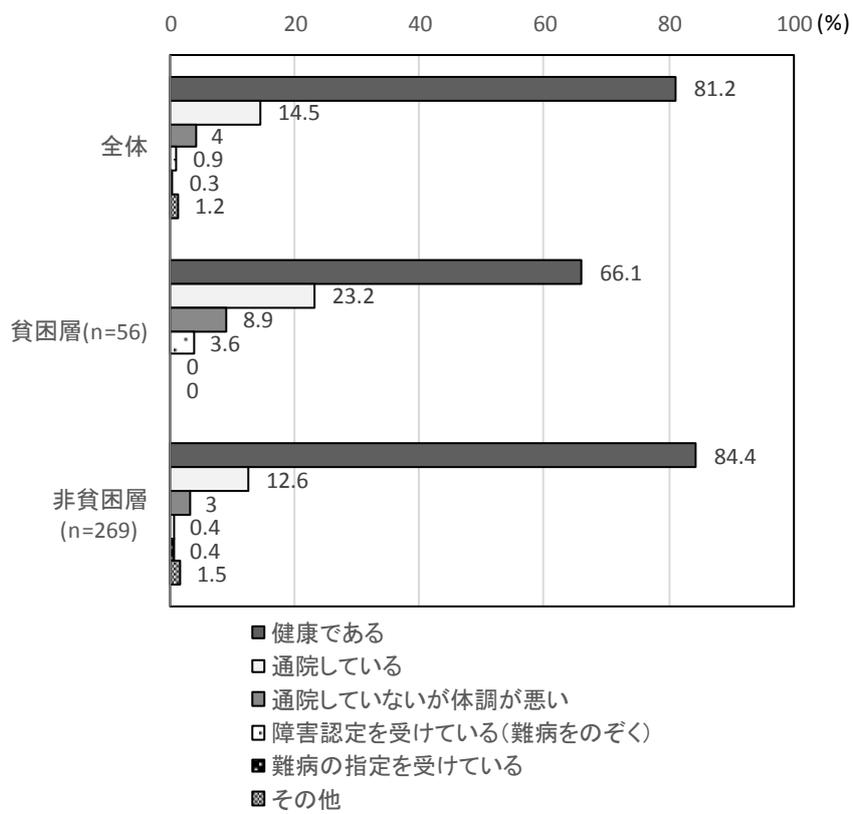


#### 過去1か月に普段の活動ができなかった日はあるか

N = 442

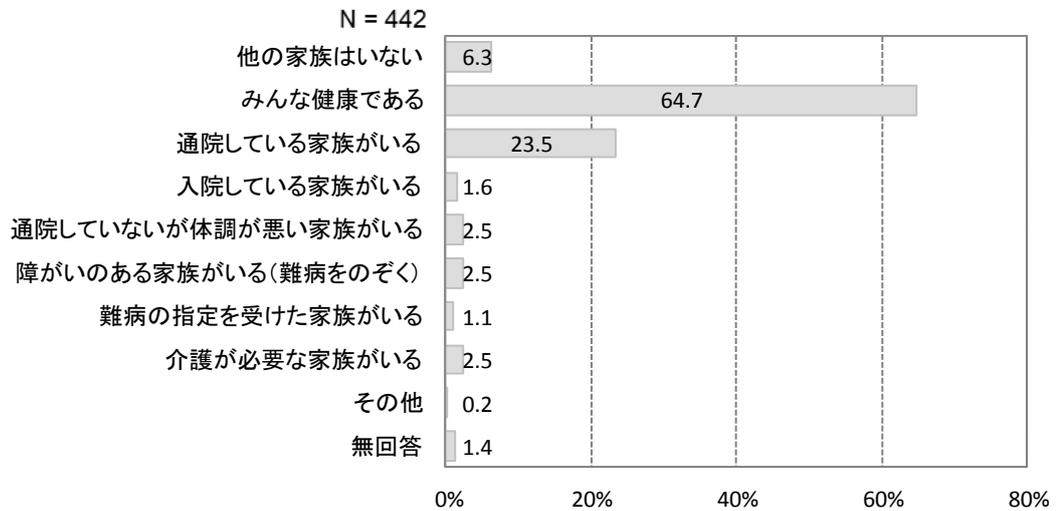


貧困層に該当する回答者の健康状態は、「健康である」という回答がやや低い傾向にあります。

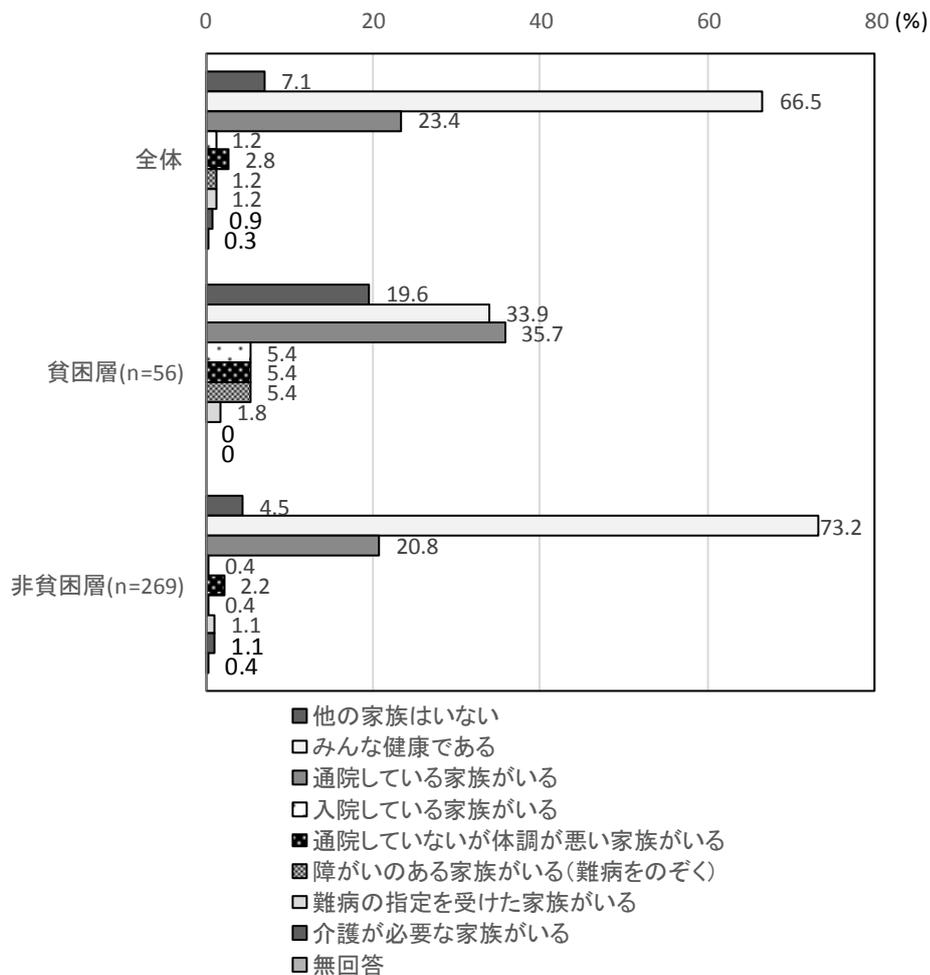


## ② 家族の健康状況

お子さん以外の家族の健康状況は、「みんな健康である」(64.7%)が最も多く、次いで「通院している家族がいる」(23.5%)となっています。



貧困層に該当する回答者のお子さん以外の家族の健康状態は、「健康である」という回答がやや低く、「通院している家族がいる」という回答がやや高い傾向にあります。

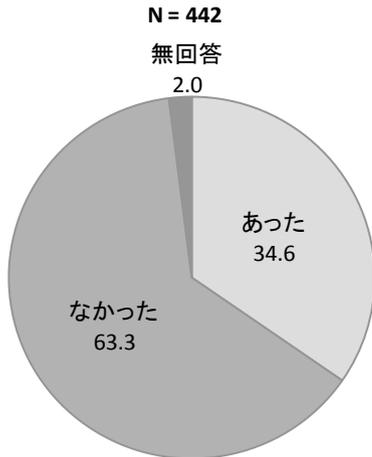


### ③ 医療機関の受診状況

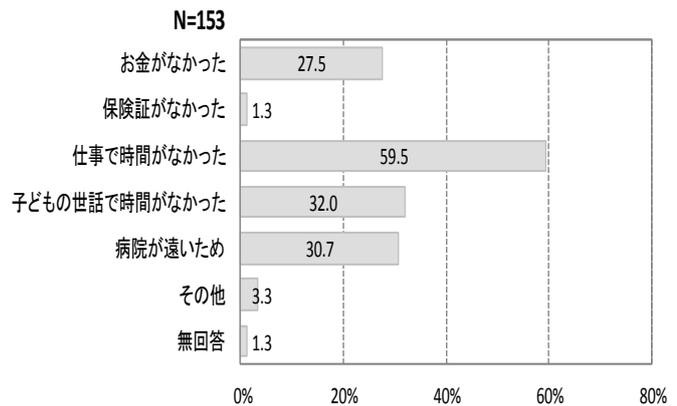
過去1年間に回答者が病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことがあるかという問に対し、「あった」は34.6%、「なかった」は63.3%となっています。

また、「あった」を選択した回答者にその理由をたずねたところ、「仕事で時間がなかった」(59.5%)が最も多く、次いで「子どもの世話で時間がなかった」(32.0%)、「病院が遠いため」(30.7%)、「お金がなかった」(27.5%)となっています。

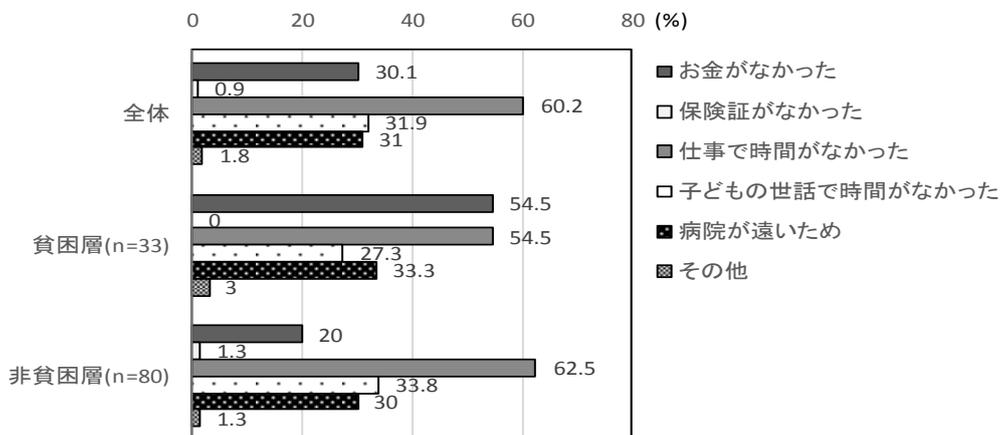
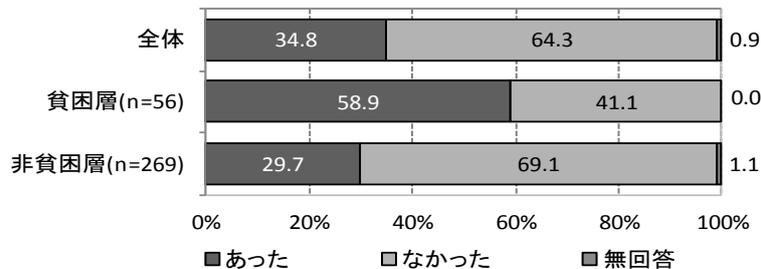
過去1年間にあなたが病院や歯医者に行きたいのに  
行けなかったことがあるか



病院や歯医者に行きたいのに行けなかった理由



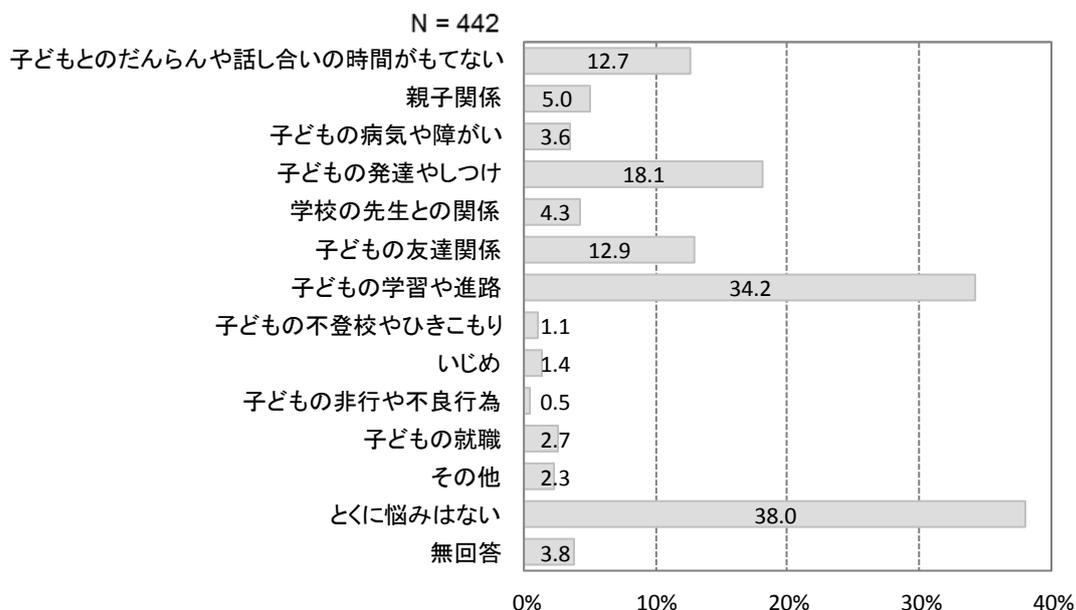
貧困層に該当する回答者は、過去1年間に回答者が病院や歯医者に行きたいのに行けなかったことが「あった」という回答が多い傾向にあり、理由として「お金がなかった」という回答が多い傾向にあります。



## (4) 子育てにおける悩みや相談状況について

### ① 子育てにおける悩み

お子さんのことで悩んでいることは、「とくに悩みはない」(38.0%) がもっと多く、次いで「子どもの学習や進学」(34.2%)、「子ども発達やしつけ」(18.1%)となっています。

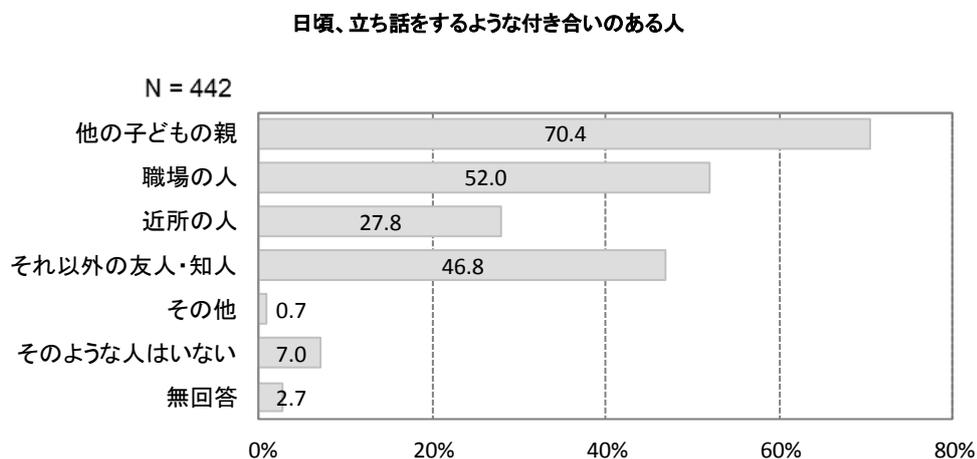


### ② 相談相手

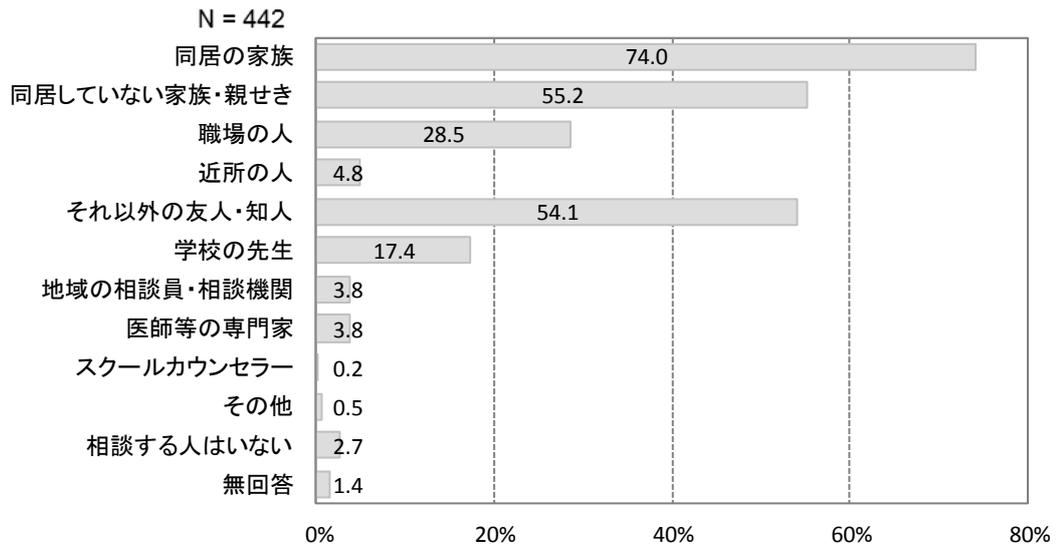
日頃、立ち話をするような付き合いのある人は、「他の子どもの親」(70.4%) が最も多く、次いで「職場の人」(52.0%)、「それ以外の友人・知人」(46.8%) となっています。

お子さんについての悩みや困り事を相談する人は、「同居の家族」(74.0%) が最も多く、次いで「同居していない家族・親せき」(55.2%)、「それ以外の友人・知人」(54.1%) となっており、「学校の先生」は 17.4%に留まっています。

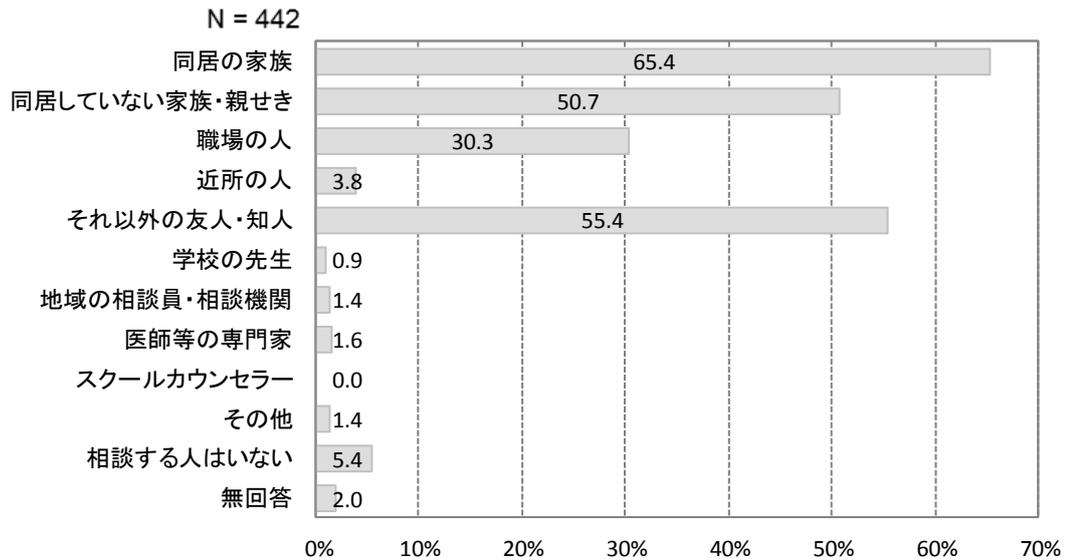
回答者自身についての悩みや困り事を相談する人は、「同居の家族」(65.4%) が最も多く、次いで「同居していない家族・親せき」(50.7%)、「それ以外の友人・知人」(55.4%) となっています。



お子さんについての悩みや困り事を相談する人



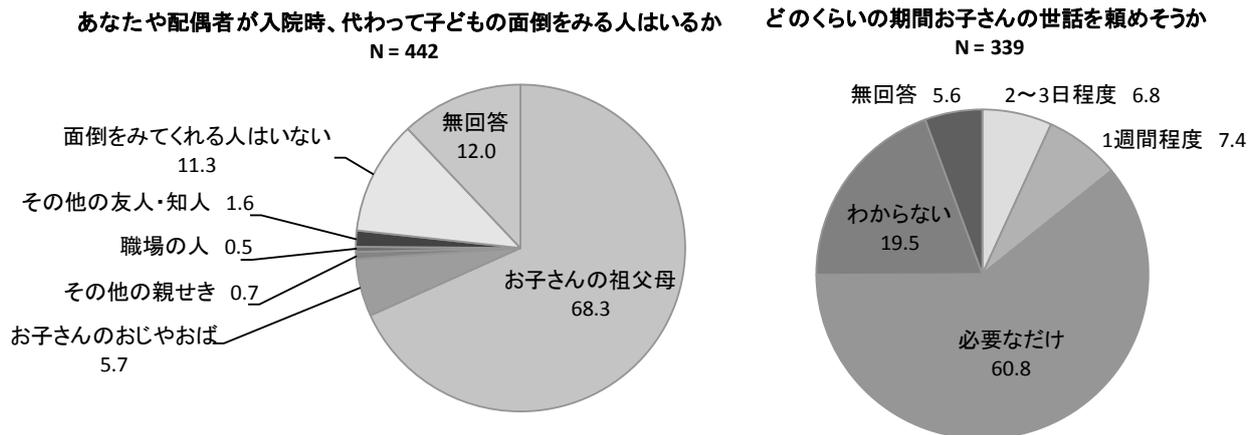
回答者自身についての悩みや困り事を相談する人



### ③ 子どもの面倒を見てくれる相手

回答者やその配偶者が不慮の事故で入院するなど、お子さんの面倒をみられなくなったときに、代わりに面倒をみてくれる人は、「お子さんの祖父母」（68.3%）が最も多く、次いで「面倒を見てくれる人はいない」（11.3%）となっています。

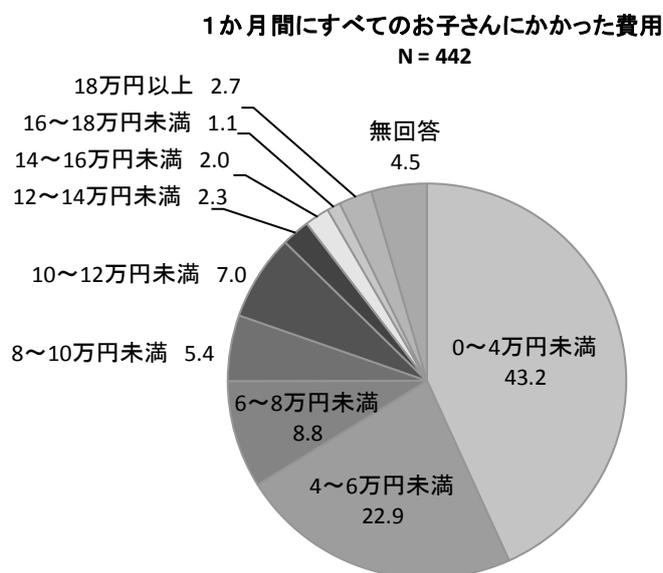
お子さんの面倒をみてくれる人がいる場合、どのくらいの期間、お子さんの世話を頼めそうかという問いに対し、「必要なだけ」（60.8%）が最も多く、次いで「わからない」（19.5%）となっています。



## (5) 暮らし向きについて

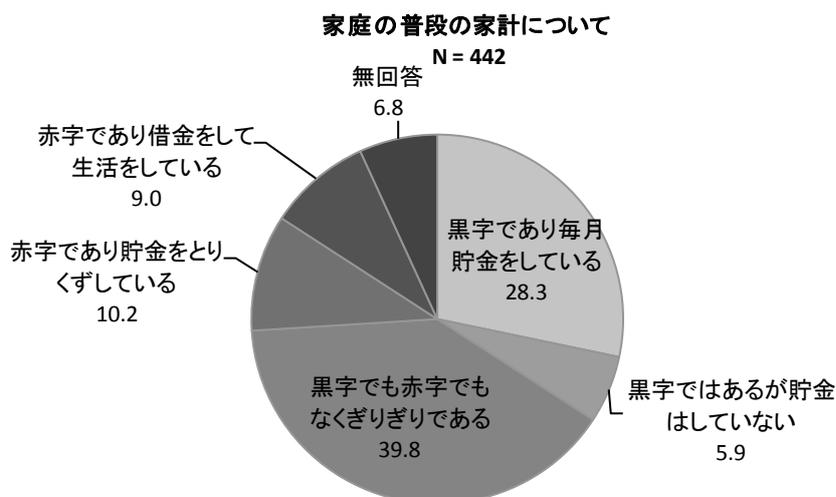
### ① 直近1か月の間にお子さんにかかった費用

ここ 1 か月の間にすべてのお子さんにかかったすべての費用は、「0～4 万円未満」(43.2%) が最も多く、次いで「4～6 万円未満」(22.9%) となっています。

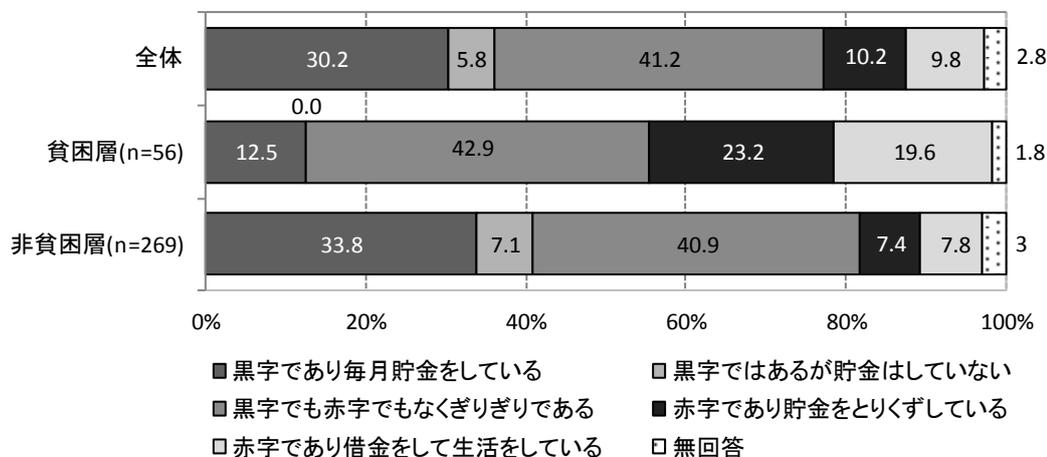


### ② 普段の家計

ご家庭の普段の家計（住宅ローンや車のローンなども支出に含める）は、「黒字でも赤字でもなくぎりぎりである」(39.8%) が最も多く、次いで「黒字であり毎月貯金をしている」(28.3%)、「赤字であり貯金をとりくずしている」(10.2%) となっています。



貧困層に該当する回答者の普段の家計は「赤字であり貯金をとりくずしている」「赤字であり借金をして生活している」という回答がやや多い傾向にあります。

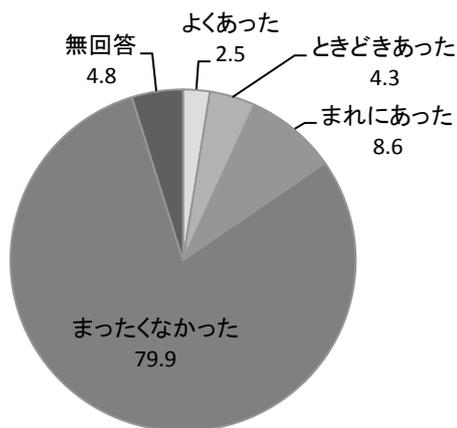


## ② 経済的な理由で食料を買えなかったり、暖房が使えなかったりした経験

過去1年間に経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験については、「まったくなかった」(79.9%)が最も多く、次いで「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」(15.4%)となっています。冬に暖房が使えなかった経験については、「まったくなかった」(84.8%)が最も多く、次いで「よくあった」「ときどきあった」「まれにあった」(10%)となっています。

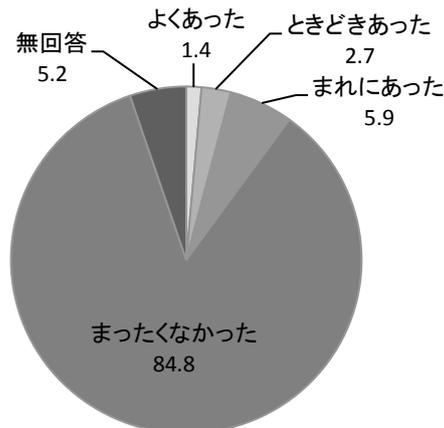
家族が必要とする食料を買えなかった

N = 442

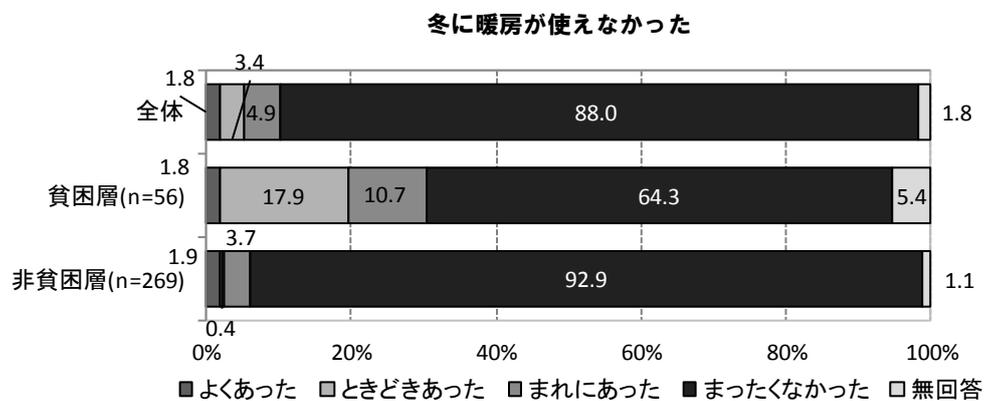
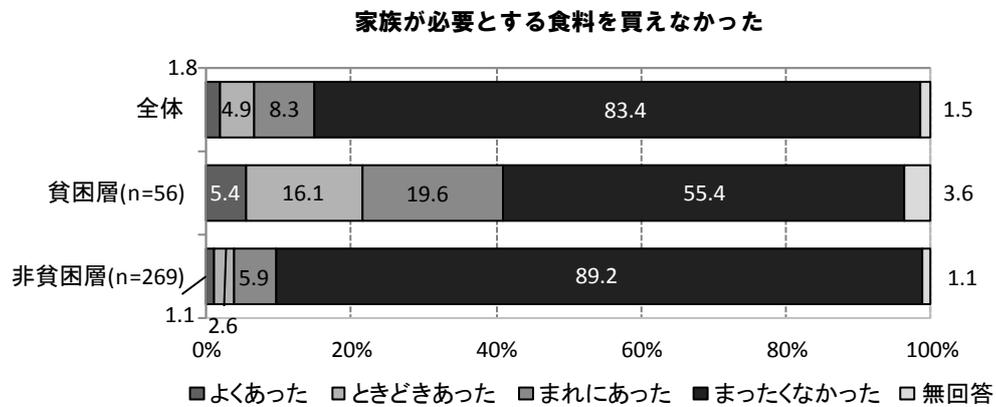


冬に暖房が使えなかった

N = 442



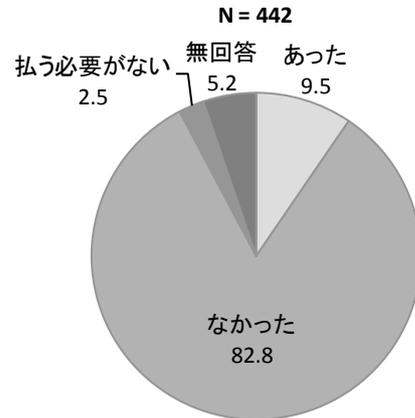
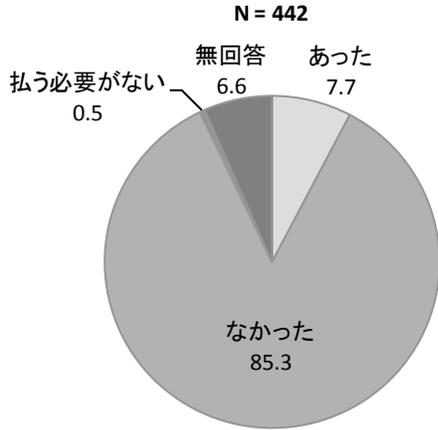
貧困層に該当する回答者においては、過去 1 年間に経済的な理由で家族が必要とする食料を買えなかった経験や、冬に暖房が使えなかった経験が「ときどきあった」「まれにあった」という回答がやや多い傾向にあります。



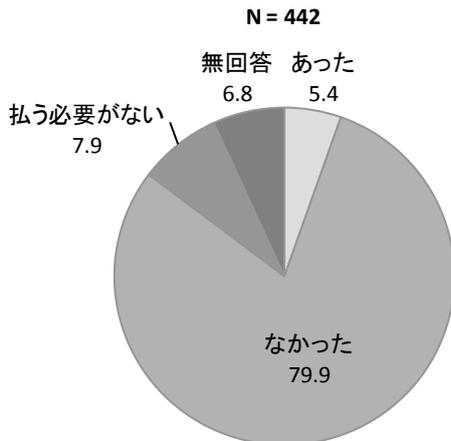
#### ④ 経済的な理由で支払いができなかった経験

過去1年間に経済的な理由で下図に示す支払いができなかったことがあるかという問いに対し、いずれの項目についても「あった」は1割未満、「なかった」は約8割となっています。

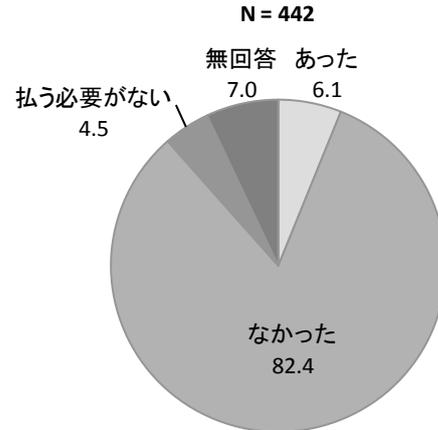
電話料金(携帯電話・スマートフォン含む)の支払いができない 電気、ガス、水道のいずれかの料金の支払いができない



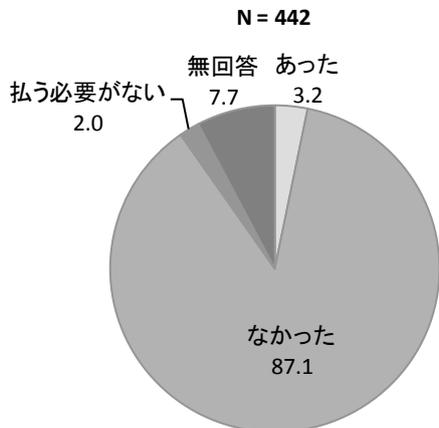
家賃、住宅ローンいずれかの支払いができない



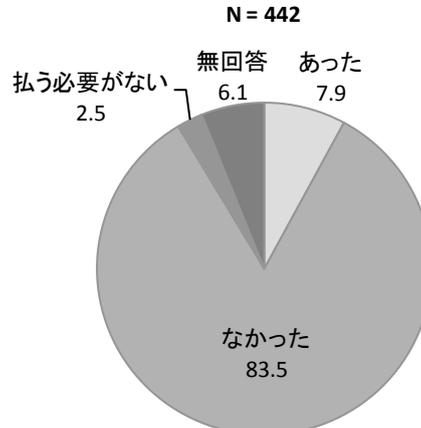
公的年金の支払いができない

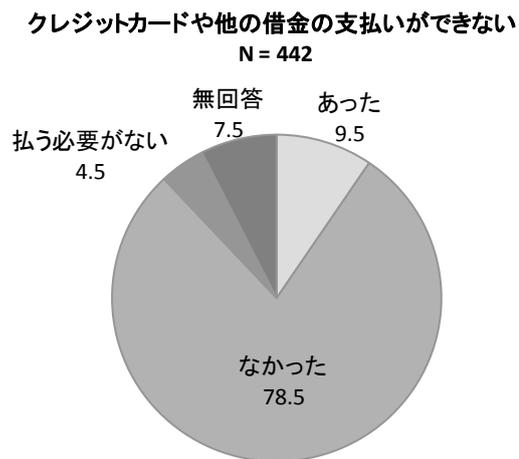
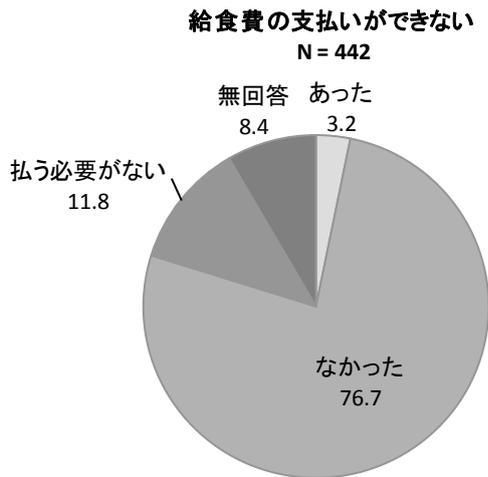


公的医療保険の支払いができない

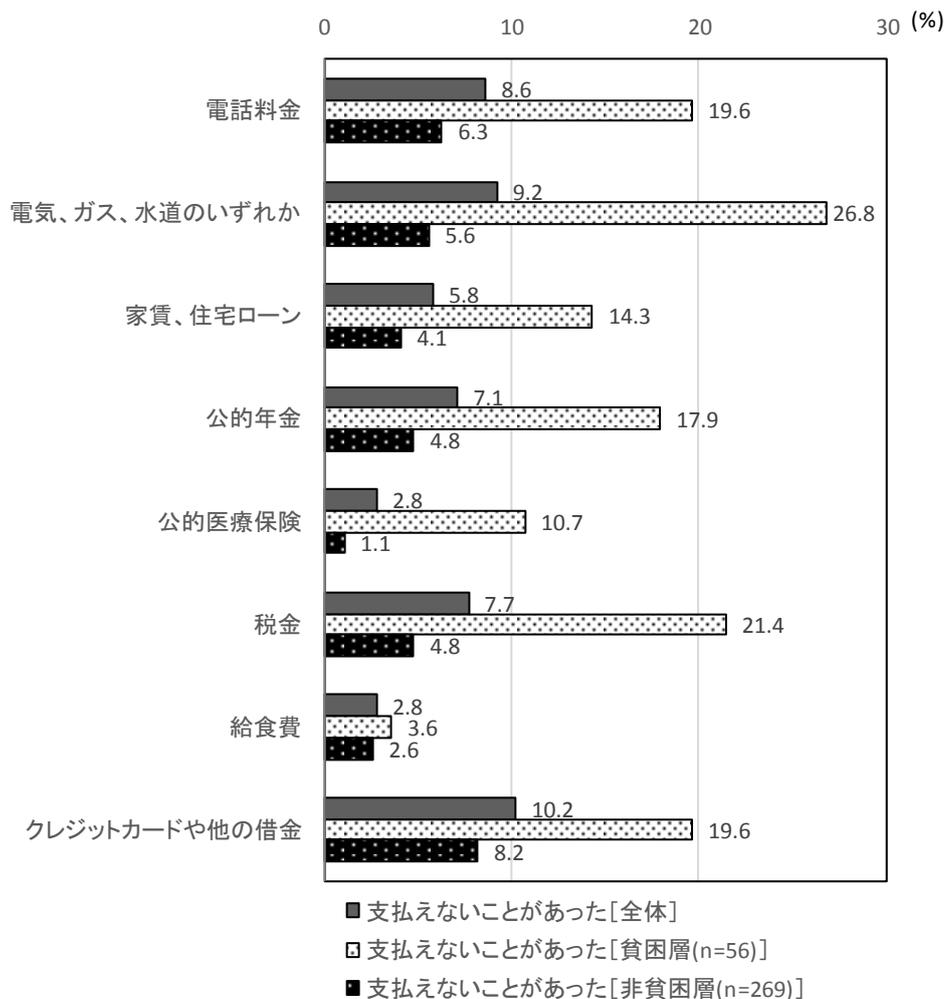


税金の支払いができない



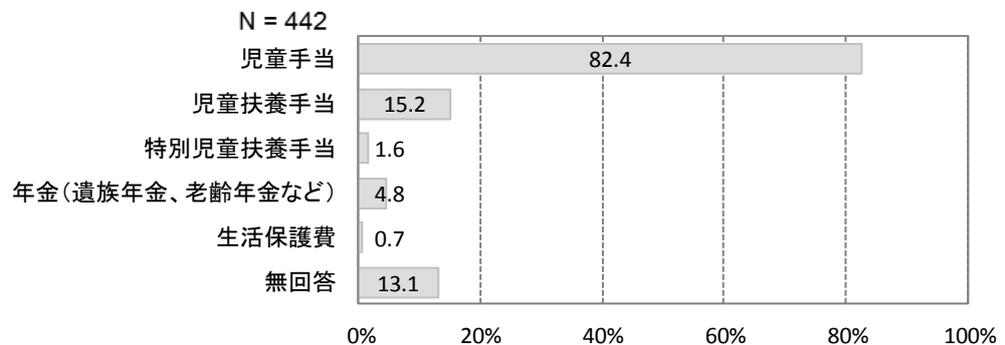


貧困層に該当する回答者において、過去1年間に経済的な理由で支払いができなかったものとして、「電気、ガス、水道のいずれか」「税金」の割合が多い傾向にあります。



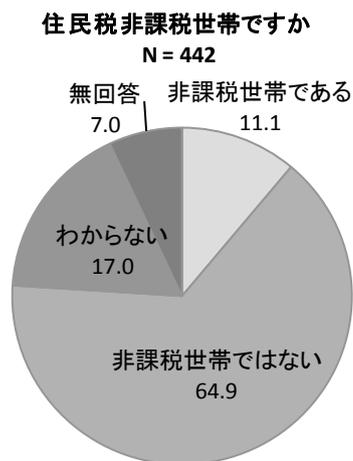
### ⑤ 公的年金、社会保障給付金の受給について

公的年金、社会保障給付金の受給状況は、「児童手当」(82.4%)が最も多く、次いで「児童扶養手当」(15.2%)となっています。



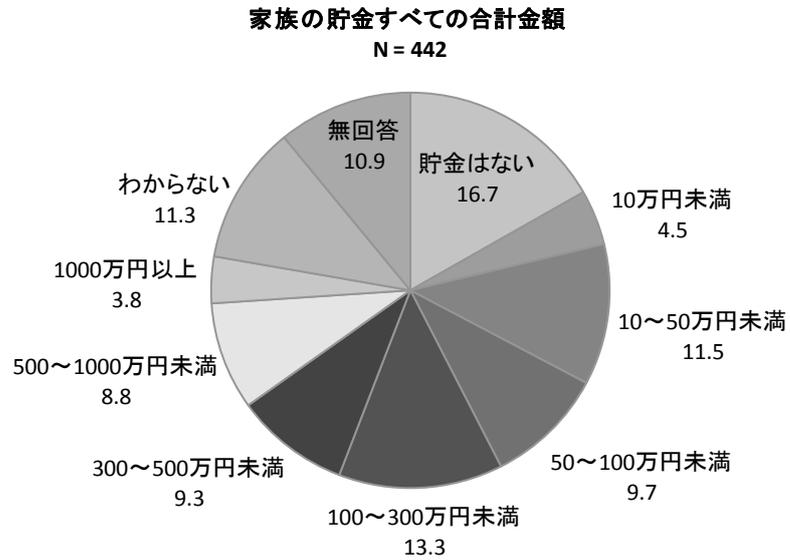
### ⑥ 住民税について

住民税については、「非課税世帯である」が11.1%、「非課税世帯ではない」が64.9%となっています。

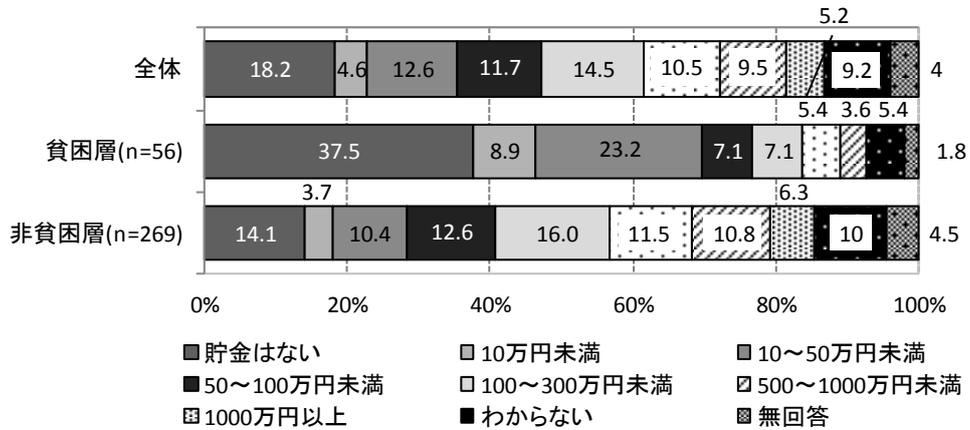


⑦ 貯金額について

現在の家庭における貯金額は、「貯金はない」が16.7%、100万円未満が約3割、100万円以上500万円未満が約2割、500万円以上が約1割となっています。

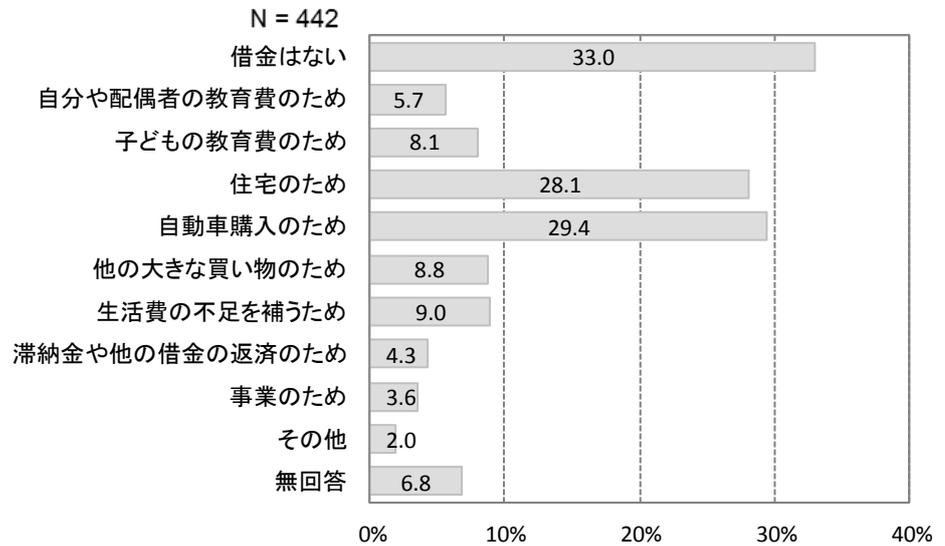


貧困層に該当する回答者の家族の貯金の合計金額は、約7割が50万円未満となっています。



### ⑧ ローンや借金の返済の有無と目的

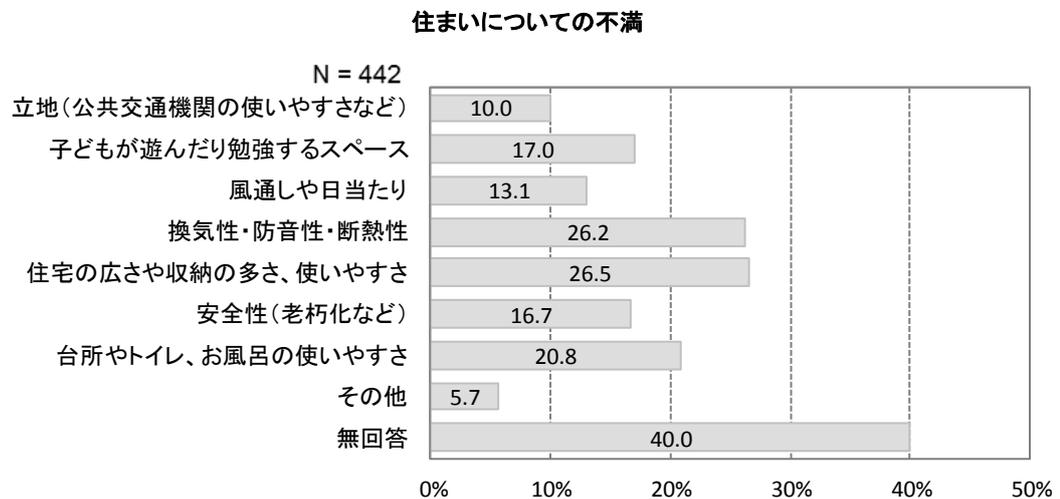
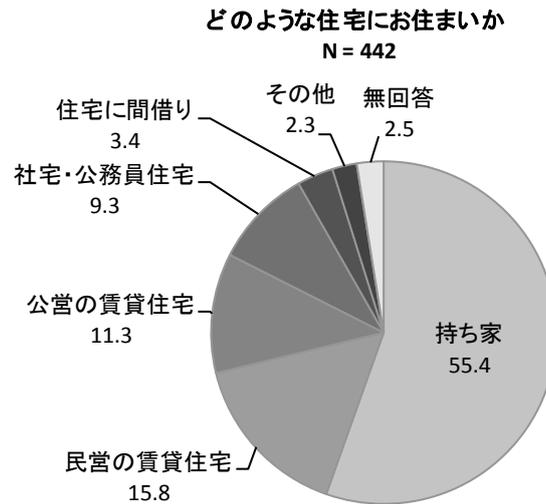
ローンや借金については、「借金はない」(33.0%)が最も多く、次いで「自動車購入のため」(29.4%)、「住宅のため」(28.1%)となっています。



## ⑨ 住まいについて

住まいは、「持ち家」(55.4%)が最も多く、次いで「民営の賃貸住宅」(15.8%)、「公営の賃貸住宅」(11.3%)となっています。

住まいに対する不満は、「住宅の広さや収納の多さ、使いやすさ」(26.5%)、「換気性・防音性・断熱性」(26.2%)、「台所やトイレ、お風呂の使いやすさ」(20.8%)が多くなっています。

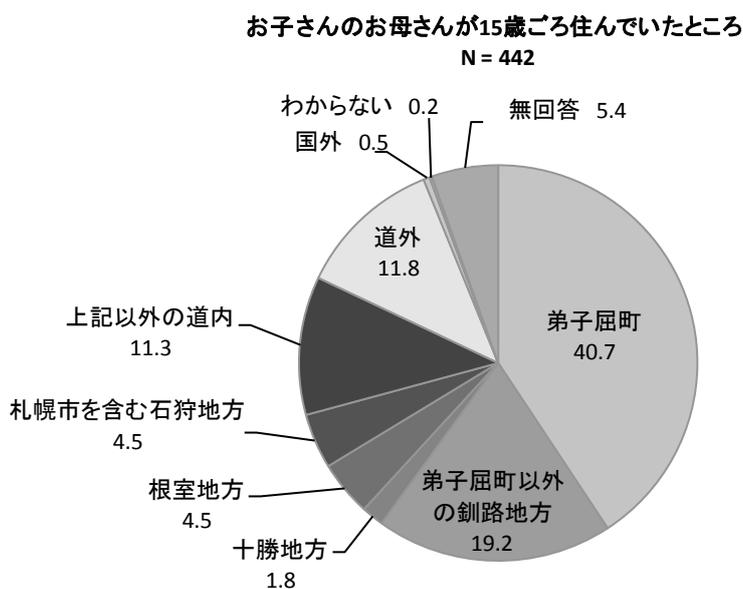
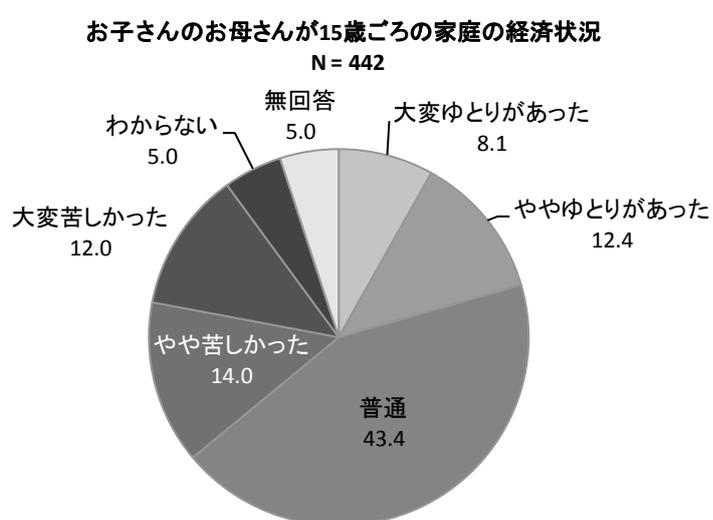
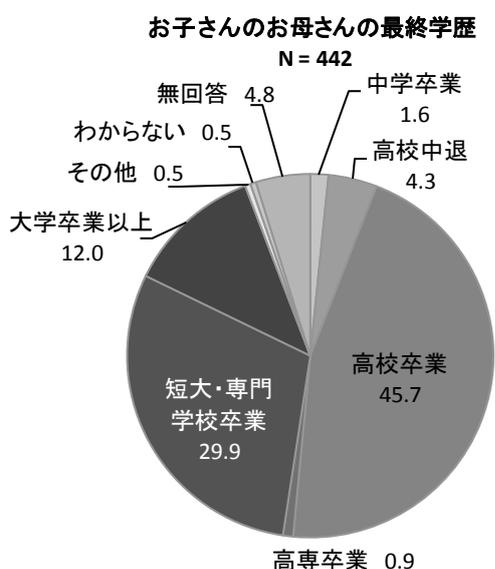


## (6) 母親や父親のこれまでの経験等について

### ① 母親の最終学歴など

お子さんの母親の最終学歴は、「高校卒業」(45.7%)が最も多く、次いで「短大・専門学校卒業」(29.9%)となっています。

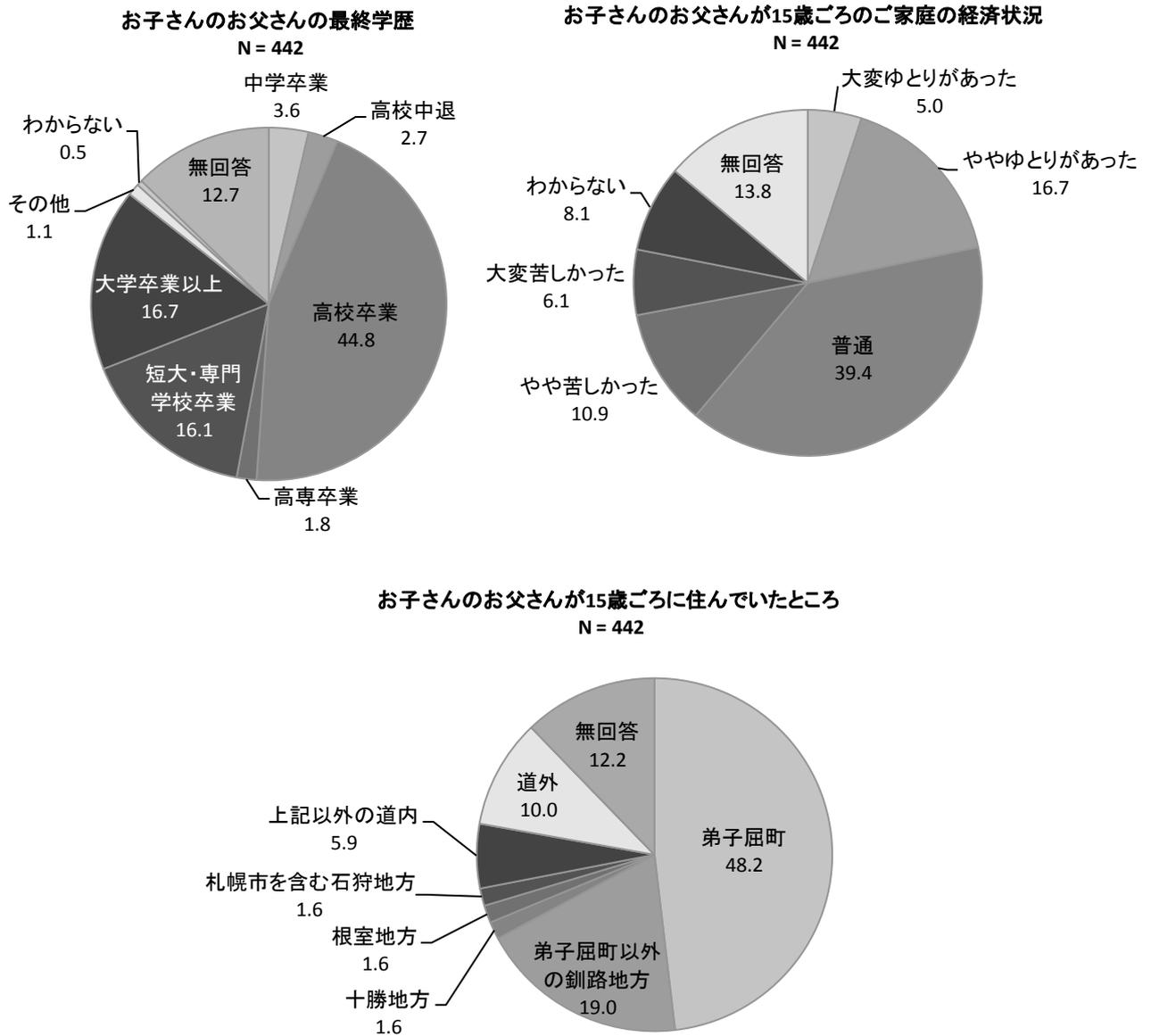
母親が15歳ごろの家庭の経済状況は、「普通」(43.4%)が最も多く、次いで「やや苦しかった」(14.0%)となっています。また、母親が15歳ごろに住んでいたところは「弟子屈町」が(40.7%)が最も多く、次いで「弟子屈町以外の釧路地方」(19.2%)となっています。



## ② 父親の最終学歴など

お子さんの父親の最終学歴は、「高校卒業」(44.8%)が最も多く、次いで「大学卒業以上」(16.7%)、「短大・専門学校卒業」(16.1%)となっています。

父親が15歳ごろの家庭の経済状況は、「普通」(39.4%)が最も多く、次いで「ややゆとりがあった」(16.7%)となっています。また、父親が15歳ごろに住んでいたところは「弟子屈町」が(48.2%)が最も多く、次いで「弟子屈町以外の釧路地方」(19.0%)となっています。

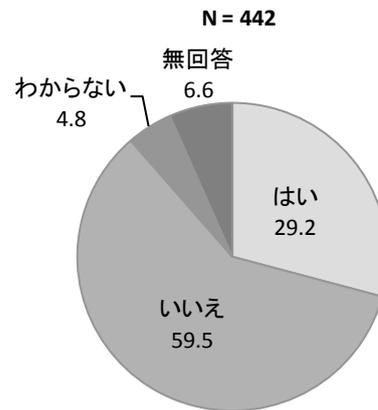
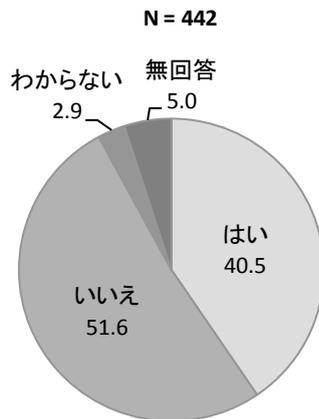


### ③ お子さんが生まれてからこれまでの経験

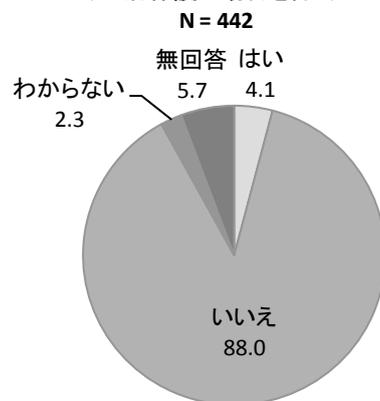
お子さんが生まれてからこれまでのお母さんやお父さんの経験について、「これまで経済的に大変苦しかったことがある」は「はい」が約4割、「これまで夫または妻との間で頻繁な口げんか等があった」は「はい」が約3割となっています。

また、「これまで、健康保険が未加入だったことがある」「現在、健康保険が未加入である」は「いいえ」が約9割となっています。

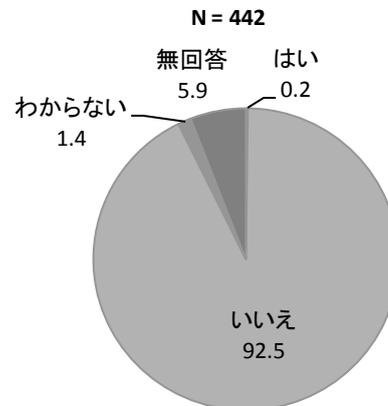
これまで経済的に大変苦しかったことがある      これまで、夫または妻との間で頻繁な口げんか等があった



これまで、健康保険に未加入だったことがある  
(生活保護の場合を除く)



現在、健康保険に未加入である  
(生活保護の場合を除く)

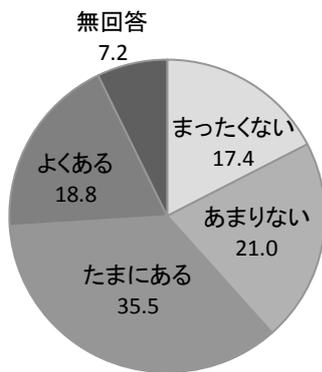


## (7) 子育てに関する支援策等について

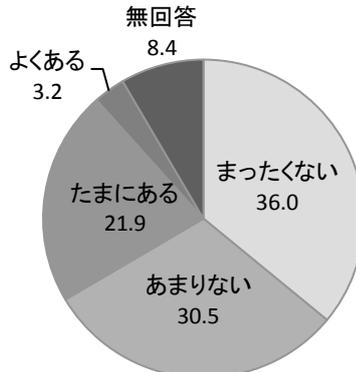
### ① 子どもに関する施策等の情報源

子どもに関する施策等の情報源は、「学校などからのお便り」「家族や友人からの情報」を「参考になっている（「たまにある」と「よくある」の合算値）」が約8割、「行政機関の広報誌・案内」「インターネット検索」を「参考になっている」が5～6割、「行政機関のホームページ」「SNS」が2～3割となっています。

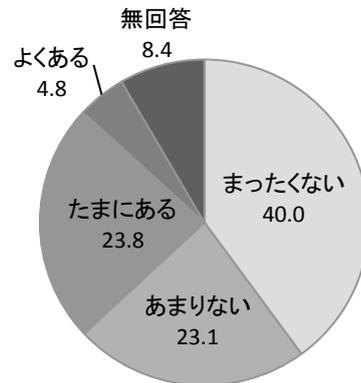
行政機関の広報誌・案内を参考  
N = 442



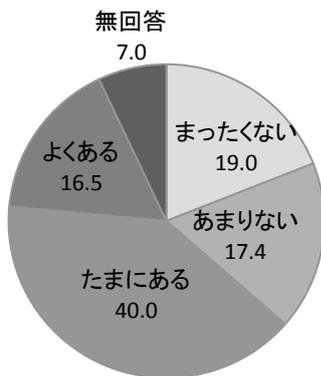
行政機関のホームページを参考  
N = 442



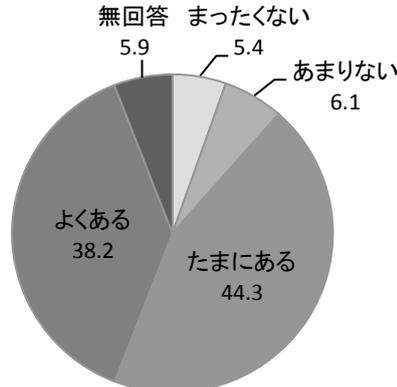
SNS(LINEやツイッターなどを参考)  
N = 442



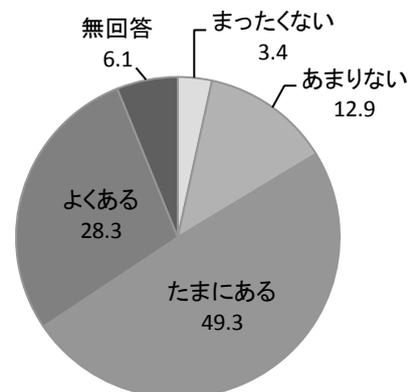
インターネット検索を参考  
N = 442



学校などからのお便りを参考  
N = 442



家族や友人からの情報を参考  
N = 442

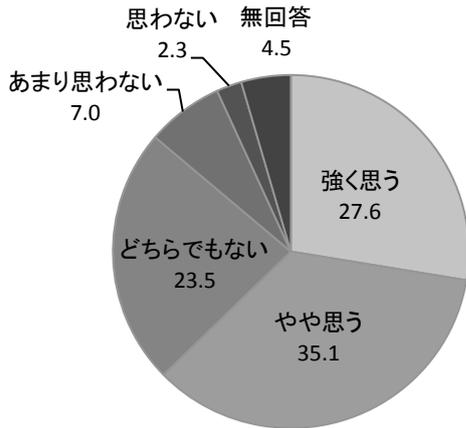


## ② 子育て支援環境の充実に向けた支援策

子育て支援環境の充実のために望ましい支援策をみると、特に「子どもの医療費にかかる負担を軽減してほしい」「高校や大学の進学にかかる費用負担を軽減してほしい」「学費や奨学金など子どもの進路に関して、情報を得る機会を作ってほしい」は、いずれも7割以上（「強く思う」と「やや思う」の合算値）の回答者が要望しています。

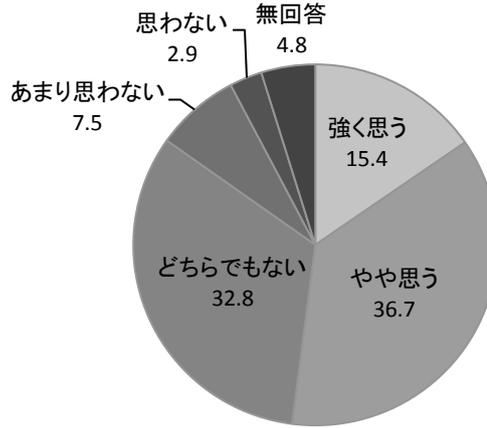
親子でも出かけやすく楽しめる場所やイベントの機会を増やしてほしい

N = 442



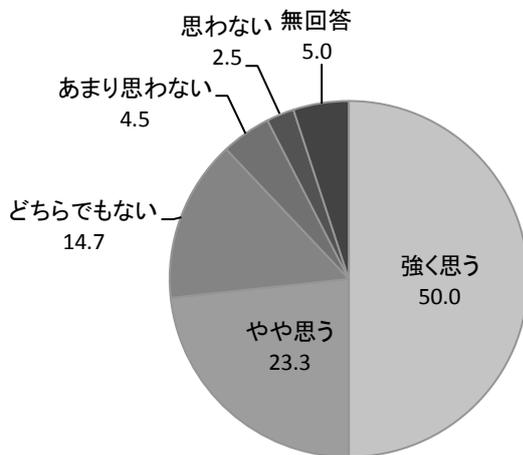
子育てに困った時には相談したり、子育てに関する情報が得られる場を作ってほしい

N = 442



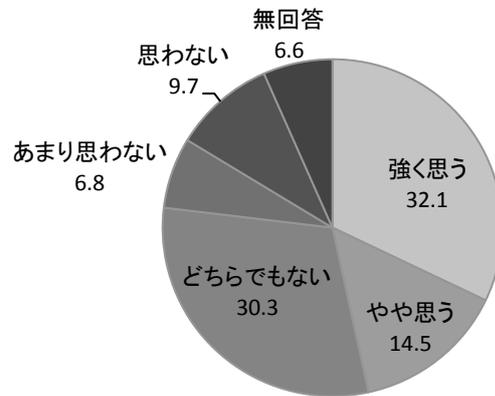
子どもの医療費にかかる負担を軽減してほしい

N = 442

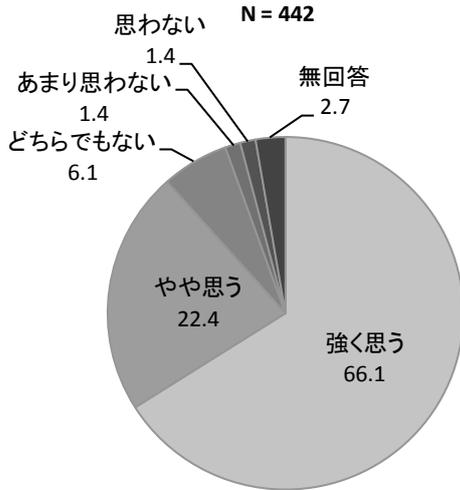


子どもの通学にかかる交通費の負担を軽減してほしい

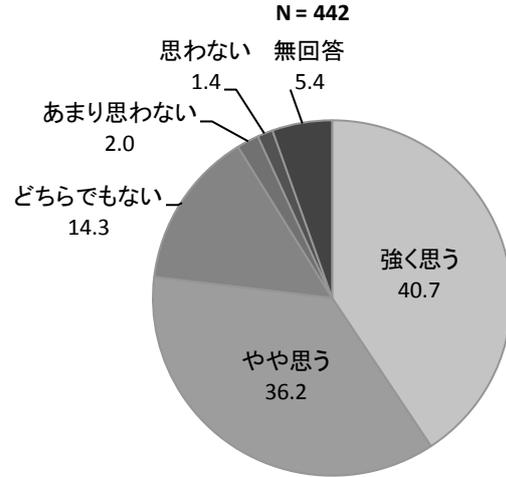
N = 442



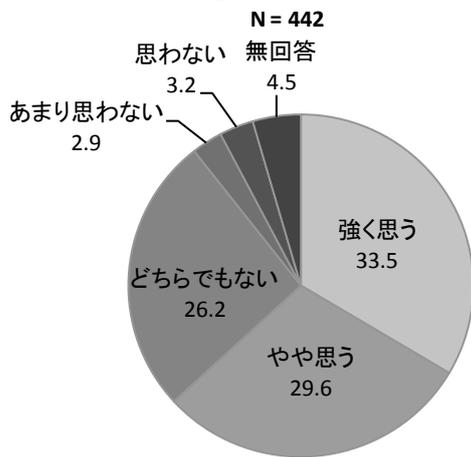
高校や大学の進学にかかる費用負担を軽減してほしい



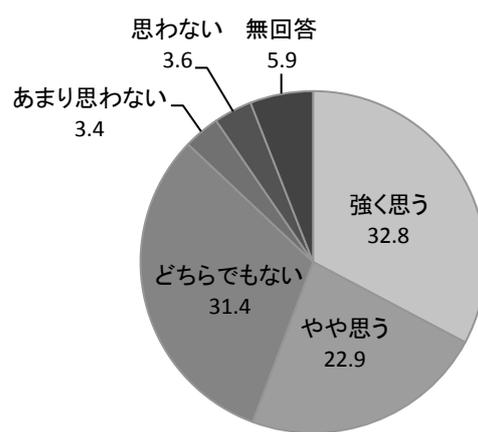
学費や奨学金など子どもの進路に関して、情報を得る機会を作してほしい



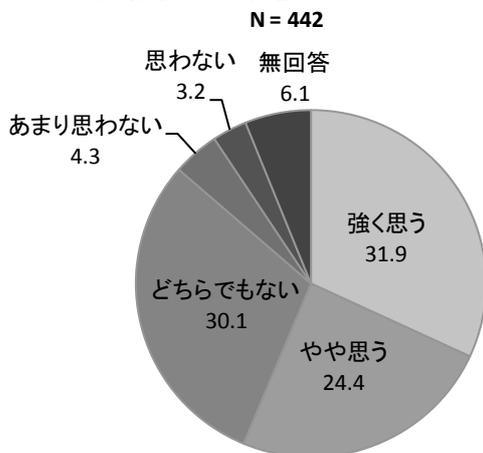
放課後等に利用できる子どもの居場所を増やしてほしい



子育て世帯に対する住宅面での配慮がほしい



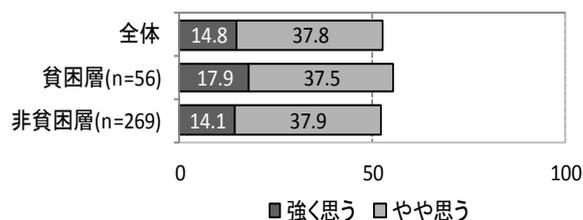
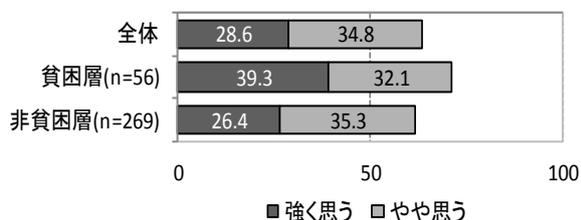
残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしい



貧困層に該当する回答者においては、特に「子どもの医療費にかかる負担を軽減してほしい」「高校や大学の進学にかかる費用負担を軽減してほしい」「子育て世帯に対する住宅面での配慮がほしい」について、「強く思う」という回答が多い傾向にあります。

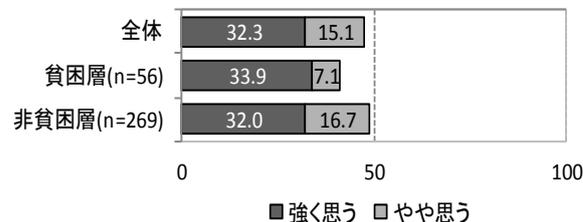
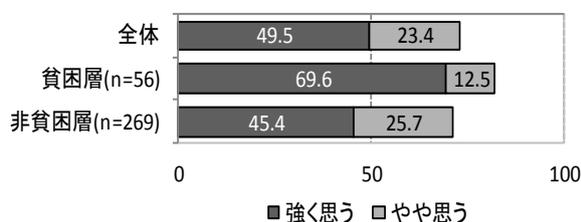
親子でも出かけやすく楽しめる場所やイベントの機会を増やしてほしい

子育てに困った時には相談したり、子育てに関する情報が得られる場を作ってほしい



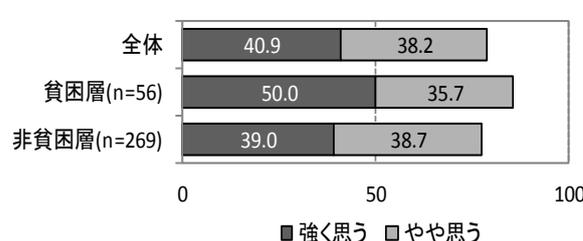
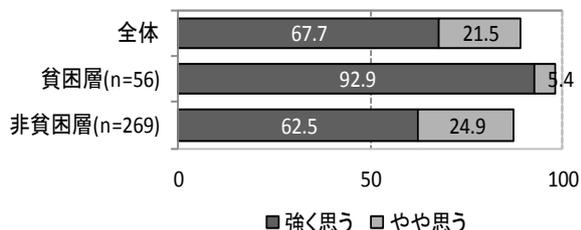
子どもの医療費にかかる負担を軽減してほしい

子どもの通学にかかる交通費の負担を軽減してほしい



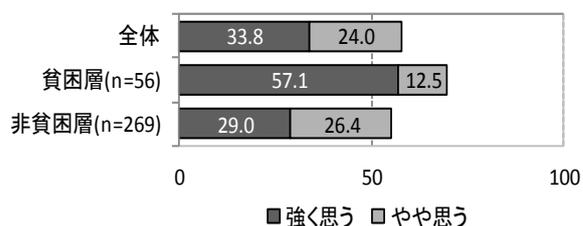
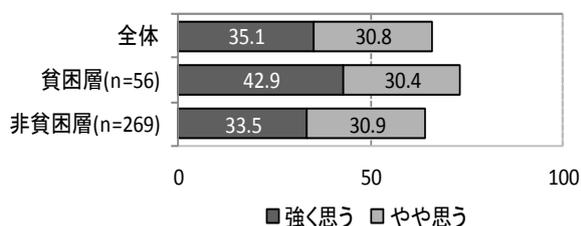
高校や大学の進学にかかる費用負担を軽減してほしい

学費や奨学金など子どもの進路に関して、情報を得る機会を作ってほしい

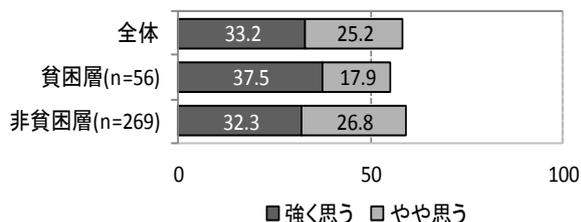


放課後等に利用できる子どもの居場所を増やしてほしい

子育て世帯に対する住宅面での配慮がほしい



残業時間の短縮や休暇の取得促進など、企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしい



## 2. お子さんの日頃の生活等に関して(保護者による回答)

### (1) お子さんの性別

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	---------------------------------------

子どもの性別は、男性が46.8%、女性が53.2%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	男	女
全体	440	206 46.8	234 53.2
小学校	低学年	42 56	33 44
	中学年	36 37.1	61 62.9
	高学年	40 52.6	36 47.4
中学生	125	62 49.6	63 50.4
高校生	67	26 38.8	41 61.2

### (2) お子さんの健康状況について

#### ① お子さんの健康・発達状況

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	---------------------------------------

お子さんの健康・発達状態は、「健康である」(88.0%)が最も多く、次いで「通院している病気がある」(10.2%)となっています。

上段:実数 下段:%	合計	健康である	通院している病気がある	入院している	通院していないが体調が悪い	障がいがある(難病をのぞく)	難病の指定を受けている	発達に遅れがある	その他	無回答
全体	440	387 88	45 10.2	0	7 1.6	7 1.6	1 0.2	9 2	2 0.5	1 0.2
小学校	低学年	61 81.3	11 14.7	0	1 1.3	3 4	0 0	4 5.3	0 0	0 0
	中学年	83 85.6	12 12.4	0	0 0	2 2.1	0 0	3 3.1	1 1	1 1
	高学年	69 90.8	7 9.2	0	0 0	0 0	0 0	0 0	1 1.3	0 0
中学生	125	114 91.2	10 8	0	4 3.2	2 1.6	1 0.8	2 1.6	0 0	0 0
高校生	67	60 89.6	5 7.5	0	2 3	0 0	0 0	0 0	0 0	0 0

## ② お子さんの就寝時間・起床時間

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者
-----	-------------------------------

就寝時間は、「午後9時台」(35.7%)が最も多く、次いで「午後10時台」(32.2%)となっています。

起床時間は、「午前6時台」(65.7%)が最も多く、次いで「午前7時台」(28.7%)となっています。

【就寝時間】

上段:実数 下段:%	合計	午後9時より前	午後9時台	午後10時台	午後11時台	午前0時台	午前1時より後	無回答
全体	373	37 9.9	133 35.7	120 32.2	70 18.8	11 2.9	1 0.3	1 0.3
小学校	低学年	75	19 25.3	46 61.3	10 13.3	0 0	0 0	0 0
	中学年	97	14 14.4	51 52.6	27 27.8	4 4.1	1 1	0 0
	高学年	76	3 3.9	28 36.8	32 42.1	12 15.8	0 0	1 1.3
中学生	125	1 0.8	8 6.4	51 40.8	54 43.2	10 8	1 0.8	0 0

【起床時間】

上段:実数 下段:%	合計	午前5時より前	午前5時台	午前6時台	午前7時台	午前8時台	午前9時より後	無回答
全体	373	1 0.3	20 5.4	245 65.7	107 28.7	0 0	0 0	0 0
小学校	低学年	75	0 0	5 6.7	56 74.7	14 18.7	0 0	0 0
	中学年	97	0 0	4 4.1	66 68.0	27 27.8	0 0	0 0
	高学年	76	0 0	7 9.2	49 64.5	20 26.3	0 0	0 0
中学生	125	1 0.8	4 3.2	74 59.2	46 36.8	0 0	0 0	0 0

### ③ 病院や歯医者を受診について

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	---------------------------------------

過去1年間にお子さんを病院や歯医者で受診させたほうが良いと思ったが、実際には受診させなかったことがあったかという問いに対し、「あった」は20.2%、「なかった」は75.6%となっています。

受診させないことが「あった」を選択した回答者にその理由をたずねたところ、「仕事で連れていく時間がなかった」(57.3%)が最も多く、次いで「様子をみていたら受診せずに回復したため」(24.7%)となっています。

【病院や歯医者で受診させたほうが良いと思ったが、受診させなかったこと】

上段:実数 下段:%	合計	あった	なかった	無回答
全体	440	89 20.2	343 75.6	8 1.7
小学校	低学年	75 18 24	56 74.7	1 1.3
	中学年	97 20 20.6	75 77.3	2 2.1
	高学年	76 16 21.1	58 76.3	2 2.6
中学生	125	27 21.6	95 76	3 2.4
高校生	67	8 11.9	59 88.1	0 0

【受診させなかった理由】

上段:実数 下段:%	合計	お金がなかった	保険証がなかった	仕事で連れていく時間がなかった	他の子どもの世話で連れていく時間がなかった	自分の健康状態が悪く連れて行けなかった	病院が遠いため	子どもが嫌がった	子どもが忙しかったため	様子をみていたら受診せずに回復したため	その他
全体	89	15 16.9	0 0	51 57.3	9 10.1	5 5.6	24 27	4 4.5	16 18	22 24.7	1 1.1
小学校	低学年	18 4 22.2	0 0	10 55.6	1 5.6	2 11.1	5 27.8	0 0	0 0	5 27.8	0 0
	中学年	20 5 25	0 0	10 50	1 5	1 5	6 30	1 5	3 15	4 20	1 5
	高学年	16 4 25	0 0	11 68.8	2 12.5	2 12.5	4 25	1 6.3	1 6.3	5 31.3	0 0
中学生	27	1 3.7	0 0	15 55.6	5 18.5	0 0	9 33.3	2 7.4	7 25.9	4 14.8	0 0
高校生	8	1 12.5	0 0	5 62.5	0 0	0 0	0 0	0 0	5 62.5	4 50	0 0

### (3) お子さんの日頃の生活について

#### ① お子さんの登校の様子

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	---------------------------------------

お子さんの登校の様子は、「ほとんど休まずに登校している」が9割以上となっていますが、「ほとんど休まないが朝、学校に行きたがらない日が多い」「時々休むことがある」「よく休むことがある」との回答も約1割みられます。

上段:実数 下段:%	合計	ほとんど休まず登校している	ほとんど休まないが朝、学校に行きたがらない日が多い	時々休むことがある	よく休むことがある	その他
全体	440	399 90.7	19 4.3	16 3.6	4 0.9	2 0.5
小学校	低学年	75 94.7	71 2.7	2 1.3	1 1.3	0 0
	中学年	97 89.7	87 8.2	8 1	1 0	1 1
	高学年	76 96.1	73 3.9	3 0	0 0	0 0
中学生	125	107 85.6	4 3.2	10 8	3 2.4	1 0.8
高校生	67	61 91	2 3	4 6	0 0	0 0

#### ② お子さんの学校の授業以外での勉強時間

回答者	小学1年生～4年生の保護者
-----	---------------

お子さんの普段の学校の授業以外の1日あたりの勉強時間は、「30分～1時間未満」(46.0%)が最も多く、次いで「30分未満」(40.9%)となっています。学年区分別にみると、小学校低学年は「30分未満」が多く、小学校中学年は「30分～1時間未満」が多くなっています。

上段:実数 下段:%	合計	まったくしない	30分未満	30分～1時間未満	1～2時間未満	2～3時間未満	3時間以上	わからない	無回答
全体	176	7 4	72 40.9	81 46	12 6.8	1 0.6	0 0	1 0.6	2 1.1
小学校	低学年	75 5.3	40 53.3	29 38.7	2 2.7	0 0	0 0	0 0	0 0
	中学年	97 3.1	31 32	50 51.5	10 10.3	1 1	0 0	0 0	2 2.1

### ③ お子さんの平日のゲームやテレビ等に使う時間

回答者	小学1年生～4年生の保護者
-----	---------------

お子さんの平日1日あたり、ゲームをしたり、テレビ・DVDを見る時間は、「1時間～2時間未満」(35.2%)が最も多く、次いで「30分～1時間未満」(17.6%)、「2時間～3時間未満」(16.5%)となっています。

上段:実数 下段:%	合計	まったく しない・見 ない	30分未 満	30～1時 間未 満	1時間～2 時間未 満	2時間～3 時間未 満	3時間～4 時間未 満	4時間以上	わから ない	無回答
全体	176	12 6.8	16 9.1	31 17.6	62 35.2	29 16.5	14 8	5 2.8	4 2.3	3 1.7
小学校	低学年	9 12	5 6.7	15 20	24 32	15 20	3 4	2 2.7	2 2.7	0 0
	中学年	3 3.1	11 11.3	16 16.5	38 39.2	12 12.4	11 11.3	2 2.1	1 1	3 3.1

### ④ お子さんが家事を手伝う時間

回答者	小学1年生～4年生の保護者
-----	---------------

お子さんが学校から帰ってから寝るまでに家事の手伝う時間は、「30分未満」(59.1%)が最も多く、次いで「まったくしない」(33.0%)となっています。

上段:実数 下段:%	合計	まったく しない	30分未 満	30～1時 間未 満	1時間～1 時間30分 未満	1時間30 分～2時間 未満	2時間以上	無回答
全体	176	58 33	104 59.1	12 6.8	0	0	0	2 1.1
小学校	低学年	25 33.3	47 62.7	3 4	0	0	0	0 0
	中学年	31 32	55 56.7	9 9.3	0	0	0	2 2.1

### ⑤ お子さんが平日に夕食を一緒にとる人

回答者	小学1年生～4年生の保護者
-----	---------------

お子さんが平日、夕食を一緒に取る人は「親」(92.0%)が最も多く、次いで「きょうだい」(84.7%)となっています。

上段:実数 下段:%	合計	親	きょう だい	その 他の 家族(祖 父母 など)	家族 以外 の 人	お子 さん ひ と り で 食 べ る	夕 食 は 食 べ な い	無 回 答
全体	176	162 92	149 84.7	35 19.9	2 1.1	3 1.7	0 0	3 1.7
小学校	低学年	68 90.7	61 81.3	12 16	1 1.3	2 2.7	0 0	0 0
	中学年	90 92.8	85 87.6	22 22.7	1 1	0 0	0 0	3 3.1

## ⑥ お子さんの平日の放課後の過ごし方

回答者	小学1年生～4年生の保護者
-----	---------------

お子さんが平日の放課後（夕方 6 時くらいまで）、一人で過ごすことはあるかという問いに対し、「まったくない」（72.2%）が最も多く、次いで「あまりない」（15.3%）となっています。

上段:実数 下段:%	合計	まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	無回答
全体	176	127 72.2	27 15.3	13 7.4	6 3.4	3 1.7
小学校	低学年	75 82.7	6 8	5 6.7	2 2.7	0 0
	中学年	97 64.9	63 20.6	20 7.2	4 4.1	3 3.1

## ⑦ お子さんの興味や日常の活動の認知度

回答者	小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	-------------------------

お子さんの興味や日常の活動について、「よく知っている」が27.2%、「だいたい知っている」が62.3%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	よく知っている	だいたい知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
全体	268	73 27.2	167 62.3	25 9.3	3 1.1	0 0	0 0
小学校高学年	76	27 35.5	45 59.2	4 5.3	0 0	0 0	0 0
中学生	125	29 23.2	80 64	14 11.2	2 1.6	0 0	0 0
高校生	67	17 25.4	42 62.7	7 10.4	1 1.5	0 0	0 0

### ⑧ お子さんの普段の活動についての話し合い

回答者	小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	-------------------------

お子さんの普段の活動について、どの程度話し合っているかという問いに対し、「よく話し合っている」が23.1%、「ある程度話し合っている」が60.4%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	よく話し合っている	ある程度話し合っている	どちらともいえない	あまり話し合っていない	まったく話し合っていない	無回答
全体	268	62 23.1	162 60.4	32 11.9	9 3.4	1 0.4	2 0.7
小学校高学年	76	18 23.7	48 63.2	9 11.8	0 0	0 0	1 1.3
中学生	125	29 23.2	73 58.4	16 12.8	6 4.8	0 0	1 0.8
高校生	67	15 22.4	41 61.2	7 10.4	3 4.5	1 1.5	0 0

### ⑨ お子さんが外出する時の行き先等の認知度

回答者	小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	-------------------------

お子さんが外出する時の行き先や誰と一緒に、どの程度知っているかという問いに対し、「よく知っている」が44.4%、「だいたい知っている」が50.7%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	よく知っている	だいたい知っている	どちらともいえない	あまり知らない	まったく知らない	無回答
全体	268	119 44.4	136 50.7	9 3.4	1 0.4	0 0	3 1.1
小学校高学年	76	44 57.9	31 40.8	1 1.3	0 0	0 0	0 0
中学生	125	50 40	67 53.6	5 4	0 0	0 0	3 2.4
高校生	67	25 37.3	38 56.7	3 4.5	1 1.5	0 0	0 0

## ⑩ お子さんにアルバイトをさせたいか

回答者	高校生の保護者
-----	---------

お子さんにアルバイトをさせたいかという問いに対し、「アルバイトをさせたい」が88.1%、「アルバイトをさせたくない」が10.4%となっています。

アルバイトをさせたい理由は、「社会経験を積んでほしいから」が86.4%、「家計が厳しいから」が13.6%となっています。

【アルバイトをさせたいか】

【アルバイトをさせたい理由】

上段:実数 下段:%	合計	アルバイトをさせたい	アルバイトをさせたくない	無回答
高校生	67	59 88.1	7 10.4	1 1.5

上段:実数 下段:%	合計	社会経験を積んでほしいから	家計が厳しいから	その他	無回答
高校生	59	51 86.4	8 13.6	0	0

## (4) お子さんの教育について

### ① 就学援助について

回答者	小学5年生～中学3年生の保護者
-----	-----------------

現在、就学援助を受けているかという問いに対し、「受けている」は22.9%、「受けていない」は74.1%となっています。

「受けていない」を選択した回答者にその理由をたずねたところ、「必要なかった」(66.4%)が最も多く、次いで「申請要件を満たしていなかった」(20.1%)となっています。

【就学援助について】

上段:実数 下段:%	合計	受けている	受けていない	わからない	無回答
全体	201	46 22.9	149 74.1	2 1.0	4 2.0
小学校高学年	76	13 17.1	59 77.6	2 2.6	2 2.6
中学生	125	33 26.4	90 72	0	2 1.6

【就学援助を受けていない理由】

上段:実数 下段:%	合計	申請した が認定され なかった	必要な なかった	申請要件 を満たして いなかった	申請の仕 方がわか らなかった	申請するこ とに抵抗 があった	就学援助 を知らな かった	その他	無回答
全体	149	1 0.7	99 66.4	30 20.1	2 1.3	4 2.7	1 0.7	1 0.7	11 7.4
小学校高学年	59	0 0	40 67.8	11 18.6	0 0	3 5.1	0 0	0 0	5 8.5
中学生	90	1 1.1	59 65.6	19 21.1	2 2.2	1 1.1	1 1.1	1 1.1	6 6.7

② 奨学金について

回答者	高校生の保護者
-----	---------

お子さんは、奨学金を受けているかという問いに対し、「奨学金は受けていない」が89.6%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	給付型(返 済の必要 がないの 奨学金)	貸与型(将 来返済す る必要が ある)の奨 学金	その他のタ イプの奨学 金	奨学金は 受けていな い	無回答
高校生	67	4 6	1 1.5	1 1.5	60 89.6	1 1.5

③ お子さんに受けさせたい教育

回答者	小学5年生～中学3年生の保護者
-----	-----------------

お子さんにどの段階までの教育を受けさせたいかという問いに対し、「四年制大学またはそれ以上」(27.9%)が最も多く、次いで「まだわからない」(23.9%)、「高校」(20.9%)となっています。

上段:実数 下段:%	合計	中学	高校	高等専門 学校	短大	専門学校	四年制大 学または それ以上	まだわか らない	その他	無回答
全体	201	0 0.0	42 20.9	11 5.5	6 3.0	26 12.9	56 27.9	48 23.9	4 2	8 4.0
小学校高学年	76	0 0	12 15.8	3 3.9	2 2.6	11 14.5	19 25	25 32.9	2 2.6	2 2.6
中学生	125	0 0	30 24	8 6.4	4 3.2	15 12	37 29.6	23 18.4	2 1.6	6 4.8

#### ④ お子さんの高校卒業後の進路

回答者	高校生の保護者
-----	---------

お子さんの高校卒業後の進路は、「就職」(31.3%)が最も多く、次いで「専門学校進学」(28.4%)、「四年制大学進学」(22.4%)となっています。

上段:実数 下段:%	合計	就職	短大進学	専門学校 進学	四年制大 学進学	まだわから ない	その他	無回答
高校生	67	21 31.3	3 4.5	19 28.4	15 22.4	9 13.4	0 0	0 0

#### ⑤ お子さんの高校卒業後の進路を決める際に考慮すること

回答者	高校生の保護者
-----	---------

お子さんの高校卒業後の進路を決める際に考慮することについては、「高校の成績・入学試験」「家庭の経済的な状況」「本人の志望先がはっきりしているか」は8割以上の回答者が「考慮する(「とても考慮する」と「やや考慮する」の合算値)」としており、「その他の家庭の事情」は約5割、「地域に適切な進学先があるか」は約6割が「考慮する」として

上段:実数 下段:%		合計	とても考慮 する	やや考慮 する	あまり考 慮しない	まったく考 慮しない	無回答
高校生	高校の成績・入学試験	67	20 29.9	37 55.2	5 7.5	1 1.5	4 6
	家庭の経済的な状況	67	20 29.9	35 52.2	5 7.5	3 4.5	4 6
	その他の家庭の事情	67	12 17.9	24 35.8	17 25.4	8 11.9	6 9
	地域に適切な進学先があるか	67	14 20.9	27 40.3	13 19.4	9 13.4	4 6
	本人の志望先がはっきりしているか	67	47 70.1	16 23.9	1 1.5	1 1.5	2 3

## ⑥ お子さんの高校卒業後の進学にかかるお金の用意

回答者	高校生の保護者
-----	---------

お子さんが高校卒業後に進学する場合のお金の用意については、「奨学金を利用する」(53.7%)が最も多く、次いで「貯金を当てる」(35.8%)、「教育ローンを利用する」(35.8%)、「学資保険を当てる」(34.3%)となっています。また、「子ども本人のアルバイト」との回答も16.4%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	貯金を当てる	学資保険を当てる	奨学金を利用する	教育ローンを利用する	生活福祉資金・母子父子寡婦福祉資金を利用する	親せき等からの援助	子ども本人のアルバイト	金銭的なめどが立っていない	その他	無回答
高校生	67	24	23	36	24	2	1	11	6	1	2
		35.8	34.3	53.7	35.8	3	1.5	16.4	9	1.5	3

## ⑦ お子さんの高校卒業後の進学にかかる学費に対する考え

回答者	高校生の保護者
-----	---------

お子さんが高校卒業後に進学する場合、進学にかかる学費についての考えをたずねたところ、「卒業するまでの学費・生活費は親が負担するのが当然だ」、「返済が必要な奨学金は、将来の子どもの負担になるので借りたくない」、「返済が必要な奨学金は、将来何が起こるかわからないので借りたくない」については、5割以上が「そう思う（「強くそう思う」と「そう思う」の合算値）」と考えています。

また「学費は親が出すが、生活費は子どもがある程度負担すべきだ」「学費や生活費は奨学金やローンでまかない、本人が就職してから返すべきだ」については、約5割が「そう思わない（「そう思わない」と「まったくそう思わない」の合算値）」と考えています。

上段:実数 下段:%		合計	強くそう思う	そう思う	そう思わない	まったくそう思わない	無回答
高校生	卒業するまでの学費・生活費は親が負担するのが当然だ	67	13 19.4	31 46.3	16 23.9	3 4.5	4 6
	学費は親が出すが、生活費は子どもがある程度負担すべきだ	67	2 3	26 38.8	27 40.3	7 10.4	5 7.5
	学費や生活費は奨学金やローンでまかない、本人が就職してから返すべきだ	67	5 7.5	22 32.8	25 37.3	8 11.9	7 10.4
	返済が必要な奨学金は、将来の子どもの負担となるので借りたくない	67	16 23.9	23 34.3	19 28.4	4 6	5 7.5
	返済が必要な奨学金は、将来何が起こるかわからないので借りたくない	67	13 19.4	22 32.8	21 31.3	5 7.5	6 9

## (5) お子さんの持ち物やお子さんのためにしていること

### ① お子さんの持ち物について

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者
-----	-------------------------------

お子さんの持ち物についてみると、「お子さんが使用するインターネットにつながるパソコン」以外のものは、「持っている」が7割以上となっており、パソコンについては「必要と思わない」が45.0%、「経済的に持てない」が14.5%となっています。

【子どもの本(学校の教科書やマンガを除く)】

【子ども部屋(きょうだいと一緒に含む)】

上段:実数 下段:%	合計	持っている	必要と思 わない	経済的に 持てない	無回答	上段:実数 下段:%	合計	持っている	必要と思 わない	経済的に 持てない	無回答	
全体	373	317 85	25 6.7	13 3.5	18 4.8	全体	373	295 79.1	28 7.5	35 9.4	15 4	
小学校	低学年	75 85.3	64 8	6 8	3 4	2 2.7	小学校	低学年	75 66.7	50 16	12 10.7	8 6.7
	中学年	97 84.5	82 6.2	6 4.1	4 5.2	5 6.2		中学年	97 77.3	75 7.2	7 9.3	9 6.2
	高学年	76 86.8	66 7.9	6 1.3	1 3.9	3 2.6		高学年	76 81.6	62 3.9	3 11.8	9 2.6
中学生	125	105 84	7 5.6	5 4	8 6.4	中学生	125	108 86.4	6 4.8	9 7.2	2 1.6	

【お子さんが使用するインターネットにつながるパソコン】

【子ども専用の勉強机】

上段:実数 下段:%	合計	持っている	必要と思 わない	経済的に 持てない	無回答	上段:実数 下段:%	合計	持っている	必要と思 わない	経済的に 持てない	無回答	
全体	373	135 36.2	168 45	54 14.5	16 4.3	全体	373	324 86.9	26 7	10 2.7	13 3.5	
小学校	低学年	75 14.7	11 64	48 16	12 5.3	4 5.3	小学校	低学年	75 80	60 9.3	7 5.3	4 5.3
	中学年	97 29.9	29 50.5	49 13.4	13 6.2	6 6.2		中学年	97 79.4	77 12.4	12 3.1	3 5.2
	高学年	76 42.1	32 44.7	34 10.5	8 2.6	2 2.6		高学年	76 89.5	68 5.3	4 2.6	2 2.6
中学生	125	63 50.4	37 29.6	21 16.8	4 3.2	中学生	125	119 95.2	3 2.4	1 0.8	2 1.6	

【スポーツ用品(グローブやサッカーボール等)】

【ゲーム機】

上段:実数 下段:%	合計	持っている	必要と思 わない	経済的に 持てない	無回答	上段:実数 下段:%	合計	持っている	必要と思 わない	経済的に 持てない	無回答	
全体	373	301 80.7	43 11.5	14 3.8	15 4	全体	373	302 81	47 12.6	12 3.2	12 3.2	
小学校	低学年	75 80	60 9.3	7 6.7	5 4	3 4	小学校	低学年	75 60	45 29.3	22 6.7	5 4
	中学年	97 75.3	73 13.4	13 5.2	5 6.2	6 6.2		中学年	97 80.4	78 10.3	10 4.1	4 5.2
	高学年	76 84.2	64 10.5	8 0	0 5.3	4 5.3		高学年	76 88.2	67 7.9	6 1.3	1 2.6
中学生	125	104 83.2	15 12	4 3.2	2 1.6	中学生	125	112 89.6	9 7.2	2 1.6	2 1.6	

【多くの子どもが持っているおもちゃ】

【自転車】

上段:実数 下段:%	合計	持っている	必要と思 わない	経済的に 持てない	無回答	上段:実数 下段:%	合計	持っている	必要と思 わない	経済的に 持てない	無回答
全体	373	262 70.2	71 19	17 4.6	23 6.2	全体	373	341 91.4	8 2.1	12 3.2	12 3.2
小学校	低学年	75 77.3	58 16	12 2.7	2 4	小学校	低学年	75 90.7	68 1.3	3 4	3 4
	中学年	97 75.3	73 13.4	5 5.2	6 6.2		中学年	97 92.8	90 1	2 2.1	4 4.1
	高学年	76 72.4	55 18.4	14 3.9	3 5.3		高学年	76 96.1	73 0	1 1.3	2 2.6
中学生	125 60.8	76 25.6	32 5.6	7 8	中学生	125 88	110 4.8	6 4.8	6 4.8	3 2.4	

## ② お子さんのためにしていること

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者
-----	-------------------------------

お子さんのためにしていることについてみると、「毎年新しい洋服・靴を買う」「お誕生日のお祝いをする」「クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる」「子どもの学校行事などに親が参加する」は8割以上の回答者が「している」と回答しています。

また、「毎月おこづかいを渡す」「習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わず」「学習塾に通わず」「1年に1回以上、家族旅行やキャンプに行く」は2～3割の回答者が「したいが経済的にできない」と回答しています。

【毎月おこづかいを渡す】

【毎年新しい洋服・靴を買う】

上段:実数 下段:%	合計	している	したいが 経済的に できない	そもそも たくない	無回答	上段:実数 下段:%	合計	している	したいが 経済的に できない	そもそも たくない	無回答	
全体	373	133 35.7	62 16.6	132 35.4	46 12.3	全体	373	322 86.3	29 7.8	4 1.1	18 4.8	
小学校	低学年	75 21.3	16 17.3	37 49.3	9 12	小学校	低学年	75 89.3	67 8	6 8	0 0	2 2.7
	中学年	97 34	33 14.4	14 34	33 17.5		中学年	97 84.5	82 7.2	7 1	1 7.2	
	高学年	76 36.8	28 11.8	9 36.8	28 14.5		高学年	76 90.8	69 3.9	3 1.3	1 3.9	
中学生	125 44.8	56 20.8	26 27.2	34 27.2	9 7.2	中学生	125 83.2	104 10.4	13 1.6	2 1.6	6 4.8	

【習い事(音楽、スポーツ、習字等)に通わず】

【学習塾に通わず】

上段:実数 下段:%	合計	している	したいが 経済的に できない	そもそも たくない	無回答	上段:実数 下段:%	合計	している	したいが 経済的に できない	そもそも たくない	無回答	
全体	373	234 62.7	61 16.4	45 12.1	33 8.8	全体	373	95 25.5	109 29.2	114 30.6	55 14.7	
小学校	低学年	75 52	39 24	18 16	12 8	小学校	低学年	75 14.7	11 29.3	22 45.3	34 10.7	8 10.7
	中学年	97 67	65 16.5	16 10.3	10 6.2		中学年	97 24.7	24 22.7	22 35.1	34 17.5	
	高学年	76 77.6	59 9.2	7 5.3	4 7.9		高学年	76 30.3	23 31.6	24 23.7	18 14.5	
中学生	125 56.8	71 16	20 15.2	19 15.2	15 12	中学生	125 29.6	37 32.8	41 22.4	28 22.4	19 15.2	

## 【お誕生日のお祝いをする】

## 【1年に1回以上、家族旅行やキャンプに行く】

上段:実数 下段:%	合計	している	したいが 経済的に できない	そもそも たくない	無回答	上段:実数 下段:%	合計	している	したいが 経済的に できない	そもそも たくない	無回答
全体	373	357 95.7	1 0.3	0 0	15 4	全体	373	279 74.8	66 17.7	6 1.6	22 5.9
小学校	低学年	75 94.7	71 0	0 0	4 5.3	小学校	低学年	75 78.7	59 14	1 1.3	1 1.3
	中学年	97 94.8	92 0	0 0	5 5.2		中学年	97 79.4	77 14	1 1	5 5.2
	高学年	76 96.1	73 0	0 0	3 3.9		高学年	76 81.6	62 10	0 0	4 5.3
中学生	125	121 96.8	1 0.8	0 0	3 2.4	中学生	125	81 64.8	28 22.4	4 3.2	12 9.6

## 【クリスマスのプレゼントや正月のお年玉をあげる】

## 【子どもの学校行事などに親が参加する】

上段:実数 下段:%	合計	している	したいが 経済的に できない	そもそも たくない	無回答	上段:実数 下段:%	合計	している	したいが 経済的に できない	そもそも たくない	無回答
全体	373	353 94.6	6 1.6	3 0.8	11 2.9	全体	373	329 88.2	10 2.7	20 5.4	14 3.8
小学校	低学年	75 96	72 2	0 0	1 1.3	小学校	低学年	75 92	69 2	3 4	1 1.3
	中学年	97 93.8	91 0	1 1	5 5.2		中学年	97 92.8	90 2	1 1	4 4.1
	高学年	76 94.7	72 1	1 1.3	2 2.6		高学年	76 85.5	65 2	6 7.9	3 3.9
中学生	125	118 94.4	3 2.4	1 0.8	3 2.4	中学生	125	105 84	4 3.2	10 8	6 4.8

### ③ お子さんと一緒にしていること

回答者	小学1年生～4年生の保護者
-----	---------------

「お子さんの勉強をみる」は、「ほぼ毎日」が36.0%となっており、小学校低学年では5割以上となっています。「お子さんと遊ぶ」「お子さんと一緒に外出する」は、8割以上が週に1回以上しています。「お子さんと学校生活の話をする」は「ほぼ毎日」が約7割となっています。

【お子さんの勉強をみる】

上段:実数 下段:%	合計	めったにない・理由があつてできない	月に1～2回	週に1～2回	週に3～4回	ほぼ毎日	無回答
全体	172	9 5.2	18 10.5	40 23.3	37 21.5	62 36	6 3.5
小学校	低学年	75 3 4	4 5.3	14 18.7	13 17.3	41 54.7	0 0
	中学年	97 6 6.2	14 14.4	26 26.8	24 24.7	21 21.6	6 6.2

【お子さんと遊ぶ】

上段:実数 下段:%	合計	めったにない・理由があつてできない	月に1～2回	週に1～2回	週に3～4回	ほぼ毎日	無回答
全体	172	8 4.7	18 10.5	71 41.3	38 22.1	32 18.6	5 2.9
小学校	低学年	75 2 2.7	8 10.7	26 34.7	18 24	21 28	0 0
	中学年	97 6 6.2	10 10.3	45 46.4	20 20.6	11 11.3	5 5.2

【お子さんと学校生活の話をする】

上段:実数 下段:%	合計	めったにない・理由があつてできない	月に1～2回	週に1～2回	週に3～4回	ほぼ毎日	無回答
全体	172	1 0.6	2 1.2	19 11	34 19.8	113 65.7	3 1.7
小学校	低学年	75 0 0	2 2.7	8 10.7	14 18.7	51 68	0 0
	中学年	97 1 1	0 0	11 11.3	20 20.6	62 63.9	3 3.1

【お子さんといっしょに外出する】

上段:実数 下段:%	合計	めったにない・理由があつてできない	月に1～2回	週に1～2回	週に3～4回	ほぼ毎日	無回答
全体	172	2 1.2	37 21.5	75 43.6	26 15.1	28 16.3	4 2.3
小学校	低学年	75 1 1.3	16 21.3	31 41.3	10 13.3	17 22.7	0 0
	中学年	97 1 1	21 21.6	44 45.4	16 16.5	11 11.3	4 4.1

## (6) お子さんに関する制度の利用等について

### ① 子育てに関するサービスの利用状況

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者
-----	-------------------------------

子育てに関する制度やサービスの利用状況をみると、「放課後児童クラブ」は利用経験のある回答者が6割以上、「子育て支援センター」は利用経験のある回答者が約4割となっており、お子さんの年齢が低いほど割合が高い傾向がみられます。また、「ファミリーサポートセンター子育てサポート」と「発達支援センター」は、利用経験のない回答者が5割以上となっています。

【放課後児童クラブ】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要がある・制度の対象外だった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	身近なところに制度やサービスがなかった	無回答
全体	373	247 66.2	73 19.6	10 2.7	4 1.1	3 0.8	7 1.9	7 1.9	10 2.7	12 3.2
小学校	低学年	75 74.7	56 8	6 5.3	4 1.3	1 0	2 2.7	4 5.3	1 1.3	1 1.3
	中学年	97 70.1	68 17.5	17 0	0 0	1 1	2 2.1	2 2.1	2 2.1	5 5.2
	高学年	76 67.1	51 17.1	13 5.3	4 2.6	2 2.6	2 2.6	0 0	0 2.6	2 2.6
中学生	125	72 57.6	37 29.6	2 1.6	1 0.8	0 0	3 2.4	1 0.8	5 4	4 3.2

【ファミリーサポートセンター子育てサポート(社会福祉協議会)】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要がある・制度の対象外だった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	身近なところに制度やサービスがなかった	無回答
全体	373	35 9.4	204 54.7	2 0.5	11 2.9	12 3.2	34 9.1	41 11	6 1.6	28 7.5
小学校	低学年	75 16	12 40	30 0	0 1.3	1 4	3 13.3	10 16	12 1.3	6 8
	中学年	97 5.2	5 57.7	56 1	1 5.2	5 6.2	6 6.2	7 7.2	3 3.1	8 8.2
	高学年	76 9.2	7 59.2	45 1.3	1 2.6	2 2.6	3 3.9	6 7.9	6 7.9	1 1.3
中学生	125	11 8.8	73 58.4	0 0	3 2.4	0 0	12 9.6	16 12.8	1 0.8	9 7.2

【子育て支援センター】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要がある・制度の対象外だった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしなかったがわからなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	身近なところに制度やサービスがなかった	無回答
全体	373	135 36.2	159 42.6	0 0	4 1.1	5 1.3	17 4.6	17 4.6	5 1.3	31 8.3
小学校	低学年	75 49.3	37 25.3	19 0	0 0	1 1.3	6 8	4 5.3	1 1.3	7 9.3
	中学年	97 39.2	38 41.2	40 0	1 1	0 0	4 4.1	4 4.1	2 2.1	8 8.2
	高学年	76 38.2	29 46.1	35 0	0 0	3 3.9	1 1.3	3 3.9	1 1.3	4 5.3
中学生	125	31 24.8	65 52	0 0	3 2.4	1 0.8	6 4.8	6 4.8	1 0.8	12 9.6

【発達支援センター】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要がある・制度の対象外だった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用時間や制度・サービスが使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしなかったがわからなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	身近なところに制度やサービスがなかった	無回答
全体	373	32 8.6	270 72.4	1 0.3	1 0.3	6 1.6	12 3.2	17 4.6	4 1.1	30 8
小学校	低学年	75 14.7	11 65.3	49 0	0 0	3 4	1 1.3	4 5.3	1 1.3	6 8
	中学年	97 7.2	7 73.2	71 1	1 1	0 0	5 5.2	3 3.1	2 2.1	7 7.2
	高学年	76 1.3	1 81.6	62 0	0 0	3 3.9	1 1.3	3 3.9	0 0	6 7.9
中学生	125	13 10.4	88 70.4	0 0	0 0	0 0	5 4	7 5.6	1 0.8	11 8.8

◆「利用したことがある・利用している」方の「もっとこうしてほしい」という要望

主な意見
・放課後児童クラブは、体に悪いおやつを出さないでほしい。外で遊ばせてほしい
・放課後児童クラブは、休日・祝日も対応してほしい
・放課後児童クラブは、和琴からのバスの利便性が悪い。土曜・長期休暇もバスに乗れたら良い。 ・ファミリーサポートセンター子育てサポートは、僻地では使いにくかった。チケットの使い勝手が悪い。サポートとは名ばかりで、全てが事務的でこちらの負担が多かった。
・放課後児童クラブは、19時まで預かって欲しい。
・学校が臨時休校になると、児童クラブも休みになってしまうので、仕事に行けず困る事がある。何か考えてほしい。
・放課後児童クラブの学校が休みの日の送迎について、朝も必要ということだが、学校は1人で行っているのになぜか。朝だけは送迎なしでもOKにしてほしい
・放課後児童クラブの休日も送り迎えが必要とのこと。朝の学校へは親の付き添いがなくても行っているのに児童クラブはなぜダメなのか。
・児童クラブの設備の老朽化対策や、空き教室を利用した学校内への設置。あるいは学校のそばにしてほしい
・児童クラブは親が働く家庭にとって、子供の第2の家であってほしいという願いがある。優しさ、あたたかい言葉がけ、一緒に遊ぶなど積極的にしてほしい。おやつはなるべく身体に良いもの(本当は手作りなど…イモをふかしたものにぎり、果物etc)であってほしい。そのためにクラブ費用が高くなっても良いので、ぜひおやつの改善をしてほしい。
・児童館に「学習室」を設置してほしい。たくさんの子供が利用していると、遊びの声や音がうるさくて集中して勉強できない。
・放課後児童クラブについて、子どもが低学年の時、親を町外の病院へ送迎し、子どもの下校時間までに帰宅できない時があり困って児童クラブに相談したところ、一度利用させてもらったが、本来は児童クラブの登録対象外であったためその後利用は難しかった。日常的に利用していることもたちの環境を損なうことはよくないが、やむを得ず利用が必要になったり、近所に子どもがいないなどで放課後に他の子どもと遊ぶ機会がない子どものために利用対象が広がるといい。
・放課後児童クラブは、働いてる親にとって大切な場であり、先生達が子供達のために専念出来るよう役場からのサポートをお願いしたい。
・利用できる人数を増やしてほしい。
・子育て支援センターは、午後行く場合、幼稚園児も一緒に行けると良い。
・子育て支援センターを利用したい方がたくさんいると思う。初めて利用した時、もともと利用していた方達の輪の中に入りづらく感じた。
・子育てサポートがもっと料金的に安いとうれしい。
・また行きたいと言う、楽しさがほしい。親が固定化されていて近づきにくい。
・時間も短いので送迎が大変
・小学生が病欠する際の子育てサポートの受け入れがあっても良いと思う
・通える日数が少ない。時間が選べないのは不便。
・発達支援センターは、一時間で子どもに合ったサポートをしているのかよくわからない、言いにくい、話しづらい
・発達支援について、親では子供の発達遅延の基準が曖昧で支援センターのサービスを受けて良いものか判断できず、利用するまでに時間がかかったのもっと利用しようと思うきっかけが欲しい
・利用している子供が他の子どもの使っているおもちゃを奪ったり、叩いたりすることがあるが、親は他の親と話していたり、携帯電話を見ていて、子供を見ていない。利用するにあたり、親は、子供の様子を見ることを指導するべき。
・利用したくても小学生までといわれ、利用できない。中学生でも利用させてほしい。学校では自閉症の子どものトレーニングなどないため、学校に行けない子供は、支援センターなど利用できるとよい。
・町の中心に作ってほしい。
・手続きに手間がかかる。もっと簡易的にしてほしい。高学年向けの施設もあるといい

◆「利用したことがない」方のその理由や課題

主な意見
・時間が合わない
・どのような事で利用して良いのかわからない。 ・役場など行って話してもなかなか大きな声で話してほしくない内容を言われたり聞かれたりするので、周りに人がいないなど話せる場があると良い。
・僻地であり、迎えに行く時間がない。
・もっと分かりやすく案内を出してほしい。
・子育てサポート、子育て支援などまったく分からない
・ある事すら知らなかった
・本当は知りたかったが情報がなかった。
・家の近くにない。情報がいないため使うことを考えなかった。
・遠すぎる
・子育てサポートは、どのような方に見てもらえるかが心配な点であった。チラシを見たことはあったが、園などでサポートの説明をしてもらえると良い。 ・子どもが就園前ちょっとした用事を済ませたい時に保育園、支援センターなどの場所で託児してもらえるとよい。
・子育てサポートは、申込先や料金体系、どのような方がみてるのかなど、わからないことが多い。
・子育てサポートは実際、どれくらい費用がかかるのか(時給)分からない
・子育て支援センターは、グループになっていて入りにくい
・美留和地区に放課後預けられる制度がない。
・放課後児童クラブは、親が働いていて昼間1人になる子供が通うところなので、親が体調が悪い場合や介護で忙しいなどの場合は使えないことが不便。働いていない親の子供が通える場所があったほうがいい。
・放課後児童クラブは、あまりいい環境である事を聞かないので、利用しづらい。子供たちの事をしっかり見てくれる方を採用するなど、対策して欲しい。
・発達支援センターの先生はあまり良い感じがしない
・きついことを言うので相談したくない。担任の先生の方がよい。
・自分の体調が悪く、つれて行く事ができない
・子供達の学校外のコミュニケーション構築のため、幅広い世帯が利用できるべき(ほとんどの子が自クラブに行っていて、仲間意識が強い)

## ② 相談機関や相談員への相談状況

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	---------------------------------------

子育てや生活についての相談経験のある機関や相談員についてみると、「子育て支援センター」への相談経験のある回答者が約2割となっていますが、その他の機関や相談員については相談経験のある回答者は1割以下となっています。また、相談経験がない理由としては「相談する必要がなかった」の割合がいずれの項目においても高くなっています。

【子育て支援センター】

上段:実数 下段:%	合計	相談したことがある・相談している	相談する必要がなかった	相談時間や場所などが使いづらかった	相談するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	相談する気にならなかった	無回答
全体	373	69 18.5	241 64.6	6 1.6	3 0.8	11 2.9	12 3.2	31 8.3
小学校	低学年	27 36	32 42.7	3 4	1 1.3	3 4	4 5.3	5 6.7
	中学年	19 19.6	63 64.9	0 0	0 0	1 1	6 6.2	8 8.2
	高学年	12 15.8	54 71.1	2 2.6	0 0	2 2.6	0 0	6 7.9
中学生	11 8.8	92 73.6	1 0.8	2 1.6	5 4	2 1.6	12 9.6	

【児童相談所】

上段:実数 下段:%	合計	相談したことがある・相談している	相談する必要がなかった	相談時間や場所などが使いづらかった	相談するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	相談する気にならなかった	無回答
全体	440	8 1.8	351 79.8	5 1.1	11 2.5	19 4.3	16 3.6	30 6.8
小学校	低学年	2 2.7	53 70.7	3 4	3 4	3 4	4 5.3	7 9.3
	中学年	0 0	81 83.5	0 0	1 1	3 3.1	4 4.1	8 8.2
	高学年	0 0	65 85.5	0 0	0 0	2 2.6	4 5.3	5 6.6
中学生	4 3.2	101 80.8	1 0.8	4 3.2	5 4	2 1.6	8 6.4	
高校生	2 3	51 76.1	1 1.5	3 4.5	6 9	2 3	2 3	

【母子家庭等就業・自立支援センター】

上段:実数 下段:%	合計	相談したことがある・相談している	相談する必要がなかった	相談時間や場所などが使いづらかった	相談するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	相談する気にならなかった	無回答
全体	440	5 1.1	367 83.4	3 0.7	9 2	15 3.4	9 2	32 7.3
小学校	低学年	75 1 1.3	57 76	3 4	2 2.7	1 1.3	3 4	8 10.7
	中学年	97 0 0	83 85.6	0 0	0 0	3 3.1	3 3.1	8 8.2
	高学年	76 1 1.3	68 89.5	0 0	0 0	1 1.3	1 1.3	5 6.6
中学生	125 2 1.6	104 83.2	0 0	5 4	6 4.8	1 0.8	7 5.6	
高校生	67 1 1.5	55 82.1	0 0	2 3	4 6	1 1.5	4 6	

【その他相談窓口役場(町民相談)】

上段:実数 下段:%	合計	相談したことがある・相談している	相談する必要がなかった	相談時間や場所などが使いづらかった	相談するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	相談する気にならなかった	無回答
全体	440	21 4.8	334 75.9	4 0.9	14 3.2	17 3.9	18 4.1	32 7.3
小学校	低学年	75 5 6.7	49 65.3	2 2.7	4 5.3	2 2.7	6 8	7 9.3
	中学年	97 5 5.2	76 78.4	0 0	1 1	2 2.1	5 5.2	8 8.2
	高学年	76 3 3.9	62 81.6	0 0	1 1.3	2 2.6	3 3.9	5 6.6
中学生	125 5 4	98 78.4	1 0.8	3 2.4	6 4.8	3 2.4	9 7.2	
高校生	67 3 4.5	49 73.1	1 1.5	5 7.5	5 7.5	1 1.5	3 4.5	

【スクールカウンセラー】

上段:実数 下段:%	合計	相談したことがある・相談している	相談する必要がなかった	相談時間や場所などが使いづらかった	相談するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	相談する気にならなかった	無回答
全体	440	10 2.3	351 79.8	5 1.1	9 2	18 4.1	14 3.2	33 7.5
小学校	低学年	75 0 0	55 73.3	1 1.3	3 4	4 5.3	3 4	9 12
	中学年	97 0 0	82 84.5	1 1	1 1	2 2.1	3 3.1	8 8.2
	高学年	76 1 1.3	65 85.5	0 0	2 2.6	1 1.3	1 1.3	6 7.9
中学生	125 7 5.6	97 77.6	2 1.6	0 0	6 4.8	4 3.2	9 7.2	
高校生	67 2 3	52 77.6	1 1.5	3 4.5	5 7.5	3 4.5	1 1.5	

【民生委員・児童委員】

上段:実数 下段:%	合計	相談した ことがある・ 相談して いる	相談する 必要がな かった	相談時間 や場所な どが使い づらかった	相談する のに抵抗 感があつ た	利用のし かたがわ からなかつ た	相談する 気にならな かった	無回答
全体	440	3 0.7	358 81.4	1 0.2	11 2.5	21 4.8	13 3	33 7.5
小学校	低学年	75 0	55 73.3	1 1.3	4 5.3	3 4	4 5.3	8 10.7
	中学年	97 0	82 84.5	0 0	1 1	2 2.1	4 4.1	8 8.2
	高学年	76 1 1.3	66 86.8	0 0	1 1.3	2 2.6	1 1.3	5 6.6
中学生	125 0.8	103 82.4	0 0	2 1.6	8 6.4	1 0.8	10 8	
高校生	67 1 1.5	52 77.6	0 0	3 4.5	6 9	3 4.5	2 3	

【発達支援センター】

上段:実数 下段:%	合計	相談した ことがある・ 相談して いる	相談する 必要がな かった	相談時間 や場所な どが使い づらかった	相談する のに抵抗 感があつ た	利用のし かたがわ からなかつ た	相談する 気にならな かった	無回答
全体	373	27 7.2	297 79.6	1 0.3	9 2.4	6 1.6	8 2.1	25 6.7
小学校	低学年	75 9 12	52 69.3	1 1.3	5 6.7	0 0	3 4	5 6.7
	中学年	97 8 8.2	76 78.4	0 0	1 1	2 2.1	4 4.1	6 6.2
	高学年	76 1 1.3	68 89.5	0 0	1 1.3	1 1.3	0 0	5 6.6
中学生	125 7.2	101 80.8	0 0	2 1.6	3 2.4	1 0.8	9 7.2	

◆「相談したことがある・相談している」方の「もっとこうしてほしい」という要望

主な意見
・発達テストをセンターで受け、発達障害であるとわかった時点で「もくば」という場があり、通ってみませんか？等の働きかけ促しがすぐほしかった。引越してきたばかりで何もわからない状態で公的機関側は受身だと実感した。
・発達支援センターは、もっと簡単に利用できたらと思う。町外機関を利用する事になった時も時間がかかりすぎる。
・プライバシーを守ってほしい。
・子育て支援センターは、定期的に利用していないと輪に入りにくい事がある。先生たちに間に入ってもらえると助かる。
・子どもの健康相談(月曜日)に行った事があるが保健師によっては身長、体重を測って終わりの人もいて、相談できる環境ではない事も多い。
・役場の保健士さんなど、発達障害等についてももっと学習してほしい。
・そもそも役場の雰囲気が悪く、行きづらい、相談しづらい。
・スクールカウンセラーは何もしてくれない。話を聞くだけなら学校の先生でもいい。子供との面談を中学校に行かなければしてくれない。学校に行けない子供には、どうしたらいいのかわからない。もっと他の場所や、子供が行けそうな所まで来てくれてもいいと思う。

◆「相談したことがない」方のその理由や課題

・民生委員は相談する方なのかかわからない。主な活動内容が一般市民には不明であること、どういふ方々なのかかわからない。
・母子家庭等・自立支援センターは母子家庭じゃなくても利用したいことがあったが母子家庭じゃないと参加できないのかなと残念に思った。児童相談所は遠いので相談しやすい所ではないと思う。
・“相談する必要がなかった”のではなくて、その施設の存在を知らなかったり(スクールカウンセラーや民生委員)相談するところ、という概念もなかった。
・相談にのってくれる人がどのような人なのか、どんなことを相談していいのかわからない。
・相談の仕方がわからない
・情報がなかった。
・どんなサービス内容なのかかわからない
・相談したところで、充実した病院等がない。
・先生やママ友に相談した方がはやい
・同じく子育てしている友人との雑談で、必要なことは解決できた。周りに相談できる人がいる。
・インターネットや本の方が自分にあつた答えを見つけられるように感じているため
・プライバシーが保たれない恐れがあるため。
・小さな町なので、なにかとウワサになりそうで相談できません。
・スクールカウンセラーを利用したことがあるが、場所が行きにくい。

### ③ 子育てに関する制度の利用状況

回答者	小学1年生～4年生の保護者／小学5年生～中学3年生の保護者／高校生の保護者
-----	---------------------------------------

子育てに関する制度の利用状況をみると、「児童扶養手当」「就学援助」は利用経験のある回答者が約3割となっていますが、「生活保護」「生活福祉資金」「母子父子寡婦福祉資金」については利用経験のある回答者は、1割以下となっています。また、利用経験がない理由としては「利用する必要がなかった・制度の対象外だった」の割合がいずれの項目においても高くなっています。

【児童扶養手当】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった制度の対象外だった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使えなかった	利用するのに抵抗があった	利用のしかなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	無回答
全体	440	114 25.9	264 60	10 2.3	0 0	2 0.5	6 1.4	6 1.4	38 8.6
小学校	低学年	75 24	42 56	4 5.3	0 0	0 0	1 1.3	1 1.3	9 12
	中学年	97 24.7	24 62.9	3 3.1	0 0	0 0	1 1	2 2.1	6 6.2
	高学年	76 22.4	17 65.8	50 1.3	1 0	0 0	1 1.3	0 0	7 9.2
中学生	125	37 29.6	73 58.4	1 0.8	0 0	0 0	3 2.4	3 2.4	8 6.4
高校生	67	18 26.9	38 56.7	1 1.5	0 0	1 1.5	1 1.5	0 0	8 11.9

【生活保護】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要がなかった制度の対象外だった	利用したかったが条件を満たしていなかった	利用したかったが制度が使えなかった	利用するのに抵抗があった	利用のしかなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	無回答
全体	440	11 2.5	362 82.3	3 0.7	0 0	7 1.6	5 1.1	10 2.3	42 9.5
小学校	低学年	75 1.3	61 81.3	1 1.3	0 0	0 0	1 1.3	3 4	8 10.7
	中学年	97 4.1	4 81.4	79 2.1	2 0	0 1	0 0	3 3.1	8 8.2
	高学年	76 0	0 85.5	65 0	0 0	0 0	2 2.6	0 2.6	7 9.2
中学生	125	2 1.6	105 84	0 0	0 0	3 2.4	3 2.4	2 1.6	10 8
高校生	67	4 6	52 77.6	0 0	0 0	1 1.5	1 1.5	0 0	9 13.4

【生活福祉資金】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要があるがなかった制度の対象外だった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかったが制度が使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	無回答
全体	440	5 1.1	345 78.4	3 0.7	0 0	2 0.5	12 2.7	27 6.1	46 10.5
小学校	低学年	75	3 4	57 76	2 2.7	0 0	1 1.3	3 4	9 12
	中学年	97	2 2.1	78 80.4	1 1	0 0	0 0	6 6.2	10 10.3
	高学年	76	0 0	62 81.6	0 0	0 0	1 1.3	2 2.6	4 5.3
中学生	125	0 0	97 77.6	0 0	0 0	1 0.8	6 4.8	12 9.6	9 7.2
高校生	67	0 0	51 76.1	0 0	0 0	0 0	3 4.5	2 3	11 16.4

【母子父子寡婦福祉資金】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要があるがなかった制度の対象外だった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかったが制度が使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	無回答
全体	176	4 2.3	136 77.3	2 1.1	0 0	0 0	2 1.1	11 6.3	21 11.9
小学校	低学年	75	2 2.7	57 76	1 1.3	0 0	2 2.7	4 5.3	9 12
	中学年	97	2 2.1	77 79.4	1 1	0 0	0 0	6 6.2	11 11.3
	高学年	76	0 0	61 80.3	1 1.3	0 0	1 1.3	5 6.6	7 9.2
中学生	125	2 1.6	95 76	0 0	0 0	0 0	5 4	14 11.2	9 7.2
高校生	67	0 0	51 76.1	0 0	1 1.5	0 0	2 3	3 4.5	10 14.9

【就学援助】

上段:実数 下段:%	合計	利用したことがある・利用している	利用する必要があるがなかった制度の対象外だった	利用しなかったが条件を満たしていなかった	利用しなかったが制度が使いづらかった	利用するのに抵抗感があった	利用のしかなかった	制度のサービスについてまったく知らなかった	無回答
全体	176	45 25.6	106 60.2	4 2.3	0 0	1 0.6	3 1.7	1 0.6	16 9.1
小学校	低学年	75	19 25.3	44 58.7	2 2.7	0 0	1 1.3	1 1.3	8 10.7
	中学年	97	26 26.8	60 61.9	2 2.1	0 0	2 2.1	0 0	7 7.2
高校生	67	17 25.4	40 59.7	0 0	0 0	0 0	3 4.5	0 0	7 10.4

【就学援助について】(回答者:小学5年生～中学3年生の保護者)(再掲)

上段:実数 下段:%	合計	受けている	受けていない	わからない	無回答
全体	201	46 22.9	149 74.1	2 1.0	4 2.0
小学校高学年	76	13 17.1	59 77.6	2 2.6	2 2.6
中学生	125	33 26.4	90 72	0 0	2 1.6

【就学援助を受けていない理由】(回答者:小学5年生～中学3年生の保護者)(再掲)

上段:実数 下段:%	合計	申請した が認定され なかった	必要な なかった	申請要件 を満たして いなかった	申請の仕 方がわか らなかった	申請するこ とに抵抗 があった	就学援助 を知らな かった	その他	無回答
全体	149	1 0.7	99 66.4	30 20.1	2 1.3	4 2.7	1 0.7	1 0.7	11 7.4
小学校高学年	59	0 0	40 67.8	11 18.6	0 0	3 5.1	0 0	0 0	5 8.5
中学生	90	1 1.1	59 65.6	19 21.1	2 2.2	1 1.1	1 1.1	1 1.1	6 6.7

◆「利用したことがある・利用している」方の「もっとこうしてほしい」という要望

主な意見
・扶養手当が、全支給から一部支給になった。子供との時間を犠牲にして夜遅くまで働いているから収入が上っているのに、引かれる分も上がり手取りはほとんど変わらない。収入限度額が少し出たくらいで生活内容も知らず一部支給になるのはひどいなと思う。
・就学援助は前の学校では銀行振込みだったため、手渡しの制度に驚いた。振り込みにしてほしい。手渡しであるため仕事を休んだり早退しないといけないなら元も子もない。
・就学援助は学校に取りに行かなくてはならない所が不便。口座に給食費を差し引いた残りの分を入れてもらったほうが助かる。
・就学援助は、銀行振込みにしてもらえると助かる。利用したくても、学校からの手紙の受取に子供が抵抗があったり、親も直接学校に取りに行くのに抵抗がある。
・就学援助はプライバシーの観点からも銀行振込でお願いしたい。
・就学援助を利用して文具など必要な物などを購入させてもらっているが、絵の具セットなど必要な物を購入しなければならず金額的に足りないと思う。
・就学援助を利用しているが、辞典や習字道具など、購入しなければならないものが多い。
・高校の無償化をしてほしい。
・プライバシーを守ってほしい
・母子や低所得者への援助制度があっても、それを知る機会がない。「広報てしかが」に載っているが、いつも目を通せる訳ではないし、自治会に入らなければ広報自体ももらえない。案内通知書等あればありがたい。無理なら役場や支所で母子関係の手続時に制度の紹介をしてほしい。
・その家庭の状況を聞こうとせず、何の意味もなかった。他の町では、同じ状況でもしてくれていた。弟子屈町では頼れないと思った。基本、認定の基準は同じだと思うが、違った。
・条件に不満がある。きちんとした話を聞いてもらえなかったので、話す気がなくなった。事情をわかろうとして欲しかった。
・生活保護のため、高校の修学旅行費をせめて半額でもいいから出してもらおうと助かる。

◆「利用したことがない」方のその理由や課題

主な意見
・世帯のみの収入で計算してもらえるようになればいい。世帯以外の同居人全員の収入が入るため、条件を満たせない。就学援助だけでもかわってあげばとても助かる。
・自分は成人の発達障がい(ADHD)の診断を受けており、生活に支障もあり助けがほしいと思うことも多いが、自分の要件に合う制度や援助がないのであきらめている。
・利用者が多く町のお金(財政)を圧迫しているよう感じる。調査をして本当に必要な人のみにしていただくとありがたい。
・父親が別居していて、離婚はしていない場合はどこまでの手当てが受けられるのかが定かでない。
・子供達の支援は必要で、色々な事情があるだろうから、必要な人に必要な支援をする事は大切な事だと思う。
・どのような制度なのか、自分が対象となるのかどうか分からない。

### 3. 生活習慣や将来のこと等に関して(子どもによる回答)

#### (1) 回答者について

性別は、「男性」が48.2%、「女性」が51.5%となっています。高校生については、男性よりも女性の回答者がやや多くなっています。

上段:実数 下段:%	合計	男	女	無回答
全体	274	132 48.2	141 51.5	1 0.4
小学校高学年	79	41 51.9	37 46.8	1 1.3
中学生	128	65 50.8	63 49.2	0 0
高校生	67	26 38.8	41 61.2	0 0

#### (2) 日頃の生活について

##### ① 翌日、学校がある日の就寝時間

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

翌日、学校がある日の就寝時間は、「午後10時台」(35.8%)が最も多く、次いで「午後11時台」(31.0%)となっています。また、学年が上がるにつれて、就寝時間が遅くなる傾向がみられます。

上段:実数 下段:%	合計	午後9時より前	午後9時台	午後10時台	午後11時台	午前0時台	午前1時より後	無回答
全体	274	5 1.8	34 12.4	98 35.8	85 31	46 16.8	5 1.8	1 0.4
小学校高学年	79	3 3.8	22 27.8	42 53.2	11 13.9	1 1.3	0 0	0 0
中学生	128	2 1.6	10 7.8	46 35.9	52 40.6	16 12.5	2 1.6	0 0
高校生	67	0 0	2 3	10 14.9	22 32.8	29 43.3	3 4.5	1 1.5

## ② 学校がある日の起床時間

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

普段学校がある日の起床時間は、「午前6時台」「午前7時台」が多くなっています。

上段:実数 下段:%	合計	午前5時より前	午前5時台	午前6時台	午前7時台	午前8時台	午前9時より後	無回答
全体	274	1 0.4	20 7.3	121 44.2	129 47.1	0	1 0.4	2 0.7
小学校高学年	79	0 0	8 10.1	35 44.3	34 43	0	0 0	2 2.5
中学生	128	1 0.8	7 5.5	64 50	56 43.8	0	0 0	0 0
高校生	67	0 0	5 7.5	22 32.8	39 58.2	0	1 1.5	0 0

## ③ 平日の朝ごはんについて

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

平日の朝ごはんは、「毎日、食べる」が78.8%、「たまに食べない日がある」が12.0%となっています。学年が上がるにつれて「毎日、食べる」の割合が低くなり、「たまに食べない日がある」の割合が高くなる傾向がみられます。

上段:実数 下段:%	合計	毎日、食べる	たまに食べない日がある	食べない日がよくある	いつも食べない	無回答
全体	274	216 78.8	33 12	12 4.4	10 3.6	3 1.1
小学校高学年	79	68 86.1	7 8.9	2 2.5	2 2.5	0 0
中学生	128	103 80.5	14 10.9	6 4.7	3 2.3	2 1.6
高校生	67	45 67.2	12 17.9	4 6	5 7.5	1 1.5

## ④ 平日に夕食を一緒に食べる人

回答者	小学5年生～中学3年生
-----	-------------

平日の夕食を一緒に食べる人は、「親」(88.9%)や「きょうだい」(58.0%)が多くなっている一方で、「一人で食べる」も1割程度みられます。

上段:実数 下段:%	合計	親	きょうだい	その他の家族(祖父母など)	家族以外の人	一人で食べる	無回答
全体	207	184 88.9	120 58	37 17.9	4 1.9	22 10.6	1 0.5
小学校高学年	79	74 93.7	50 63.3	14 17.7	1 1.3	8 10.1	0 0
中学生	128	110 85.9	70 54.7	23 18	3 2.3	14 10.9	1 0.8

### ⑤ 平日の放課後は一人でいることがあるか

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

平日の放課後、一人でいることがあるかという問いに対し、「ない（「まったくない」と「あまりない」の合算値）」が7割以上、「ある（「ときどきある」と「よくある」の合算値）」が約3割となっています。

上段:実数 下段:%	合計	まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	無回答
全体	274	86 31.4	112 40.9	54 19.7	18 6.6	4 1.5
小学校高学年	79	37 46.8	22 27.8	14 17.7	6 7.6	0
中学生	128	34 26.6	59 46.1	26 20.3	8 6.3	1 0.8
高校生	67	15 22.4	31 46.3	14 20.9	4 6	3 4.5

### ⑥ 部活動について

回答者	中学生／高校生
-----	---------

部活動に「参加している」は59.5%、「参加していない」は40.0%となっています。また、「参加していない」理由としては、「入りたい部がないから」（32.1%）や「塾や習い事があるから」（19.2%）が多くなっています。

【部活動について】

上段:実数 下段:%	合計	参加している	参加していない	無回答
全体	195	116 59.5	78 40	1 0.5
中学生	128	69 53.9	59 46.1	0
高校生	67	47 70.1	19 28.4	1 1.5

【部活動に参加指定ない理由】

上段:実数 下段:%	合計	入りたい部がないから	家の事情（家族の世話、家事など）があるから	お金がかかるから	家族の人の協力や参加が必要だから	アルバイトがあるから	子ども会など、地域の活動をしているから	塾や習い事があるから	その他	無回答
全体	78	25 32.1	5 6.4	5 6.4	3 3.8	0 0	2 2.6	15 19.2	36 46.2	4 5.1
中学生	59	22 37.3	3 5.1	2 3.4	2 3.4	0 0	2 3.4	13 22	26 44.1	3 5.1
高校生	19	3 15.8	2 10.5	3 15.8	1 5.3	0 0	0 0	2 10.5	10 52.6	1 5.3

⑦ 休日に一人でいることがあるか

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

休日に一人でいることがあるかという問いに対し、「ない（「まったくない」と「あまりない」の合算値）」が約6割、「ある（「ときどきある」と「よくある」の合算値）」が約4割となっています。また、学年が上がるにつれて「ある」の割合が高くなる傾向がみられます。

上段:実数 下段:%	合計	まったくない	あまりない	ときどきある	よくある	無回答
全体	274	60 21.9	92 33.6	63 23	54 19.7	5 1.8
小学校高学年	79	30 38	26 32.9	13 16.5	8 10.1	2 2.5
中学生	128	21 16.4	52 40.6	30 23.4	24 18.8	1 0.8
高校生	67	9 13.4	14 20.9	20 29.9	22 32.8	2 3

⑧ 健康状態について

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

健康状態は、「よい」が44.2%、「まあよい」が21.9%、「ふつう」が22.6%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答
全体	274	121 44.2	60 21.9	62 22.6	26 9.5	3 1.1	2 0.7
小学校高学年	79	47 59.5	16 20.3	12 15.2	3 3.8	0 0	1 1.3
中学生	128	52 40.6	27 21.1	32 25	15 11.7	1 0.8	1 0.8
高校生	67	22 32.8	17 25.4	18 26.9	8 11.9	2 3	0 0

## ⑨ スマートフォンや携帯電話等の1日の使用時間

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生(別々)
-----	---------------------

「スマートフォン・携帯電話・タブレット」の使用時間は、「1時間～2時間未満」(19.3%)、「2時間～3時間未満」(21.2%)が多く、学年が上がるにつれて使用時間が長くなる傾向がみられます。

「ゲーム機によるゲーム」は、「まったくしない・持っていない」(33.2%)、「30分より少ない」(16.8%)、「30～1時間未満」(15.3%)が多くなっています。

【スマートフォン・携帯電話・タブレット】

上段:実数 下段:%	合計	まったくしない・持っていない	30分より少ない	30～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間以上	無回答
全体	274	37 13.5	20 7.3	29 10.6	53 19.3	58 21.2	27 9.9	38 13.9	12 4.4
小学校高学年	79	17 21.5	13 16.5	11 13.9	12 15.2	8 10.1	4 5.1	9 11.4	5 6.3
中学生	128	19 14.8	6 4.7	10 7.8	30 23.4	33 25.8	14 10.9	10 7.8	6 4.7
高校生	67	1 1.5	1 1.5	8 11.9	11 16.4	17 25.4	9 13.4	19 28.4	1 1.5

【ゲーム機によるゲーム】

上段:実数 下段:%	合計	まったくしない・持っていない	30分より少ない	30～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～3時間未満	3時間～4時間未満	4時間以上	無回答
全体	274	91 33.2	46 16.8	42 15.3	35 12.8	21 7.7	9 3.3	11 4	19 6.9
小学校高学年	79	19 24.1	10 12.7	14 17.7	15 19	8 10.1	2 2.5	5 6.3	6 7.6
中学生	128	49 38.3	12 9.4	23 18	16 12.5	8 6.3	6 4.7	3 2.3	11 8.6
高校生	67	23 34.3	24 35.8	5 7.5	4 6	5 7.5	1 1.5	3 4.5	2 3

⑩ 家事や兄弟の世話等について

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生 家事:共通、兄弟の世話:別々
-----	--------------------------------

家事（掃除、選択、料理、片付け）は、「1週間に2～3日」（29.6%）が最も多く、次いで「1週間に1日」（21.2%）、「まったくしない」（20.8%）となっています。

「きょうだいの世話や祖父母の介護」は、「まったくしない」（68.2%）が多くなっています。

【家事(掃除、選択、料理、片付け)】

上段:実数 下段:%	合計	まったくしない	1週間に1日	1週間に2～3日	1週間に4～5日	1週間に6～7日	無回答
全体	274	57 20.8	58 21.2	81 29.6	36 13.1	40 14.6	2 0.7
小学校高学年	79	16 20.3	23 29.1	20 25.3	10 12.7	10 12.7	0 0
中学生	128	30 23.4	22 17.2	41 32	18 14.1	16 12.5	1 0.8
高校生	67	11 16.4	13 19.4	20 29.9	8 11.9	14 20.9	1 1.5

【きょうだいの世話や祖父母の介護】

上段:実数 下段:%	合計	まったくしない	1週間に1日	1週間に2～3日	1週間に4～5日	1週間に6～7日	無回答
全体	274	187 68.2	20 7.3	17 6.2	13 4.7	24 8.8	13 4.7
小学校高学年	79	43 54.4	8 10.1	7 8.9	4 5.1	12 15.2	5 6.3
中学生	128	89 69.5	11 8.6	6 4.7	6 4.7	8 6.3	8 6.3
高校生	67	55 82.1	1 1.5	4 6	3 4.5	4 6	0 0

## ⑪ アルバイトについて

回答者	高校生
-----	-----

アルバイトについては、「したい」が79.1%、「したいと思わない」が20.9%となっています。また、アルバイトをしたい理由としては「趣味や娯楽のため」(66.0%)が最も多く、次いで「進学・就学費用のため」(43.4%)、「友だちとの付き合いや遊びのため」(35.8%)となっています。

【アルバイトについて】

上段:実数 下段:%	合計	したい	したいと思わない
高校生	67	53 79.1	14 20.9

【アルバイトをしたい理由】

上段:実数 下段:%	合計	友だちとの 付き合い や遊びの ため	スマホ・携 帯代を支 払うため	趣味や娯 楽のため	部活・クラ ブ活動の ため	生活費(家 賃・食費・ 水道光熱 費)のため	学費(授業 料)のため	通学費の ため	進学・就学 費用のため	学校のお 昼ご飯代	その他	無回答
高校生	53	19 35.8	5 9.4	35 66	2 3.8	4 7.5	1 1.9	0 0	23 43.4	3 5.7	3 5.7	1 1.9

## ⑫ 一番仲が良い友達について

回答者	小学5年生～中学3年生
-----	-------------

一番仲が良い友達は、「学校の友だち」が88.4%と多くなっています。

上段:実数 下段:%	合計	学校の友 だち	学校外の 友だち	特に仲の 良い友だ ちはいな い	その他	無回答
全体	207	183 88.4	15 7.2	5 2.4	3 1.4	1 0.5
小学校高学年	79	67 84.8	8 10.1	2 2.5	1 1.3	1 1.3
中学生	128	116 90.6	7 5.5	3 2.3	2 1.6	0 0

### ⑬ 悩みごと等の相談相手

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生 別々
-----	--------------------

普段、困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことについて、話したり相談する人は、「学校の友だち」「親」などが多くなっています。その一方で「特にいない」も1割程度みられます。

上段:実数 下段:%	合計	親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	学校の友だち	地元の友だち	ネット上の友だち	その他の大人	特にいない	無回答
全体	207	124 59.9	32 15.5	18 8.7	31 15	132 63.8	18 8.7	9 4.3	2 1	29 14	3 1.4
小学校高学年	79	47 59.5	10 12.7	11 13.9	13 16.5	50 63.3	7 8.9	1 1.3	0	9 11.4	2 2.5
中学生	128	77 60.2	22 17.2	7 5.5	18 14.1	82 64.1	11 8.6	8 6.3	2 1.6	20 15.6	1 0.8

上段:実数 下段:%	合計	親	きょうだい	祖父母など	学校の先生	学校の友だち	地元の友だち	ネット上の友だち	スクールカウンセラー	恋人(彼氏・彼女)	その他の大人	無回答
高校生	67	40 59.7	10 14.9	3 4.5	17 25.4	48 71.6	12 17.9	5 7.5	1 1.5	4 6	0 0	2 3

### ⑭ 親について

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

親について、「親は私のいうことを真剣に聞いてくれる」は53.6%、「親は私の気持ちを分かってくれる」は51.5%、「困っているときに親は励ましてくれる」は48.2%、「親は私の興味や日常の活動について知っている」は59.5%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	親は私のいうことを真剣に聞いてくれる	親は私の気持ちを分かってくれる	困っているときに親は励ましてくれる	親は私の興味や日常の活動について知っている	無回答
全体	274	147 53.6	141 51.5	132 48.2	163 59.5	20 7.3
小学校高学年	79	47 59.5	42 53.2	43 54.4	48 60.8	3 3.8
中学生	128	65 50.8	67 52.3	60 46.9	76 59.4	10 7.8
高校生	67	35 52.2	32 47.8	29 43.3	39 58.2	7 10.4

⑮ 経済的にみた暮らしについて

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

経済的に家の暮らしはどうかという問いに対し、半数以上が「普通」と回答し、「苦しい（「大変苦しい」と「やや苦しい」の合算値）」と「ゆとりがある（「ややゆとりがある」と「大変ゆとりがある」の合算値）」は同程度となっています。

上段:実数 下段:%	合計	大変苦しい	やや苦しい	ふつう	ややゆとりがある	大変ゆとりがある	わからない	無回答
全体	274	7 2.6	29 10.6	152 55.5	24 8.8	13 4.7	42 15.3	7 2.6
小学校高学年	79	2 2.5	5 6.3	43 54.4	8 10.1	2 2.5	17 21.5	2 2.5
中学生	128	1 0.8	11 8.6	76 59.4	11 8.6	6 4.7	20 15.6	3 2.3
高校生	67	4 6	13 19.4	33 49.3	5 7.5	5 7.5	5 7.5	2 3

(3) 学校や勉強のことについて

① 学校に対する気持ち

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

学校への気持ちは「学校では楽しいことがたくさんある」(51.8%)が最も多く、次いで「学校を休みたいと思うことがよくある」(37.6%)となっています。

上段:実数 下段:%	合計	私は学校へ行くのが楽しんだ	私はこの学校が好きだ	学校を休みたいと思うことがよくある	学校では楽しいことがたくさんある	本当は行きたいのに、家の事情で学校に行けない日がある	無回答
全体	274	94 34.3	92 33.6	103 37.6	142 51.8	4 1.5	11 4
小学校高学年	79	34 43	25 31.6	26 32.9	42 53.2	3 3.8	2 2.5
中学生	128	44 34.4	44 34.4	42 32.8	67 52.3	1 0.8	8 6.3
高校生	67	16 23.9	23 34.3	35 52.2	33 49.3	0	1 1.5

## ② 学校の先生に対する気持ち

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

学校の先生への気持ちは、「先生は私のいうことを真剣に聞いてくれる」(47.8%)が最も多く、次いで「先生は生徒に公平に接してくれる」(35.4%)となっています。

上段:実数 下段:%	合計	先生は私のいうことを真剣に聞いてくれる	先生は私の気持ちを分かってくれる	困っている時に先生は励ましてくれる	先生は生徒に公平に接してくれる	先生が私のことをどう思っているか気にならない	先生は私のことをよくほめてくれる	無回答
全体	274	131 47.8	79 28.8	93 33.9	97 35.4	85 31	52 19	15 5.5
小学校高学年	79	33 41.8	31 39.2	30 38	30 38	24 30.4	18 22.8	6 7.6
中学生	128	65 50.8	28 21.9	36 28.1	40 31.3	38 29.7	21 16.4	5 3.9
高校生	67	33 49.3	20 29.9	27 40.3	27 40.3	23 34.3	13 19.4	4 6

## ③ 学校の授業について

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

学校の授業がわからないことがあるかという問いに対し、「わかる(「いつもわかる」と「だいたいわかる」の合算値)」が約7割、「わからない(「あまりわからない」と「わからないことが多い」と「ほとんどわからない」の合算値)」が約3割となっています。

上段:実数 下段:%	合計	いつもわかる	だいたいわかる	あまりわからない	わからないことが多い	ほとんどわからない	無回答
全体	274	38 13.9	154 56.2	43 15.7	32 11.7	5 1.8	2 0.7
小学校高学年	79	20 25.3	45 57	7 8.9	7 8.9	0 0	0 0
中学生	128	14 10.9	70 54.7	27 21.1	12 9.4	3 2.3	2 1.6
高校生	67	4 6	39 58.2	9 13.4	13 19.4	2 3	0 0

#### ④ 勉強を教えてもらう相手

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生 別々
-----	--------------------

勉強がわからない時に教えてもらう相手は、「友だち」や「学校の先生」が多く、学年が上がるにつれて割合が高くなる傾向がみられます。その一方で、「親」は学年が上がるにつれて割合が低くなる傾向がみられます。

上段:実数 下段:%	合計	親	親以外の 家族(きょう うだいや祖 父母など)	学校の先 生	友だち	塾や習い 事などの 先生	その他の 大人	教えてもら える人が いない	教えてもら う必要は ない	無回答
全体	207	80 38.6	31 15	94 45.4	131 63.3	46 22.2	2 1	8 3.9	9 4.3	1 0.5
小学校高学年	79	46 58.2	13 16.5	29 36.7	44 55.7	12 15.2	1 1.3	1 1.3	3 3.8	0
中学生	128	34 26.6	18 14.1	65 50.8	87 68	34 26.6	1 0.8	7 5.5	6 4.7	1 0.8

上段:実数 下段:%	合計	親	親以外の 家族(きょう うだいや祖 父母など)	学校の先 生	友だち	塾や習い 事などの 先生	その他の 大人	恋人(彼 氏・彼女)	教えてもら える人が いない	無回答
高校生	67	2 3	7 10.4	43 64.2	51 76.1	0 0	0 0	4 6	2 3	0 0

#### ⑤ クラス内での成績

回答者	小学5年生～中学3年生
-----	-------------

クラス内での成績は、「良くないほう（「良くないほう」と「どちらかという良くないほう」の合算値)」、「真ん中あたり」、「良いほう（「どちらかという良いほう」と「良いほう」の合算値)」がそれぞれ約3割程度となっています。

上段:実数 下段:%	合計	良くないほう	どちらか という良 くないほう	まん中あ たり	どちらか という良 いほう	良いほう	無回答
全体	207	35 16.9	30 14.5	70 33.8	39 18.8	30 14.5	3 1.4
小学校高学年	79	9 11.4	8 10.1	32 40.5	15 19	14 17.7	1 1.3
中学生	128	26 20.3	22 17.2	38 29.7	24 18.8	16 12.5	2 1.6

## ⑥ 学校での成績の重要性

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

学校での成績の重要性については、「重要ではない（「まったく重要ではない」と「重要ではない」の合算値）」が約1割、「重要である（「重要である」と「非常に重要である」の合算値）」が6割以上となっています。

上段:実数 下段:%	合計	まったく重要ではない	重要ではない	どちらともいえない	重要である	非常に重要である	無回答
全体	274	7 2.6	21 7.7	65 23.7	119 43.4	59 21.5	3 1.1
小学校高学年	79	3 3.8	5 6.3	20 25.3	35 44.3	16 20.3	0
中学生	128	3 2.3	9 7	27 21.1	56 43.8	31 24.2	2 1.6
高校生	67	1 1.5	7 10.4	18 26.9	28 41.8	12 17.9	1 1.5

## ⑦ 学校の授業以外での勉強時間

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

学校の授業以外での勉強時間は、小学校高学年では「30分以上、1時間より少ない」、中学生では「1時間以上、2時間より少ない」が最も多くなっていますが、高校生では「まったくしない」が最も多くなっています。

上段:実数 下段:%	合計	まったくしない	30分より少ない	30分以上、1時間より少ない	1時間以上、2時間より少ない	2時間以上、3時間より少ない	3時間以上	無回答
全体	274	37 13.5	36 13.1	81 29.6	75 27.4	28 10.2	12 4.4	5 1.8
小学校高学年	79	5 6.3	15 19	32 40.5	17 21.5	5 6.3	4 5.1	1 1.3
中学生	128	4 3.1	12 9.4	31 24.2	51 39.8	21 16.4	6 4.7	3 2.3
高校生	67	28 41.8	9 13.4	18 26.9	7 10.4	2 3	2 3	1 1.5

## ⑧ 塾や家庭教師の利用状況

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

学習塾や家庭教師については、「小学校高学年」「中学生」では「利用している」が約3割、「利用したいと思わない」が5割以上となっています。「高校生」では「利用したいと思わない」が約9割となっています。

上段:実数 下段:%	合計	利用している	利用していないが 利用したい	利用したいと思わない	無回答
全体	274	62 22.6	37 13.5	169 61.7	6 2.2
小学校高学年	79	22 27.8	13 16.5	43 54.4	1 1.3
中学生	128	40 31.3	18 14.1	67 52.3	3 2.3
高校生	67	0 0	6 9	59 88.1	2 3

## ⑨ いじめについて(受けているか、心配しているか)

回答者	小学5年生～中学3年生／高校生
-----	-----------------

過去1か月間にいじめを受けたことがあるかという問いに対し、「直接、悪口や嫌なことをいわれた」が13件、「仲間はずれや無視された」が10件、「なぐられたり、けられたりした」が5件、「パソコンや携帯電話、スマートフォンを使って嫌なことをされた」が4件となっています。

いじめを受けることに対してどれくらい心配しているかという問いに対し、「心配していない(「まったく心配していない」と「あまり心配していない」の合算値)」が約6割、「心配している(「少し心配している」と「かなり心配している」の合算値)」が約4割となっています。学年が下がるにつれて「心配している」割合が高くなる傾向がみられます。

### 【いじめについて】

上段:実数 下段:%	合計	仲間はずれや無視をされた	なぐられたり、けられたりした	直接、悪口や嫌なことをいわれた	パソコンや携帯電話、スマートフォンを使って嫌なことをされた	無回答
全体	274	10 3.6	5 1.8	13 4.7	4 1.5	246 89.8
小学校高学年	79	6 7.6	4 5.1	7 8.9	2 2.5	63 79.7
中学生	128	2 1.6	0 0	5 3.9	1 0.8	120 93.8
高校生	67	2 3	1 1.5	1 1.5	1 1.5	63 94

【いじめを受ける心配】

上段:実数 下段:%	合計	まったく心 配していな い	あまり心 配していな い	少し心配し ている	かなり心 配している	無回答
全体	274	80 29.2	83 30.3	73 26.6	25 9.1	13 4.7
小学校高学年	79	20 25.3	21 26.6	26 32.9	8 10.1	4 5.1
中学生	128	37 28.9	40 31.3	34 26.6	12 9.4	5 3.9
高校生	67	23 34.3	22 32.8	13 19.4	5 7.5	4 6

⑩ スクールカウンセラーの利用経験

回答者	高校生
-----	-----

スクールカウンセラーの利用経験は、9割以上が「利用したことがない」と回答しており、その理由としては「利用の必要がなかった」が8割以上となっています。その一方で、「利用しても意味がないと思った」「利用しにくかった」「利用するのに抵抗があった」「知らなかった」との回答もみられ、利用意向はあるものの利用できていないことがうかがえます。

【スクールカウンセラーの利用経験】

上段:実数 下段:%	合計	利用したこ とがある・ している	利用したこ とがない	無回答
高校生	67	3 4.5	62 92.5	2 3

【スクールカウンセラーを利用したことがない理由】

上段:実数 下段:%	合計	利用しても 意味がな いと思った	利用の必 要がな かった	利用しにく かった	利用する のに抵抗 があった	知らなかつ た	無回答
高校生	62	2 3.2	50 80.6	2 3.2	6 9.7	1 1.6	1 1.6

#### (4) 将来のことについて

##### ① 地元の高校への進学について(本人の意向・本人が考える家族の意向)

回答者	小学5年生～中学3年生
-----	-------------

地元の高校に進学したいかという問いに対し、「弟子屈高校に進学したい」が46.4%、「弟子屈高校以外の釧路管内の高校に進学したい」が35.7%、「釧路管内以外の高校に進学したい」が15.5%となっています。

家族が回答者の高校進学についてどのように考えているかという問いに対し、「弟子屈高校に進学してほしいと思っている」が41.1%、「弟子屈高校以外の釧路管内の高校に進学してほしいと思っている」が34.3%、「釧路管内以外の高校に進学してほしいと思っている」が15.9%となっています。

【子ども本人の意向】

上段:実数 下段:%	合計	弟子屈高校に進学したい	弟子屈高校以外の釧路管内の高校に進学したい	釧路管内以外の高校に進学したい	高校には進学する予定はない	無回答
全体	207	96 46.4	74 35.7	32 15.5	2 1	3 1.4
小学校高学年	79	36 45.6	27 34.2	12 15.2	2 2.5	2 2.5
中学生	128	60 46.9	47 36.7	20 15.6	0 0	1 0.8

【子ども本人が考える家族の意向】

上段:実数 下段:%	合計	弟子屈高校に進学してほしいと思っている	弟子屈高校以外の釧路管内の高校に進学してほしいと思っている	釧路管内以外の高校に進学してほしいと思っている	高校に進学してほしいと思っていない	無回答
全体	207	85 41.1	71 34.3	33 15.9	4 1.9	14 6.8
小学校高学年	79	30 38	30 38	13 16.5	1 1.3	5 6.3
中学生	128	55 43	41 32	20 15.6	3 2.3	9 7

## ② 進路や就職に関する家族との相談状況

回答者	高校生
-----	-----

進学や就職について家族と相談するかという問いに対し、「よくする」が28.4%、「ときどきする」が58.2%、「あまりしない」が13.4%となっています。

上段:実数 下段:%	合計	よくする	ときどきする	あまりしない	しない	相談したいができない	無回答
高校生	67	19 28.4	39 58.2	9 13.4	0	0	0

## ③ 進学意向(本人の意向・本人が考える家族の意向)

回答者	高校生
-----	-----

家族が回答者にどの段階まで進学してほしいと考えていると思うかという問いに対し、「高校まで」が31.3%、「短大・高等専門学校・専門学校まで」が22.4%、「大学まで」が17.9%となっています。

将来、どの段階まで進学したいかという問いに対し、「高校まで」が26.9%、「進学希望」が56.7%となっています。「高校まで」を選択した回答者に対し、その理由をたずねたところ、「高校卒業後、仕事をしたいから」が多くなっています。また、「進学希望」を選択した回答者に対し、希望する学校種別と場所をたずねたところ、学校種別は「専門学校」、場所は「道内(自宅外)」が多くなっています。

### 【本人が考える家族の意向】

上段:実数 下段:%	合計	高校まで	短大・高等 専門学校・ 専門学校 まで	大学まで	大学院ま で	わからな い	無回答
高校生	67	21 31.3	15 22.4	12 17.9	0	19 28.4	0

### 【本人の意向】

上段:実数 下段:%	合計	高校まで	進学希望	まだわか らない	無回答
高校生	67	18 26.9	38 56.7	10 14.9	1 1.5

【高校までを選択した理由】

上段:実数 下段:%	合計	進学に必要なお金 のことが心配だから	きょうだいの進学に お金がかかるから	親や家族の面倒を 見なければならぬから	高校卒業後、仕事を したいから	これ以上勉強をした くないから	無回答
高校生	18	3 16.7	1 5.6	1 5.6	16 88.9	4 22.2	0 0

【進学希望を選択した回答者について 希望する学校種別】

上段:実数 下段:%	合計	私立短大	国公立短大	高等専門学校	専門学校	私立大学	国公立大学	大学院	無回答
高校生	38	1 2.6	1 2.6	0 0	21 55.3	7 18.4	8 21.1	0 0	0 0

【進学希望を選択した回答者について 希望する場所】

上段:実数 下段:%	合計	自宅から通える学校	道内(自宅外)	道外	決めていない	無回答
高校生	38	0 0	33 86.8	1 2.6	3 7.9	1 2.6

## (5) 町に対する要望

### ① 弟子屈町に「あったら利用したい」と思う場所や機会

回答者	中学生／高校生
-----	---------

町内にあったら利用したいと思う場所や機会についてたずねたところ、「身近で運動やスポーツができる場所」(54.4%)が最も多く、次いで「進学の際に利用できる返済の必要ない奨学金」(33.3%)、「(家以外で)休日に夜までいることができる場所」(32.8%)、「他者からの目線を気にしないで過ごすことができる場所」(31.3%)、「(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所」(30.8%)が多くなっています。

上段:実数 下段:%	合計	(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所	(家以外で)休日に夜までいることができる場所	家の人がいないとき、夕ご飯をみんなで食べることができる場所	家で勉強ができないうとき、静かに勉強ができる場所	大学生などが、勉強を無料でみてくれる場所	(学校や家以外で)あなたの悩みや話を聞いてくれる人がいる場所	他者からの目線を気にしないで過ごすことができる場所
全体	195	60 30.8	64 32.8	33 16.9	54 27.7	36 18.5	27 13.8	61 31.3
中学生	128	36 28.1	37 28.9	21 16.4	38 29.7	26 20.3	21 16.4	41 32
高校生	67	24 35.8	27 40.3	12 17.9	16 23.9	10 14.9	6 9	20 29.9

上段:実数 下段:%	合計	進学の際に利用できる返済の必要ない奨学金	身近で運動やスポーツができる場所	町内の事業所などでの就業体験や起業体験ができる場所	町外の高校生や大学生等との交流ができる機会	ボランティア活動(観光ガイドなど)	無回答
全体	195	65 33.3	106 54.4	30 15.4	23 11.8	15 7.7	27 13.8
中学生	128	41 32	73 57	25 19.5	16 12.5	10 7.8	16 12.5
高校生	67	24 35.8	33 49.3	5 7.5	7 10.4	5 7.5	11 16.4

## ② 中学校の頃、「あったら利用したかった」と思う場所や機会

回答者	高校生
-----	-----

高校生が中学生の頃にあったら利用したかったと思う場所や機会についてたずねたところ、「身近で運動やスポーツができる場所」(38.8%)、「(家以外で) 休日に夜までいることができる場所」(35.8%)、「(家以外で) 平日の放課後に夜までいることができる場所」(31.3%) が多くなっています。

上段:実数 下段:%	合計	(家以外で)平日の放課後に夜までいることができる場所	(家以外で)休日に夜までいることができる場所	家の人がいないとき、夕ご飯をみんなで食べる場所	家で勉強ができないうち、静かに勉強ができる場所	大学生などが、勉強を無料でみてくれる場所	(学校や家以外で)あなたの悩みや話を聞いてくれる人がいる場所	他者からの視線を気にしないで過ごすことができる場所
高校生	67	21 31.3	24 35.8	8 11.9	16 23.9	7 10.4	8 11.9	12 17.9

上段:実数 下段:%	合計	進学の際に利用できる返済不要の給付型奨学金	身近で運動やスポーツができる場所	町内の事業所などでの就業体験や起業体験ができる場所	町外の高校生や大学生等との交流ができる機会	ボランティア活動(観光ガイドなど)	無回答
高校生	67	3 4.5	26 38.8	4 6	2 3	3 4.5	18 26.9

◆「あったら利用したい」「利用したかった」と思う場所や機会

・友だちと集まるのにちょうどいい場所
・放課後、友達と遊べる場所
・自由に使える場所
・自分の家以外
・ゆっくり長時間いられるような所、リラックス空間
・1人でおちつける場所
・ネットカフェなどの個室が利用できる場所
・いろいろな人が利用できる場所(あそぶ場所)
・図書館や学校などではない、気軽に立ち寄ることのできる施設
・いろいろな職業を体験できるような場所
・安心安全な、親も心配しない、遊び場
・文化センターは、遠いので、近くに、体育館などがあれば利用したい
・町内の子どもたちがいつでも簡単に利用できる多目的スペース
・塾をもっと増やしてほしい
・無料自習学習スペース
・無料で塾講師が勉強を教えてくれると良い
・勉強ができる場所
・今は受験があるので、部活動時間までは学校に残り勉強をしているのですが、それだけでは教えてもらえる時間が少ない
・返済の必要がない奨学金
・色々なスポーツができる場所
・家以外で静かに勉強する所
・勉強で解らないところを解るまで教えてくれる場所(自分のペースで)
・食べたり飲んだりして勉強ができるような場所
・美術館
・広くアスレチックができる所(屋内)
・放課後に友だちと集まって勉強できるようなところ
・公園
・家電量販店
・ショッピングモール
・映画館
・カラオケ(友達と夜まで遊べる場所)
・カフェ
・パン屋
・飲食店よりも気軽に利用できるカフェやファストフード店等
・ゲームセンター
・ボウリング
・スキー場
・大きな公園
・野球場
・無料で利用できるテニスコート
・大きな体育館施設
・色々なことを友達ともっと話したい。弟子屈には運動ができる公園などが少ない。
・室内、室外で体を動かすことができる広い施設
・公園はあるが小学生が遊ぶ遊具のようなので、中学生、高校生も遊べる場所を作ってほしい
・ハンドボールやマット運動などの専用の物がないとできない運動スポーツが無料でできる場所
・バスケなどができる場所
・バッティングセンター
・サッカー練習場

・文化センターなどでもスポーツはできるがグラウンドなど、皆で使える場所があると良い
・ボランティアでスポーツが出来る機会があれば利用したい
・会社をたてるのが夢なのでそういう所があったら嬉しい
・大きい本屋、休日にみんなで寄って遊べる場所
・図書館みたいな場所
・図書館に参考書を置いてほしい
・ゆっくり本が読める場所
・イオン、陸上競技場、地下鉄、バス、服屋(GU、WEGO、アベイル、ハニーズ、など)、気軽にBBQできる場所、ファミマ
・不登行の児童が集まれる場所
・病院
・悩みを相談できる建物
・将来に向けて、勉強や、就業体験、起業体験をして、少しでも将来のことについて考えたら良い
・返済の必要がない奨学金があるとよい。親は「お金があったらもっといい学校に…」と言うので、奨学金があれば親が望む学校に行けると思うし、自分もそのような学校に行きたい。
・進学するのに返済不要の奨学金。
・町外の高校生や大学生等との交流の場は特につくって欲しい。弟子屈には学校が1つずつしかないから、他校の子たちと友達になりたい。
・知らない人とたくさん話せるところ。
・友達などと、ご飯を一緒に食べてみたい。
・学校や家以外の人だと、知らない人だし思っていることを素直に話せると思う。
・町内の子どもたちと触れ合えるボランティア(運動系のボランティアだとなおよし)

### Ⅲ. グループインタビューの主な結果

---

#### (1) 町内における貧困状況について

- ・ 子どもの衣服など身なりから生活が厳しいのかなと思うことがある。
- ・ 貧困層に該当する割合が高いと感じる。母子家庭が増えた印象があり、それが要因なのかもしれない。
- ・ 保護者が生活保護受給者等で生活リズムに乱れがある場合、兄弟等にも連鎖する傾向がある。
- ・ 貧困の基準を収入面だけで捉えていいものか。収入があっても親が遊びあるき、結果的に貧困になっているケースもある。
- ・ 貧困層をどのように定義するかが非常に難しい。
- ・ 親は貧困だと知られたくないため、子どもにその様子が伝わらないようにする場合もある。
- ・ 学校側は、保護者の収入は把握できないが、(把握できる) 要保護・準要保護対象者で見ると、保護者の収入と子どもの学力とはそれほど相関関係はないと感じる。収入は少なくとも親の教育意識が高いと子どもの学力は高い。

#### (2) 町内の子どもの学習・進学等について

- ・ 収入の多寡は、塾に行けるかなどの選択肢の多寡に繋がることはある。
- ・ 高校を卒業したら、就職したいという高校生の意識が前向きなものなのか、仕方がなくという後ろ向きなものなのか見ていく必要がある。
- ・ 高校に入学するときに、学校側から親に対して進学するには、学費や住居費など多額の費用がかかることについて話がある。子どもも友だちとそのことについて話し合い、早い段階で進学をあきらめていることもあると思う。
- ・ 給付型の奨学金制度がないため、高校生がアルバイトをしたいというのはわかる。
- ・ 親としては、奨学金の返済を子どもに負わせたくないし、子どももそのことはよく理解している。
- ・ 高校生のアルバイトで家計を支えたいという意識は高いかもしれない。また、高校生は卒業後、就職のしやすさもあり、専門学校に進学するケースが多い。
- ・ 高校生が進学費を稼ぐためにアルバイトを希望する割合が高いのが印象的。
- ・ 教育費は教材費、修学旅行費などを含めてどんどん上がっており、家計を圧迫している。その負担で進学をあきらめている子どももいるのではないか。
- ・ 進学は考えているが、あまり勉強していないという結果が気になる。
- ・ 高校進学を考えていても勉強していない子どもが多いことを踏まえると、弟子屈高校は頑張っても勉強しなくても入れるという意識があるのかもしれない。
- ・ 勉強しない高校生の割合が高いが、何のために勉強しているのか、すべきなのかがわかっていない子どももいる。子どもの人づくりに関する施策も重要になっている。

### (3) 母親の就労について

- ・ 働く母親の中には、8時間働いてもパート・アルバイトという人もいる。時間給であり、仕事を休むと給料が減るため子どもを病院につれていけないという人もいるのではないか。
- ・ 川湯は観光地であるため、土曜、日曜・祝日出勤が当たり前であり、他地域の調査結果と一概に比較できない。
- ・ 川湯地区は観光地であり、川湯の保育園に通う子の親も忙しい状況ではあるが、子どもの休みに合わせて土曜・日曜日は休みたいという親も多い。
- ・ 夜のアルバイトとしてスナックで働き、子どもは家でゲームや携帯電話で遊んでいるケースもある。
- ・ 土日・祝日に女性が働いている業種は観光・農業が多い。参観日でも土曜日だと集まりが悪くなる。その結果、子どもが一人で過ごしていることに繋がる。
- ・ 病院に行けないパートの主婦をなんとかしなければならぬ。そのためには、企業の理解が必要であり、企業が子どもの付添などを許容することで、会社への求心力が高まり、結果として生産性向上につながるのではないか。商工会からの働きかけが必要か。
- ・ 働いていると子どもを病院に連れて行けないことはあると思う。年に数回のことなので、企業にぜひ理解してもらいたい。
- ・ 学校から具合が悪い子どもの連絡を就業中の母親に電話することがあるが、学校に行くことができないため待機させる親もいる。

### (4) 子育てに関する制度やサービスの利用状況等について

- ・ 相談機関への相談件数が少ないこと等から、相談機関の認知度の低さがうかがえる。
- ・ 相談機関に相談しづらい、知らないなどの回答もあり、周知する必要がある一方で、相談していることを他の人に知られたくないという人もいる。
- ・ 子育て支援センターについては、子どもが幼稚園に通う母親同士の結束が強い。出産後1年未満のお子さんを持つ母親の利用が多く、ママ友を求めてセンターを利用する母親もいる。母親同士で、フラダンス、ネイルアート、パーティーなどを考え、センターの場所を使って楽しんでいる。
- ・ 子育て支援センターには、ぴよぴよクラブ（母親の会）もあるが、そういったところの代表などはやりたくないという人が多い。組織的にやるのではなく、場所さえ提供すれば母親達は自由に楽しめると思う。

### (5) 日常生活等について

- ・ 洋服、持ち物、習い事等にお金をかけ、もっとお金をかけるべきところに、お金をかけないなど、お金の使い方が下手な人もいる。
- ・ 母親の力不足や多様な家族形態が増えているように感じる。離婚後に里帰りした人、母子手帳をもらう時点で結婚の意思がない人、精神疾患を持ちながら子どもを産む人、お金がないのに子どもを産む人など、家族形態が多様化している。
- ・ 子育てに関する情報については、インターネットの情報に頼る人が増えている。
- ・ 親はパチンコへ行き、子どもはコンビニエンスストアでお菓子を買っているのを見かける。

- ・ 母親同士のグループでも良く思われたいという思いから、本心を話せない、表面上の付き合いの人が多いと感じる。
- ・ 一人でご飯を食べる子どももいるが、親が子どもにメモを残すか、残さないかで全然子どもの気持ちは違ってくると思う。
- ・ 母子家庭か、貧困かどうか関係なく、親子が一緒にいる時間を作ってほしいと感じる。
- ・ 一人で過ごしている子どもはいるが、家で一人で過ごせるようにゲームを与えるなど、親がそうさせているのかもしれない。子どもたちは公民館で活動することもあるが、活動が終了すると真っ先に館内のテレビを一人で観ている子どももいるように、一人でいても居心地が良いのかもしれない。

## **(6) 居場所について**

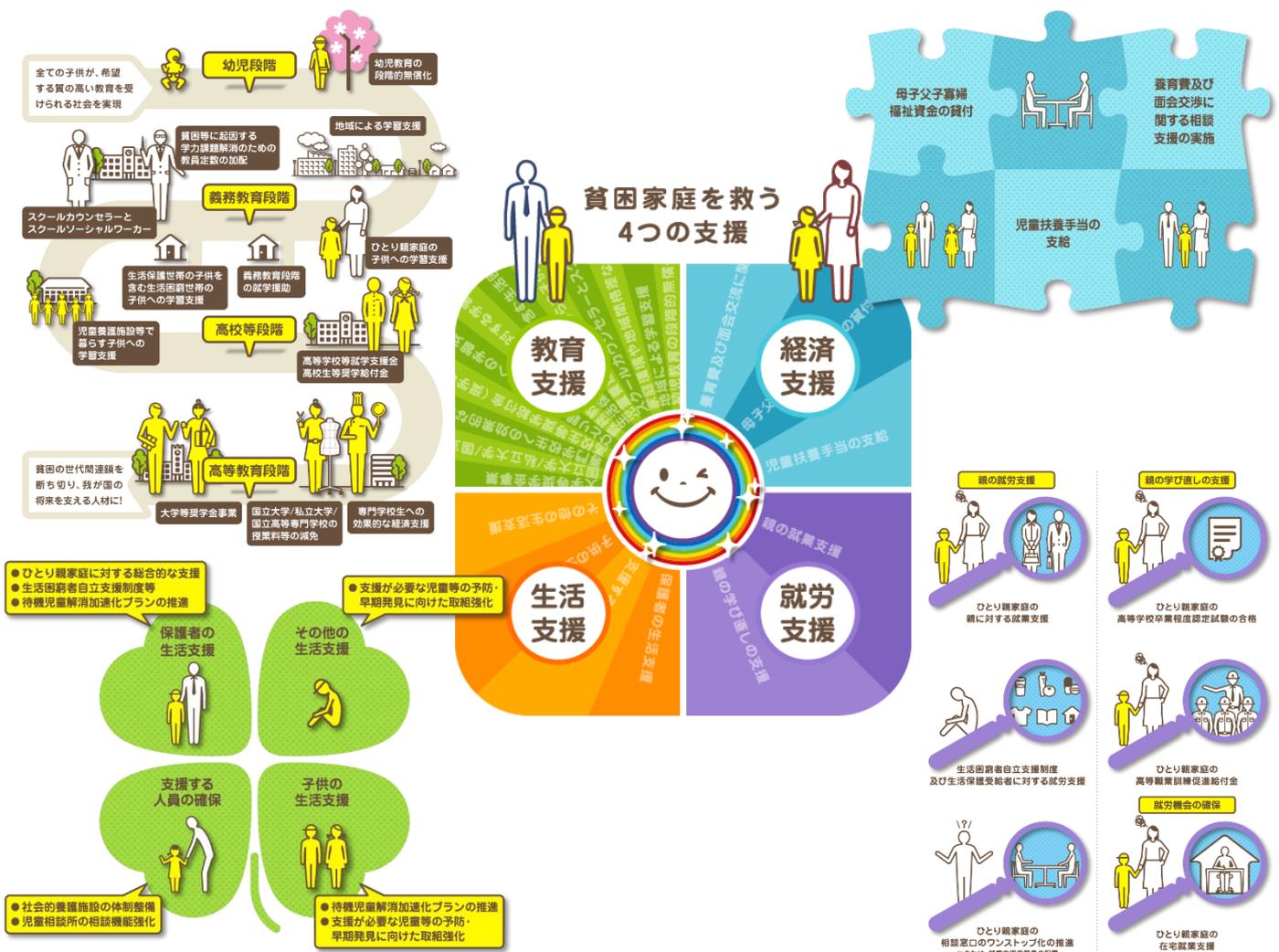
- ・ 地域コミュニティも希薄化しているように感じる。
- ・ 公共の建物にボランティアなどを派遣して、子どもたちがいつでも使えるようにするのが良いのではないか。
- ・ 人との交わりや集まれる場所、あそこに行けば誰かがいると思える場所が必要。
- ・ 小学校以上の子どもを預けるところがない、あったとしても料金が高い。
- ・ 金銭的には裕福でも、居場所がない・遊びたいところがないという子どもも多いのではないか。
- ・ 子どもは放課後の居場所が少ない。昔は友だちの家に集まったりしていた。今は場所が少し離れている文化センターを予約して体を動かしたりしている。
- ・ 市街地に居場所があるととてもよい。

# IV. 子育て支援体制整備の方向性

## 1. 子育て支援の体制整備を考えるうえで必要な4つの視点

現在、国では貧困家庭を救う支援として、幼児期から高等教育段階まで切れ目のない教育費負担の軽減等を目指す「教育支援」、生活費や必要な支出を扶養者に応じてきめ細かに支援を行う「経済支援」、大人から児童まで住宅の確保から物質的、精神的な課題や悩みに総合的な解決を目指す「生活支援」、ひとり親を重点的に就業相談から学び直しや職業訓練の促進、ライフワークバランスを考慮した就業機会獲得までを総合的に支援する「就労支援」の4つの視点から支援を行っています（下図参照）。

これらの視点は、貧困か否かに関わらず、子育て支援体制の整備全般に関わるものでもあり、本町のすべての子どもたちが未来に希望を持ち、健全な生活を送るために大変重要であると考えます。そこで、「教育支援」「経済支援」「生活支援」「就労支援」の4つの視点から、本町の現状における重要課題を整理し、今後の対応の方向性を検討します。



出典：子供の未来応援プロジェクトホームページ（内閣府）<http://www.kodomohinkon.go.jp/policy/>

## 2. 子育て支援体制整備に向けた重点課題の整理

### (1) 教育支援

子どもにかかる医療費負担や進学費用等の軽減、返済不要の奨学金、学費や奨学金など子どもの進路に関する情報を得る機会等に対するニーズが高いことから、進学・就学にかかる金銭面での支援の充実に向けた検討や、進学等に係る情報提供に関する検討が必要となります。また、高校生の多くが学校の成績は重要と捉えている一方で、学校の授業以外での勉強時間が少ない現状にあります。静かに勉強できる場所や勉強を教えてもらえる場に対するニーズも見られることから、地域における学習支援体制の整備についても検討が必要となります。

### (2) 経済支援

児童扶養手当、生活保護、生活福祉資金、母子父子寡婦福祉資金、就学援助など、経済的な支援に係る制度について、利用の仕方がわからない、制度そのものを知らない、利用するのに抵抗感がある等と回答している人もおり、各種制度に関する情報発信や気軽に相談できる環境づくりが必要となります。

### (3) 就労支援

特に貧困層に該当する回答者には、母子家庭やパート・アルバイトとして働く母親が多くなっています。このような場合、子どものために働いているものの、仕事を休むと給料が減る、職場の理解が得られないなどの理由から、子どもの具合が悪くても病院につれて行けないという悪循環になっているケースもあります。

人口減少・高齢化が進む中、企業等における人材不足は全国的な課題となっており、地域における女性の労働力確保や、現状の従業員にいかに関わり長く就労してもらうかが重要であり、女性や母親が働きやすい環境づくりが必要となります。

### (4) 生活支援

既存の放課後児童クラブやファミリーサポートセンター子育てサポート等の子育て支援サービスをはじめ、児童相談所やスクールカウンセラー等の相談窓口について、現状においては利用件数が少ないものの、利用の仕方がわからない、全く知らない、抵抗感がある等の回答がみられます。このようなことから、潜在的なニーズはあるものの制度等の周知不足や気軽に相談できる体制が整っていない等の理由から、実際の利用に結びついていないことが考えられ、情報発信や気軽に相談できる環境づくりが必要となります。

また、平日の放課後や休日に過ごす場所、運動等ができる場所、屋内で遊べる場所等に対するニーズが多いことから、新たな居場所づくりに向けた検討が必要です。

### 3. 今後の子育て支援体制整備に向けた対応の方向性

先述した課題を踏まえ、今後、本町における子育て支援体制整備に向け、以下に示す 3 つの取組が想定されます。

#### (1) 第三の居場所づくり

家庭でも学校・職場でもない、いつも誰かがいて、地域住民とゆるい繋がりができるような「第三の居場所」をつくります。

「居場所」づくりの検討にあたっては、勉強ができる（教えてもらえる）場所、食事を取れる場所（子ども食堂など）、学校の友人関係から開放される場所、大人と会話ができる場所など、子どもの置かれている学校・家庭環境などを考慮して、場所や空間、機能を考える必要があります。

高校生は、大学生との交流ニーズも見られることから、釧路教育大学や釧路公立大学等と連携し、大学生ボランティア等による学習指導を行ったり、中学生や高校生に向けてキャンパスライフを伝えるイベントを開催し、将来の進路を考えるきっかけを与えるなど、地域の学習支援拠点とすることも考えられます。

居場所づくりに向けて、地域の民間資源を有効活用する視点も必要です。例えば、弟子屈町内には落ち着いた空間を提供できるカフェ・飲食店が集積しており、利用客が比較的少ない時間帯に、放課後の子どもの居場所として、スペースを提供するだけでも、子どもにとって十分な居場所になります。このように地域内の様々な施設・空間の空き時間・空きスペースを活用することが重要です。

また、必ずしも「子ども」だけではなく、高齢者など誰でも利用できるコンセプトづくりも重要な視点になります。「子ども食堂」という名称だと、貧困家庭の子どもが利用しづらくなるデメリットがあり、誰でも参加できるというコンセプトが、本当に居場所を必要としている子どもの掘り起こしや利用促進に繋がります。

居場所の管理（見守り役）や学習を教えたり、食事を提供するボランティアの確保が課題となりますが、「子育て支援」の視点だけではなく、「高齢者の生きがいや社会参加促進」の観点からの検討が有効です。

次年度からスタートする第7期介護保険事業計画では、国の方針として地域互助体制の構築が求められており、地域のアクティブシニアを子育て分野のボランティアの担い手として育成することも重要な視点です。

【参考事例1】麻布キッチンりあん（札幌市）

商店街振興組合が大学と学習支援を行っている NPO 法人と連携し、ひとり親家庭の子ども学習支援と食支援を中心に、地域の方にもバランスのよい食事を提供するコミュニティカフェ。子ども食堂や夜の児童館をはじめ、地域住民や団体による日替わりランチなどの提供、地域の方が講師となるイベント等も開催。

**りあん通信**  
「りあん」は、あさぶ商店街と麻布女子大が連携して運営しています。  
札幌市地産地消推進事務局「地産地消推進」です！

**2018年1月 第34号**  
発行 札幌市北区北39条西5丁目2-12  
(旧くすりのひまわり路)  
TEL: 011-707-1795  
麻生商店街振興組合(011-707-9923)

**「トワイライトこども館」  
(夜の児童館)」**  
**6月2日より毎週金曜日オープンします。**

夜、お子さんを預けるところがなく困っているお父さん、お母さんへ  
あさぶ商店街では、6月より麻生キッチンりあん内にて毎週金曜日に  
夜の児童館「トワイライトこども館」をオープンする運びとなりました。  
仕事で帰りが遅くなる時などに、ぜひご利用ください。  
週に一度ですが、お役に立てれば幸いです。  
詳細は、下記の通りです。

**\*完全予約制(前日までにご連絡下さい)\***

- \*申込先: あさぶ商店街 707-9923 (担当:西本)
- \*場所: 麻生キッチンりあん(北39西5)
- \*対象: 5歳~12歳
- \*定員: 10名
- \*利用料金: 18:00~19:00 500円  
18:00~20:00 800円  
18:00~21:00 1,000円 } いずれも軽食付 (一汁一菜)
- \*日時: 毎週金曜日 18:00~21:00まで
- \*その他: 5歳未満は保護者同伴で参加可(料金は上記の通りです)

尚、子ども食堂の開催日(第3金曜日)はお休みですが20時までにお迎えに来ていただければお子さんをお預かりいたします。

**まちの教室** など お申し込み: 070-5048-4059 (携帯)

**★第34回 アロマ&ハーブ講座**  
日 時: 1月26日(金) 10:30~12:00  
参加費: 1300円(ドリンク+材料費込)  
講 師: 佐藤 幸江さん  
\*ハンドマッサージをしながら、効用なども学びます。

**★超入門シニア委員会ABCから**  
日 時: 1月18日(木) 10:30~12:00  
参加費: 1300円(ドリンク付) 講師: 大柳 和子さん  
\*初めて来られる方、1回目は無料です！

**★介護者のつどい!**  
日 時: 1月26日(金) 10:30~12:00  
参加費: 300円(ドリンク付)  
介護している方が、気軽に話せる会です。  
みなさんと、お話を聴き合います。

**★お仕事9or PECSってなに? ~レベルアップのためのコミュニケーションの試み~**  
日 時: 1月18日(木) 19:00~21:00 参加費: 1300円(軽食+ドリンク付)

**★アロマ&0歳児ベビーママ~あさぶネオボラ★ManManステーション 協力: NPO北海道ネオボラ**  
日 時: 1月22日(月) 10:30~12:00  
参加費: 1000円(ドリンク付) ベビーママヨガも体験もフレッシュ!

**麻女子大4年生からメッセージ** URL: <http://tomanto.wix.com/healthstudy>  
私たち、四年生はもうすぐ卒業になります。これからは三年生がままとの営業を  
行っていくので、温かく見守っていただけたら幸いです(´▽`)

[http://www.asabu.or.jp/rian\\_schedule/index.html](http://www.asabu.or.jp/rian_schedule/index.html)

【参考事例2】「ぴっかりカフェ」（神奈川県）

神奈川県立田奈高等学校の図書館で週1回開催されており、昼休みと放課後にジュースやコーヒーを飲み、お菓子を食べながら本を読んだり、おしゃべりして過ごす高校生のためのカフェ。卒業生、教員を目指す大学生、地域のボランティアが店員を担う。高校卒業後に自立した生活ができるよう有給職業体験プログラム「バイターン」も実施。

【参考事例3】「コミレスネットワーク京都」（京都府）

コミレスネットワーク京都は、府内のコミュニティ・レストランのネットワーク組織であり、放課後にひとりで過ごす子どもたちに“居場所”を提供するプロジェクトを実施。

このプロジェクトでは地元の企業の協力を得て、放課後に子供を預かるスペースをレストランの一角に設置。ランチとディナーの間の客が少ない時間帯を利用し、子供たちが安心できる場所を提供している。

## (2) 情報提供や相談体制の整備

まずは、子育て支援に関する制度やサービス等を子どものライフステージに合わせ、ひと目でわかるような情報整理を行い、既存制度の見直しと強化すべき支援の洗い出しや対応策を検討したうえで、広報誌やHP等を活用した情報発信を行い、町のホームページ等に主体的にアクセスする保護者への対応を行います。

一方、アンケート調査の結果から、行政機関の広報誌やHPから情報収集しない保護者も一定程度いることから、このような保護者が情報収集しやすい媒体を通じた情報発信も必要となります。現在のスマートフォンの普及状況や、プライバシーを確保しつつも相談しやすい体制整備の必要性等を踏まえ、LINE等のSNSを活用した情報提供体制の整備や相談体制の整備を検討します。

さらに、さまざまな相談機関や窓口があるにも関わらず、実際の相談件数が少ない背景には、認知度不足に加え、相談機関等の選択肢過多により、どの機関に相談したらよいか決められず、相談に結びついていないこと等も想定されます。例えば、先述したLINE等を活用した相談窓口を設置することで、窓口一本化を図り、そこに寄せられる相談内容に応じて、相談機関の相談員やスクールカウンセラー等が回答するといった体制を整備することで、保護者の多様な相談への対応が可能になると考えられます。

### 【参考事例1】LINEを活用したガールズ相談の試行実施（札幌市男女共同参画センター）

中学生～大学生を対象にLINEを使ったガールズ相談を試行実施。相談時間は3時間で相談件数は70件を超え、全体で100件以上となった。相談には、臨床心理士等の専門職が対応。

### 【参考事例2】LINEを活用した子育て相談サービス（山形県新庄市）

平成28年2月からLINEを使った子育て相談サービスを開始。自治体がLINEを使って個別相談を行う全国初の事例。相談は、新庄市が運営する「地域子育て支援センター」の保育士資格を持つスタッフが対応。

【参考事例3】LINE を活用した子育てに関する情報提供（東京都渋谷区）

平成 29 年 2 月から LINE による子育てに関する情報配信を開始。簡単なアンケートに回答することで、各利用者の回答に合わせて適切な情報を配信し、利用者は自ら問い合わせや検索等を行うことなく、必要な情報を手軽に入手可能。子育てに関するお問い合わせに、AI（人工知能）が個別に回答（24 時間受付）。

図1渋谷区LINE公式アカウントのイメージ（開発中）



公式アカウントID：@shibuyacity&nbsp; ;アカウント名：渋谷区

<https://www.city.shibuya.tokyo.jp/city/hodo/20170215.html>

【参考事例4】LINE を活用したいじめ相談を試験導入（長野県、滋賀県大津市）

長野県は、平成 29 年 9 月の 2 週間にわたり LINE の相談専用アカウントで県内の中高生の悩み相談を受け付け、2 週間で 1579 件のアクセスがあり、そのうちの 3 分の 1 に当たる 547 件の相談を受けた。相談件数は、前年度 1 年間の電話相談 259 件を大きく上回る結果となった。滋賀県大津市も、平成 29 年 11 月から平成 30 年 3 月まで、中学生を対象にした LINE によるいじめ相談を試験導入する。なお、文部科学省においても SNS での相談窓口を設ける自治体に費用の 3 分の 1 を補助する制度を平成 31 年度以降に導入する検討を始めるなど動きがある。

【参考事例5】食品配達をきっかけとした支援～こども宅食～（東京都文京区）

経済状況が食生活に影響するリスクがある家庭の子どもに対して、フードバンク等を活用し食品を配送することをきっかけに、子どもとその家庭を必要な支援につなげ、地域や社会からの孤立を防ぐ取組を自治体、企業等と連携し実施。事業の原資は、ふるさと納税を活用し、クラウドファンディングとして、本事業の趣旨に賛同する個人からの寄附を広く募集し、食品の配送等、こども宅食プロジェクトの運営経費に充てている。



<http://kodomo-takushoku.jp/>

### (3) 女性が働きやすい環境づくりに向けた企業等の意識改革

多くの女性が就労している状況の中で、女性（母親）が、安定した収入を得ながら、安心して育児を送ることができる職場の環境をつくることで、子どもの健全育成にとって、ますます重要になっています。

一方、職場の理解不足や職場への気兼ねが生じること、パート・アルバイトの場合は、給料が減ることなどを理由に、子どもが急病になっても、病院に連れて行けなかったり、本人が病院に行けないという状況が見られています。

国全体として働き方改革や女性の活躍を推進する中で、企業等における女性の働きやすい環境づくりは、町内全体の取組として進める必要性があり、弟子屈町商工会や農協など主要経済団体等と連携し、働く女性に対する理解を促進することが重要です。

## 資料編

### 1. 子育てに関する制度や支援策へのご要望やご意見(保護者による回答)

制度や支援策への要望・意見では、屋内の遊び場や一時預かりの充実等に対する意見が多くみられます。また、進学にかかる費用面での支援、子どもを持つ親が働きやすい環境づくり、住まいの充実等を望む意見もみられます。

主な意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬でも親子で出かけて、のんびり過ごす場所として図書館を整備してほしい。</li> <li>・支援が必要な子ども達をめぐる環境の充実を望む。町全体として、悩む親子をサポートする体制づくりに力を入れてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童クラブの建物がどこも古く床なども汚ない。町内の3つを2つや1つに減らして新しい建物を建てるなどしてほしい。現在の建物を改修しても使い勝手が悪そうだ。公共施設に子供用のトイレがないように思える。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童館や、プール教室等の定員が少ないように感じる。早いもの順ではなく、出来る限り全員が利用できるものであってほしい。弟子屈は子育てにとっても良心的で子育てしやすい環境になってきたと感じる。近隣の町村の良い所を取り入れるだけでなく、独自の政策も実施し釧路管内、子育てナンバー1の町を目指して欲しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町の図書館を充実してほしい。広くてゆったりと過ごせる空間や学生が勉強できるスペースを充実させ、開館時間を夜8時まで延長し、祝日も開館してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・室内の遊び場がほしい。雨や雪の日は家の中でこもりがちになるため、たとえ有料でも子どもを連れて行きたい。</li> <li>・一時預かり保育を充実させてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てサポートは、小学生になると解除されてしまうが、仕事を休む事がなかなかできず、低学年までは一人で留守番をさせる事は出来ないため、サポートを低学年まで延ばしてほしい。</li> <li>・病児預かりや一時保育などがほしい。両親も近くに居ないため、悪天候の際もサポートを利用したい。</li> <li>・天候を気にせず遊べる場がほしい(土日に遊びに連れて行ける所がない)。</li> <li>・子ども園に変更になる詳しい説明を早めにしてほしい(保育料、制服、ジャージなど)。</li> <li>・3人目以降は、所得や上の子の年齢にかかわらず保育料無料にしてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子連れで気軽に行ける室内スペースがほしい。子育て支援センターのように親と子がくつろいだり、お話ししたり、乳幼児に限らず、小中高生の親子も集えるような土曜や日曜も空いているスペースがほしい。図書館+部屋+体育館+公園+軽食コーナーのそろった施設。冬期間、遊びに行くところや運動するところがなく、ひきこもりになる。</li> <li>・子どもの医療費をあとから還元されて嬉しいが、道内には最初からお金がかからない保険証を発行してる町があるので、その方が良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内に小さい子供も遊べるような屋内施設があるとよい。冬場や悪天候の時などは、家の中でしか遊べないのは子供も退屈し、何より親も限界がある。支援センターも土日は開放してないので、公民館等を土日のみ子供向けに開放してくれるだけでも嬉しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨や雪の日でも子供を遊ばせられる場所などがあるとよい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・中標津の「ゆめの森公園」のような室内の子どもの遊び場があると良い。寒くなると外ですっとは遊べない。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援のひなたぼっこが週1回計4回、川湯に来てくれると良い。小さい子を連れて街まで行くと、お昼のタイミングや睡眠等で帰り道でグズグズになったりする為、思う存分遊ばせてあげられずいたり、往復の時間の方が長くなってしまう。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬は特に外出できないので、休日でも室内遊びできる所が欲しかった。自分が体調が悪い時、すぐ預かってくれる所や、育児が辛く1人になりたい時、家事を思いきりしたい時、一時保育があれば良かった。登録制のシステムもあるが、そこまでするほどではないかという感じでハードルが高かったので利用しなかった。有料でも家事サポートなどがあれば頼みたかった。</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬に子供が遊べる場所がないのは辛い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・入園、入学前の子供が遊べる場(子ども支援センター的な場所)を増やしてほしい。利用料(例えば、1回100円(暖房費など))を徴収し、利用の際の怪我等は自己責任、管理は役場とかボランティアで持ち回りにするなど。公園は遊べる遊具がなく、中標津の「ゆめの森公園」は遠い。イオンに入ってるようなキッズスペースでも良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・弟子屈にもプールをまた建てて欲しい。あるいは、毎日川湯に通う交通手段を確保してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・弟子屈町にプールを作ってほしい。毎日、川湯までの無料バスが出るなら川湯のプールに行きたい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ファミリーサポート以外の公的な一時預かり保育を行ってほしい。近くに親せきなどがいないため、自分が体調を崩しても休めない事が多い。</li> <li>・冬の運動不足が気がかりなので、冬に子供が走り回れるような場所を作ってほしい。</li> <li>・子育て支援センターは、広報では「午後は14時～」となっているが、実際は園児は15時からしか利用できない。冬は外で遊ばせられない日が多いので、冬だけでも14時から開放してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・0才向きの図書をふやしてほしい。</li> <li>・一時預かりができるようになってほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・夜間保育や、親が病気の時に子供をあずける体制があると助かる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・働きたくても児童クラブに入れなかったり、一般の子が児童館に遊びに行けなかったり、とても子育てしにくい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・おひさま保育園の水曜開放を利用していたが、発表会や卒園式などの前になると対応してくれる方がいない。元々の町民の方は事情を知っていて理解できるかもしれないが、前もってイベント前は開放しない等の周知をしてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・弟子屈町は子供主体または子供の参加できる様々なイベントがありとても充実しているが、春～秋がメインで冬のイベントとなると少し物足りない。冬の運動不足が改善できるイベントがあれば良い。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校～児童館までの距離がやや遠く、冬が心配。迎えの時間は夫婦共、仕事中で迎えに行けず、低学年なのでとても心配。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達支援センターへの児童の送り迎えをしてほしい</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳までの期限で15万円分の赤ちゃん金券を使用するのは少し難しい。購入条件の中にゴミ袋(オムツを捨てるのに必要)を入れて欲しい。又、せめて2歳までに期間延長してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援センターでは曜日によって利用できない年齢だったり、幼稚園の子は15時からと制限が多く、利用したい時に気軽に行けない。美幌駅の2階にある「きてらす」のように、平日、土・日・祝日空いていて細かい年齢制限なく遊べるスペースがほしい。0才～小学校低学年くらいまでの子が室内で自由に遊べて、無料で、お弁当を食べられるスペースもあり、兄弟がいても(幼稚園と小学生とか)遊びやすくてうらやましい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園を、もっと利用しやすくしてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・お金をあげる等の支援をしても少子化はおさえられないと思う。保育士の確保、保育士の技術の向上のための研修の機会の確保、雨の日、雪の日など外で遊べない時に(特に土日祝)子供が走り回れる場所の提供などの対策に力を入れてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育費が高く共働きをしている意味がない</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児教育無料化や高校進学無料化をして欲しい。医療についてもせめて中学卒業まで初診料のみにして欲しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校に上がってからの費用負担まで行政に頼ってはいけないと思う。そこは親の責任として貯蓄するなり対処すべきだが、相談する場所として気軽に話ができる所は必須だと思う。</li> <li>・医療費は、親の所得に限らず、子供1人に対してみんな均等にして欲しい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世帯収入に関係なしに子供が受けれる医療費助成や児童手当など平等にして欲しい。高い税金払ってるのに優遇されるどころか色々な面で損をするのはおかしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・産むまでの産婦人科への通院も大変だが、産まれた後の小児科への通院はもっと大変。子育てしやすい環境にしてほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てをしている母親世代の婦人科ガン検診受診率の低さが指摘されている。助成対象外の人が乳・子宮がん検診を受ける場合、1万円以上の支出となり、子育て世代のお母さん達が気軽に受けられるものではない。自覚症状が出てからの受診・診断では、治療にも時間が掛かり子どもをとりまく環境にも大きな影響が出るため助成対象年齢の拡大を検討してほしい。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・就学援助の受け取りを直接ではなく、銀行振込みなどにすると利用しやすくなる。</li> </ul>

<p>・発達障害児などへの情報の働きかけをもっときちんとしてほしい。健診やスクリーニングでわかっているのなら、その保護者と直接話し合うべき。どうしたら良いのかわからず困っている保護者が結構いる。</p>
<p>・病院が遠いため、就学前の子供の眼科・耳鼻科健診を定期的にしてほしい。</p>
<p>・子どもが町外の学校を希望した時にそういう選択もできる制度があるとよい。全ての子供が町内の学校に合うとは限らないため、これからは1つではない道があればと良い。</p>
<p>・子供が町外の学校へ行くという選択もできるように制度を整えて欲しい。地元に行ける(合う)子ばかりではないので色々な道があるといいと思う。</p>
<p>・世帯年収が200万円で進学させたくても進学させられない。下宿もできず通学も、交通費の関係で無理。夜、働いても、子供の預け先もなく、小学2年生の子どもが2時間程ひとりぼっちになることもある。高校へ進学しても教科書代、PTA会費(月に5000円)など色々かかる。学校にかかる費用をなんとかしてほしい。</p>
<p>・部活をやり続けたいため、釧路への進学を検討中だが、下宿などを考えると負担が大きく不安。地元でやり続けられれば良いが、やりたいことができないのが現状である。補助等があると助かる。</p>
<p>・生活保護を利用しているが高校の修学旅行費の半額でも出してもらえると助かる。</p>
<p>・働きたい母親はたくさんいる。子どもが体調を崩した時や仕事を休まざるを得ない時の職場の対応など、女性が働きやすい環境が必要。</p>
<p>・育児休暇が、産後すぐだけではなく、子育てしている父母がいつでも取りやすく、休んでも給料にひびかない社会であってほしい。</p>
<p>・子持ちの移住者だが、子供を持ちながら働ける環境を整えてほしい。仕事の情報、学童や児童クラブの情報、日常生活のこと(子供の冬の服装など)なども教えて欲しかった。宿題の量が以前の学校(公立)と比べて3分の1~4分の1程しかなく、将来の学力が心配。保育園(市立)でも、数字、ひらがな、習字、セカンドステップなどの取り組みがあった。少年団など体を動かす習い事や場所はたくさんあるが、勉強面やそれ以外の教育の面でも力を入れてほしい。</p>
<p>・病児保育や突然の発熱に対応してもらえるものがあると、少しでも職場に顔を出して働きやすい。自分でやれるだけのことは頑張っているが、ピンチの時の対応に不安がある。</p>
<p>・男性の育休とまでは行かなくても、定時に帰宅する等の配慮や、そういった環境を作って欲しい。</p>
<p>・屈斜路地区には住めるような場所がないため、どうにかしてほしい。</p>
<p>・住んでいるアパートが古く、引越したいが賃貸がない、公住も少ない、空家バンクも売買しかない。キレイな教員住宅が何年も使われず放置されているため、空いているなら貸してほしい。老朽化している民間アパートも耐震性の検査等、大家に促してほしい。</p>
<p>・子育て世代の家族がゆとりを持って暮せる住宅などの配慮をしてほしい。安心して暮せる場がほしい。</p>
<p>・弟子屈町の全地域が安心して安全な町作りをしてほしい。警察、消防、学校、公共施設など地域差が縮まるようにしてほしい。</p>
<p>・生活保護を受けながら、パチンコしてる人のために税金は払いたくない。本当に働けないのか、生活保護が本当に必要なのか、1人1人きちんと見直す必要があると感じる。</p>

## 2. 学校や社会のことについてのご意見やご要望(子どもによる回答)

子どもの学校や社会に対するご意見やご要望では、街灯や病院の充実、学校の先生や授業等に対する要望がみられます。

主な意見
・弟子屈は、自然が豊かではあるが、町中の廃墟などの景観を壊すようなものも多く、中途半端だと思う
・これから〇〇体験など、将来への準備ができるような機会を作って欲しい
・もっと楽しい町にしたい
・これからのことについてよかったところは続けて、よくないことはしっかり改善してほしい
・街灯増やしてほしい
・大きな信頼できる病院がほしい。
・もっとメディアは、公平平等に報道してほしい。
・学校は、とても楽しいしおもしろい。授業も楽しいし、分かりやすい。弟子屈小学校は、とてもいい学校だと思う。
・学校は、あまり楽しくない。
・休み時間長くしてほしい
・クラスがうるさくて、授業にあまり集中できない。不真面目でちゃんと授業をしてくれない先生がいる。
・生徒だけでなく、先生方も情報共有をちゃんとしてほしい。誰かが知っているからいいという考えもできるだけなくしてほしい。
・学校は不公平だ。先生達は差別をするのに、生徒に注意をしてくる
・先生が生徒に対して真剣に接してくれない。
・中学校の校舎で、ヒビ割れやドアのゆがみなどの欠陥工事が目立つ。本当にどうにかしてほしい。
・ミサイル警報が発令された際の身の守り方や避難所がよくわからない。もっと周知してほしい。
・学校ではもっと日本の歴史やエピソードを深く知りたい。風慣など古事記の内容、神道など日本の国だからもっと日本について知りたい。日本のことをよく知ってから外国にも目を向けていきたい。
・もう少し、音楽に力を入れて欲しい。高校には、吹奏楽を指導できる人がいない。1度でいいから吹奏楽で全道大会に行ってみたい。
・スポーツに対する意欲がない
・弟子屈高校は、海外との交流が活発になるといい。
・夏は暑く、冬は寒いため、体調管理がしにくい。
・雨もりがしている。グラウンドの雑草をどうにかしてほしい。コンクリの壁にはひびが入っている。体育館が一緒なため、教室があつい。部活をもっと活発的にしてほしい。そこまで勉強に力をいれなくてもみんなやっているから、SUTをなくしてほしい。
・給食センターが一緒なため、3・4時間目になると、匂いで気分が悪くなる。
・教室の作りがおかしい。ドアが一枚しかなく、風通しも悪い。校舎のデザインはよくても、実用性がない。
・不登校生が学校に行きやすい環境にしてほしい。相談室にいる役場の人は別な場所で仕事をしてほしい。不登校生が来て、会議室に居ても、4時間目になると先生方の給食準備のため会議室にいつらい
・「他にも、嫌なことがないか」みたいな質問もしてほしい。この調査を毎年やってほしい。
・親は、あなた方が思っているより、優しくない